

# 令和6年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書



調布市教育委員会

## 災害に強いまちを目指して

次代を担う子どもたちを中心に，地域・家庭と一体となった防災教育を推進し，一人一人の防災意識の向上により，地域社会の防災力を高める。

# 目 次

## 第1章 令和6年度事業の概要

1-1 調布市防災教育の日とは .....	2
1-2 令和6年度事業の概要 .....	4
1-3 令和6年度事業の総括 .....	13

## 第2章 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

2-1 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の概要 .....	16
2-2 訓練参加職員からの意見等について .....	20
2-3 保護者アンケート実施結果 .....	45

## 第3章 「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

3-1～20 小学校 .....	72
3-21～28 中学校 .....	92

## 〔資料〕

令和6年度 各学校実施内容（1～3校時） .....	102
----------------------------	-----



# 第1章

## 令和6年度事業の概要

### ねらい 東日本大震災の教訓を忘れない

- ◎「命の尊さ」について学ぶ
- ◎「自らの命は自らが守る」という意識を高め、児童・生徒自身が自助、共助のために必要な知識や行動様式を身に付ける
- ◎「地域と一体となった震災対応システム」を構築する



校庭への避難訓練（富士見台小学校）

## 1-1 調布市防災教育の日とは

平成23年3月11日に発生した東日本大震災がもたらした未曾有の被害に鑑み、調布市教育委員会においても、改めて自助意識の啓発や関係機関の連携を踏まえた全市的な対応の重要性を認識しました。

### ◆「調布市防災教育の日」の制定

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により多くの尊い生命が失われ、改めて「命の尊さ」について学ぶことや「自らの命は自らが守る」意識を高めて児童・生徒自身がそのための行動様式を身に付けていくことの重要性を認識しました。

このことから、調布市教育委員会では、平成24年2月に、調布市内のすべての児童・生徒が自助・共助の力を身につけるため、次の2点を目的に、毎年4月の第4土曜日を、「調布市防災教育の日」として決めました。

- ① 震災時の対応を学校の教育課程に明確に位置付け、防災教育を充実させていく
- ② 震災時対応シミュレーション(下記参照)の検証を行う

### ◆「調布市防災教育の日」の取組方針

調布市防災教育の日においては、児童・生徒に対する「命」の教育のほか、震災発生直後から学校関係者が行う初動対応や、地域の協力を得た避難所の開設と運営の訓練などを、学校と保護者・地域が一体となって、市立小・中学校全校で一斉に実施することとしました。

各校においては、次の3点を共通して取り組みます。

- ① 「命」の授業を1単位時間行う
- ② 防災に関する保護者・地域への啓発講話などを実施
- ③ 「震災時対応シミュレーション」の検証

### ◆震災時対応シミュレーションとは

震災時対応シミュレーションは、調布市立小・中学校28校において、学校の各施設や教職員の状況に応じ、発生後72時間(3日間)の対応事項を学校別に想定し、まとめたものです。

### ●発災想定

震災時対応シミュレーションでは、調布市において最も深刻な「多摩直下型の震度7の地震」の発生を想定し、発災想定時刻は、各学校の4校時授業中の「午前11時24分」としています。市内では倒壊家屋が多数発生し、京王線は運転を見合わせ、市内全域で電気・ガス・上下水道といったライフラインは全てダメージを受けて供給が停止、道路は損傷や渋滞で使用困難な状態です。

### ●震災時対応シミュレーションの構成

各校の震災時対応シミュレーションは、「学校現況等」（学校の周辺の施設や地理的特徴，学級数や生徒数などの学校概要，教職員のBCP（事業継続計画）想定状況，学区内の昼間・夜間人口数，避難所としての一時・長期収容可能人数，中学校においては生徒の奉仕活動の割当人数及び取組），教職員の対応時に想定される「係分け」，1～3日目までの「対応シミュレーション」の3部で構成されています。

### ●想定される係(例)

全体責任者を学校長とし，教職員は各係に分かれて対応します。シミュレーションでは，各係の担当教職員名を明記します。

#### ▼係の例

①児童・生徒対応班	情報連絡係，避難誘導係，消火・巡視係，救護係，搬出係
②避難所支援班	総務・情報係，避難所係，物資係，救護・衛生係

#### ▼震災時対応シミュレーションの例

**市立第一小学校のシミュレーション**

1 学校現況等

**周辺環境：** 調布駅近接。大型商業施設近接。甲州街道に隣接し，特別支援学級あり児童が多い大規模校。市役所からは一番近い小学校。電気通信大学や北多摩病院が近くにある。

**学校概要：** 19クラス，児童655人，特別支援学級固定学級3クラス19人，通級（きこえとことば）3クラス，都職員(教員・事務)38人，市職員(栄養士・給食調理員・業務員)5人。

**教職員対応：** 教職員自身の子どもの引き取り，家族介護等でやむを得ず1日目の終業時間後に帰宅することを想定する（40%減，38人→23人）なお，帰宅した職員については，各職場で事前に状況を把握し，交代で出勤する体制を組む。

**学区域人口：** 昼間人口約36,000人，夜間人口約20,000人

**収容可能人数：** 一時収容 966人，長期滞在 483人（地域防災計画による）

2 想定される係（全体責任者：学校長 \_\_\_\_\_）

児童対応班（責任者：生活指導主幹 \_\_\_\_\_） ◎は係の責任者

担当	業務内容	担当者
情報連絡係	人的・物的被害その他の異常事態を各係から報告を受け，学校長及び災害対策教育部へ連絡する。その他，災害に係る情報を収集し，関係者に連絡する。	—
避難誘導係	校庭（体育館）に避難誘導に当たる。広域避難所までの避難経路の確認を行う。児童の引渡しを行う。行方不明の児童の捜索を消火・巡視係に依頼する。	◎
消火・巡視係	校舎の被害の確認，行方不明の児童の捜索，初期消火，火元の遮断，出火防止対策，火災の警戒，ガス，水道等の元栓や理科薬品保管等の点検を行い，点検結果等を情報連絡係に連絡する。	◎
救護係	養護教諭を中心とする。救急薬品の確保，軽傷者への救急措置に当たる。重傷者については，応急手当を行い，災害対策本部，医療機関，医療救護所又は仮救護所に速やかに連絡をとるよう情報連絡係に指示する。心のケアへの対応をする。	◎
搬出係	重要文書の搬出。校舎内での火災や校舎への延焼のおそれがある場合は，非常持ち出し品を搬出し，管理する。なお，非常持ち出し品を搬出する事態が生じない場合は，他の係への応援要員とする。	◎

避難所支援班（責任者：副校長 \_\_\_\_\_）

担当	業務内容	担当者
総務・情報係	・避難所運営本部設置場所の決定 ・情報の収集，整理，確認及び伝達 ・避難者名簿の作成，整理，管理	—
	・避難所運営連絡会の設定 ・避難所内の情報提供場所の設置 ・市災害対策本部との連絡調整	—

避難所係	・避難所に使用するスペース ・避難者の誘導 ・ボランティアの組織化	・立ち入り禁止区域の指定 ・避難所生活のルール策定	◎
物資係	・防災備蓄用品の管理，配給 ・飲料水，生活用水の確保，配給	・救援物資の受入れ，整理，管理，配給 ・放き出し	◎
救護・衛生係	・医療救護所設置場所の事前確認 ・仮設トイレの確保・設置 ・トイレ，ごみ集積場の清掃	・医療救護所への協力（設置されない又は設置されるまで応急手当の実施） ・トイレ，ごみ集積場の清掃 ・衛生管理 ・PTSDへの対応	◎

1日目

時間	状況	調布市の対応	児童への対応	避難所対応
11:24	多摩直下型震度7の地震発生。倒壊家屋多数。京王線運転見合わせ。市内全域で電気・ガス・上下水道供給停止。道路は通行不能又は渋滞	市民に対し，防災行政無線で，地震の情報，火元の確認を周知する（総合防災安全課）	〈学級担任〉 ①児童に防災頭巾を被らせ机の下へ避難など安全確保（1次避難） 〈清火・巡視係〉 ①給食調理員は，給食室の火気の安全を確認し所定の役割担当に従事	◎ 避難所運営 →震災初期段階では，教職員が中心的な役割を担う（地域防災計画・学校防災7-76）
			◎ 〈避難誘導係〉 ①伊東・高野教諭は体育館の安全確認。その後，一旦体育館に避難（2次避難） 〈救護係〉 ①廣瀬教諭は児童の負傷状況の状況確認。応急処置	◎ 学校と地域 →避難所運営は，避難者と地域の協力を得て実施。
			◎ ◎ 物資品と備蓄品の確認 →1日頃から教職員全員が備蓄品と備蓄庫（校庭南側・体育倉庫棟）の鍵の所在を把握しておく	◎ ◎ 役割分担の確認 →学校は，児童の安全確保体制，避難所開設体制がとれるよう役割分担しておく

※学校長を学校災害本部長とし，生活指導主任・学級担任26人で保護者の引き取りまで児童対応。避難所開設・運営は副校長ほか11人と市職員5人で従事

## 1-2 令和6年度事業の概要

令和6年度の調布市防災教育の日は、令和6年4月27日土曜日に実施しました。事業開始から13年目、12回目(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため、中止)となっていることから、本事業への理解が学校関係者、保護者、地域住民等へ広がっています。

令和6年度は、令和元年度以来5年ぶりに保護者・地域の方向けに、学校教育活動の公開を実施しました。

### ◆令和6年度事業における事業概要

#### 1 実施日・場所

令和6年4月27日(土)

市立全小・中学校28校，大町スポーツ施設(市統一テーマ訓練のみ)

#### 2 事業概要等

##### (1) 事業概要

時間	学校教育活動(小学校例)	市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」
8:45 9:30	1校時 防災啓発講話 (保護者・地域へ公開)	
9:45 10:30	2校時 「命」の授業 (保護者・地域へ公開)	9:45 市職員・地域の方集合 ・一日の流れの確認  避難所開設訓練 ・避難スペース設置，避難所受付準備 ・避難所体験の準備 等
10:45 11:00	3校時 安全指導 11:00 発災 避難訓練・引取訓練 ・校庭への避難 ・講評(校長・副校長) ・保護者による引取	
11:20	下校 避難所体験 (小6児童・中3生徒とその保護者)	避難所体験 ・小6児童，中3生徒とその保護者が体験(任意参加) ・避難所受付，備蓄品，避難スペースなどを確認・体験
12:00		ハイブリッド発電機・特設公衆電話の設置訓練  意見交換(訓練振り返り，課題抽出等) 片付け・終了報告
13:15		訓練終了

## (2) 学校教育活動

### ア 「命」の授業・防災啓発講話

児童・生徒に命の尊さや「自らの命は自らが守る」意識を高める「命」の授業を実施しました。また、調布消防署員及び国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員による、地震・水害をテーマとした講話（録画）や、調布警察署員や東日本大震災の被災地等の講師による、実体験に基づく防災啓発講話を実施しました。

▼「命の授業」：机の下に身を隠す練習  
（染地小学校）



▼煙体験訓練（調布中学校）



▼防災教育 VR「B-VR（ビーバー）」（東京消防庁）を活用した授業（調和小学校）



▼東日本大震災の復興に尽力された方による講話（ライブ配信）（神代中学校）



### イ 避難訓練・引取訓練

全学年一斉に避難訓練を実施し、校庭への避難後、校長・副校長から避難訓練の講評がありました。また、各学校から保護者宛に「すぐーる（調布市学校安全・安心情報配信システム）」を用いて引渡し時刻等を周知のうえ、保護者による引取訓練を実施し、多くの保護者の方に御参加いただきました。

▼校庭への避難訓練（上ノ原小学校）



▼校庭への避難訓練（神代中学校）



### (3) 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

訓練テーマを「避難所開設訓練」と題し、避難所開設時に各学校避難所に参集する市職員及び地区協議会\*等の地域の方（自治会・地域学校協働本部\*のコーディネーター・調布市防災市民組織\*含む。）との協働により、令和元年東日本台風（以下、令和元年台風19号と表記）における避難所開設時の課題を踏まえた訓練を行いました。また、令和6年度は、新たに小6児童・中3生徒及びその保護者を対象とした「避難所体験」を体育館で実施（参加者数1,828人（児童・生徒975人、保護者749人、その他104人））しました。

#### 【訓練内容】

校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法の確認，図上訓練（避難所利用計画図\*），防災備蓄倉庫確認，避難所体験（小6児童・中3生徒及びその保護者対象），ハイブリッド発電機模擬設置訓練，特設公衆電話設置訓練 等

#### 【訓練参加者数】

941人（市職員478人・教員77人・地域住民386人）

##### ▼開錠・施錠方法確認（体育館）



##### ▼ハイブリッド発電機模擬設置訓練



##### ▼避難所体験



##### ▼防災行政無線送受信訓練



\*地区協議会：地区協議会は、小学校の学区をエリアとして、地域で活動する自治会や学校関連団体などにより構成されたネットワーク組織で、令和6年8月現在、市内全20の小学校区中、18の小学校区に設立されている。防災については、特に全地区共通の課題として捉えられており、避難所運営マニュアルの策定や、調布市防災教育の日における協力など、積極的な取組がなされている。

\*地域学校協働本部：学校支援活動をはじめとして、幅広い地域住民等の参画を得ながら、「学校を核とした地域づくり」を目指すための仕組み。調布市では、令和3年4月に全小・中学校で「地域学校協働本部」を設置し、今まで以上に学校と地域人材が組織的に結びつき、学校教育に参加できるような体制を整備した。

\*調布市防災市民組織：自治会やマンション管理組合等の下部組織として、災害時の被害防止・軽減に係る活動と防災意識の啓発活動を行い、自助・共助の取組を推進していただく団体。「自分たちのまちは自分たちで守る」を基本理念として、市内各地域において活躍されている。

\*避難所利用計画図：避難者の避難場所や動線を示したもの。地域の方々との意見交換等を踏まえ、改善を進めている。

### 3 連携・協働の取組について

#### (1) 調布消防署との連携

調布消防署には、初年度の平成24年度から地域・保護者への啓発講話の講師等をお願いしています。

輪番校として定める4校（第一小学校、国領小学校、布田小学校、調布中学校）に対して、署員並びにVR防災体験車、まちかど防災訓練車、起震車等の車両を派遣していただき、参加・体験型の授業を実施していただきました。

また、地震をテーマに小学校低学年、中学年、高学年・中学生向けに分けて作成いただいた防災啓発講話（録画）を、実施希望校（8校）において視聴しました。

▼まちかど防災訓練車による消火訓練（第一小学校）



▼VR防災体験車による被災疑似体験（国領小学校）



▼担架作成訓練（布田小学校）



▼起震車体験訓練（調布中学校）



#### (2) 調布警察署との連携

調布警察署には、平成26年度から、防災講話の講師等をお願いしています。

令和6年度は、輪番校として定める1校（八雲台小学校）に対して、防災啓発講話における講師として署員の方を派遣していただきました。

▼防災啓発講話聴講の様子（八雲台小学校）



▼防災啓発講話聴講の様子（八雲台小学校）



### (3) 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所との連携

水害をテーマに小学校低学年，中学年，高学年，中学生向けに分けて作成していただいた防災啓発講話（録画）を，実施希望校（16校）において視聴しました。

▼防災啓発講話視聴の様子（北ノ台小学校）



▼防災啓発講話視聴の様子（第八中学校）



### (4) 鹿島建設株式会社 技術研究所との連携

調布スマートシティ協議会の会員団体である鹿島建設株式会社技術研究所の方々に御協力をいただき，同協議会の活動として，飛田給小学校の6年生を対象に，水害のリスクや多摩川の特徴についての講義，水害についてのクイズなどを児童のタブレットを使用し，実施いただきました。

▼授業の様子（飛田給小学校）



▼授業の様子（飛田給小学校）



### (5) 東日本電信電話株式会社 東京武蔵野支店との連携

調布スマートシティ協議会の会員団体であり，市と「活力ある継続可能なまちの実現に向けた多分野連携協定」を締結している東日本電信電話株式会社 東京武蔵野支店の方々に御協力をいただき，第二小学校の6年生を対象に，災害用伝言ダイヤル（171）・災害用伝言版（WEB171）体験，公衆電話のかけ方，学校周辺の公衆電話の探し方等を講義いただき，公衆電話機を使用した操作体験を実施いただきました。

▼授業の様子（第二小学校）



▼授業で使った公衆電話機（第二小学校）



## (6) 地域との協働(市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の実施)

地区協議会等の地域の方(令和4年度から地域学校協働本部のコーディネーター及び防災市民組織の方も参加)と市職員が協働で訓練を実施しました。当日は、市立小・中学校全校及び大町スポーツ施設を会場として、校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法の確認、防災行政無線送受信訓練、ハイブリッド発電機模擬設置訓練、体育館での避難所体験等を実施しました。

▼地域との協働による訓練(第三小学校)



▼地域との協働による訓練(上ノ原小学校)



▼地域との協働による訓練(柏野小学校)



▼地域との協働による訓練(国領小学校)



## (7) NPO法人調布心身障害児・者親の会、一般財団法人調布市市民サービス公社との協働

NPO法人調布心身障害児・者親の会、一般財団法人調布市市民サービス公社の方々についても、地域の方や市職員が実施する福祉避難所開設訓練(入間地域福祉センター)に参加していただき、災害時避難行動要支援者及び施設管理者の立場から御意見をいただきました。当日は、震災時における福祉避難所開設の流れ、本部の運営体制などを確認しました。

▼施設の開錠方法を確認する様子



▼避難所利用計画の検討



**(8) 市内都立・私立学校との連携**

市内都立・私立学校の7校に御協力いただき、防災教育の日と連携した取組として避難訓練等を実施いただきました。なお、市内都立・私立学校における取組は、防災教育の日と同日の4月の第4土曜日に限らず、周辺の日程で実施いただきました。

▼訓練等の概要（人）

実施校	訓練の概要	参加者数
東京都立調布北高等学校	避難訓練後、第1学年を対象に、消防署の指導の下、放水訓練、心肺蘇生法、AED操作などの体験を実施（4月17日実施）	239
東京都立調布南高等学校	午後2時20分に管理棟4階・調理室から出火があったとの想定で避難訓練を実施（当初はグラウンドへの避難を予定していたが、雨天のため急遽、体育館への避難に変更） 避難訓練では、副校長の講評の後、グラウンドから外への経路及び出口の確認、防災備蓄倉庫の所在確認を実施（4月24日実施）	750
東京都立神代高等学校	【全日制】 第1学年を対象に、防災訓練として、非常食、非常用飲料水の配布訓練及び実食体験を実施 【定時制】 全校生徒を対象に、火災想定での避難訓練として、屋外非常階段を利用した避難、避難経路確認を実施 （5月1日実施）	356
明治大学付属明治高等学校・明治中学校	中学生・高校生・教職員を対象に、第4時限目途中に震度6強の地震発生を想定。緊急地震速報受信機の試験放送を行い、机の下に隠れた後、教員室前からの出火を想定し、校舎からグラウンドへの避難訓練を実施 （4月30日実施）	1,465
晃華学園中学校高等学校	11時25分に火災が発生したという想定で全校生徒約1,200名が避難訓練を実施 （5月10日実施）	1,200
桐朋女子中学校・高等学校	大規模地震後、校舎内で火災が発生したことを想定した避難訓練を実施。桐朋小学校、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校、桐朋学園芸術短期大学の児童、生徒、学生、教職員が参加 （5月29日実施）	1,700
ドルトン東京学園中等部・高等部	中学1～高校3年生を対象に、5限目に地震を想定した避難訓練を実施（4月26日実施）	730
計		6,440

▼放水訓練（東京都立調布北高等学校）



▼避難訓練（東京都立調布南高等学校）



▼避難訓練（東京都立神代高等学校）



▼避難訓練（明治大学付属明治高等学校・明治中学校）



▼避難訓練（晃華学園中学校高等学校）



▼避難訓練（桐朋女子中学校・高等学校）



## (9) 市長部局各部との連携

初動要員<sup>\*</sup>、避難所担当職員<sup>\*</sup>、学校避難所対応職員<sup>\*</sup>、避難所担当管理職員が各小・中学校及び大町スポーツ施設において市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」を実施しました。また、令和5年度途中採用の職員及び令和6年度新規採用の職員が市統一テーマ訓練に参加し、訓練後には、消防大学校において調布市消防団の地域防災に関する訓練に参加しました。

**\*初動要員**：休日・夜間時に災害が発生した際、市災害対策本部設置までの間の情報収集と緊急対策活動を展開するための体制として、市内に居住する職員の一部を、初動要員（初動本部員及び避難所初動要員）として指定しており、担当する避難所（学校）の防災備蓄倉庫の鍵を保持している。

**\*避難所担当職員**：開庁時に災害が発生した際や避難を要する期間が長期にわたる場合に、避難所の開設・運営を行う職員として、避難所担当部（市民部・子ども生活部・福祉健康部・教育部）内において指定している。

**\*学校避難所対応職員**：避難所（学校）の体制強化を図るため、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員（正規・再任用職員の用務員・給食調理員・栄養士及び教育部教育総務課雇用の会計年度任用職員（用務員・給食調理員・事務））を学校避難所対応職員として指定（令和5年度から教育部学務課雇用の会計年度任用職員（学校栄養士専門員・技能補助員（応援給食調理員））を追加している。

## (10) その他

フードロスの観点や児童・生徒への防災教育の一環として、防災備蓄倉庫にある今年度入替予定のアルファ米を防災教育の日前後の日程において市立小・中学校全校の給食で提供しました。また、第三小学校・深大寺小学校・杉森小学校の児童が、災害時を想定し、アルファ米の調理を体験しました。

▼給食の様子（アルファ米五平餅）（第一小学校）



▼災害時の備蓄食料「アルファ米」調理体験の様子

（深大寺小学校）



## ◆参加者数の推移

▼平成24年度（実施初年度）及び平成29～令和6年度の参加者数推移（人）

参加者区分	H24	H29	H30	R元	R3	R4	R5	R6
学校（教職員※ <sup>1</sup> ，児童・生徒※ <sup>2</sup> ）	14,853	15,903	15,921	15,947	16,685	16,967	17,097	17,216
保護者	10,223	13,334	13,616	13,836			12,002	12,779
地域	1,728	1,010	957	660		289	319	386
市職員（避難所担当職員* <sup>3</sup> ・初動要員・学校避難所対応職員等）	90	313	311	313	490	510	510	478
消防※ <sup>4</sup> ・警察職員※ <sup>5</sup>		136	128	114	43	45	31	46
<b>合計</b>	<b>26,894</b>	<b>30,696</b>	<b>30,933</b>	<b>30,870</b>	<b>17,218</b>	<b>17,811</b>	<b>29,959</b>	<b>30,905</b>
前年度比増減		+259	+237	▲63	▲13,652	+593	+12,148	+946

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※1 各年度実施日当日の在籍教職員数

※2 各年度5月1日現在の在籍児童・生徒数

※3 本部要員を含む。

※4 消防団員を含む。

※5 警視庁職員を含む。

なお、上表に、調布市内の東京都立高等学校及び私立学校の参加者数（P.10(8)の表）は含んでいない。

## 1-3 令和6年度事業の総括

### より実効的な防災・減災の取組へ

東日本大震災の発生から13年が経過しましたが、この間も地震や豪雨、台風などの自然災害が日本列島を襲い、令和元年台風19号では、調布市でも多くの家屋が浸水し、市制施行後初めて避難勧告を発令して多くの方が避難所に避難されました。

地形の特性上、日本のどの地域においても地震や豪雨、台風などの自然災害が発生する可能性があります。しかし、災害の教訓から学び、備えることはできます。

災害から身を守り、被害を少なくするうえで最も大切なのは、自らが自らの命を守れるよう、普段から意識を持ち、備蓄を行い、家族と避難方法や集合場所を確認するなど、万全の準備と対策を行っておくことです。そして、いざ避難することとなった場合に備え、避難所となる学校等において、普段から教職員、市職員、消防、警察や地域の方々との連携を図り、訓練を積み重ねておく必要があります。

「調布市防災教育の日」は、令和6年度で12回目の実施となりました（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業のため中止）。

令和6年度は、学校教育活動においては、令和元年度以来5年ぶりに保護者・地域の方向けに授業公開を行い、「命」の授業、防災啓発講話、引取訓練を実施しました。また、避難所開設訓練では、「避難所開設訓練」を市統一テーマとし、昨年に引き続き、市職員及び地区協議会等の地域の方との協働による訓練を市内各小・中学校28校及び大町スポーツ施設で実施し、新たな取組として、小6児童・中3生徒及びその保護者を対象に避難所体験を実施しました。

本年1月には能登半島地震、そして4月には台湾花蓮地震の大地震が発生し、予測不能な大災害への備えは喫緊の課題となっております。首都直下地震や記録的豪雨などによる大規模な災害時には、一定期間、電気・上下水道・ガスなどのライフラインや物流が途絶える可能性があります。相当な混乱が予想されます。避難所の生活は非常に厳しく、市職員だけでなく、その場にいる全員が当事者として協力し、互いに支え合うことが重要となります。

平常時から、災害時の状況を想定した訓練を実施し、市民、学校、関係機関が一堂に会してお互いの顔や課題を確認し合うという点において、調布市防災教育の日は一定の成果を重ねてきました。しかし、近年の自然災害を踏まえた訓練内容の見直しや、さらなる防災意識の啓発、関係機関との円滑な連絡・調整など、改善すべき課題も少なくありません。

来年度以降も、引き続き、市・学校・地域・関係機関がそれぞれの役割を発揮し、災害時に適切な対応が行えるよう、連携・協働により、訓練の充実を図ってまいります。



# 第2章

## 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

**ねらい** 東日本大震災、令和元年台風19号等の教訓を生かす

- ◎「不測の事態への備え」と「不断の備え」を怠らない
- ◎避難所開設・運営訓練に関する対応能力の向上・意識啓発に向けた効果的な訓練の実施及び地域との協働，学校・関係機関との連携の強化



市統一テーマ訓練（避難所体験（携帯トイレ設置の様子），八雲台小学校）

※本章に掲載した職員からの意見等，保護者アンケートの自由回答については，原則として原文のまま掲載しています。ただし，編集の都合上，括弧書きで補足している場合や個人名等に関する記述を省略している場合があります。

## 2-1 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の概要

災害発生時には、調布市地域防災計画に基づき、市職員による災害への対応を行います。市役所開庁時には、避難所担当職員が、休日・夜間など市役所閉庁時には、初動要員が避難所となる学校に参集し、避難所の開設や運営などの対応を行います。また、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員を学校避難所対応職員に指定(令和5年度からは、教育部学務課雇用の会計年度任用職員(学校栄養士専門員・技能補助員(応援給食調理員))を追加)しています。発災時には避難所担当職員や初動要員とともに避難所の開設や運営などの対応を行います。

このため、調布市防災教育の日では、平成30年度から市統一テーマを定め、市立小・中学校全校(大町スポーツ施設を含む。)において、地区協議会等、地域の方と協働による訓練を実施しています。

平成30年度及び令和元年度の2年間の市統一テーマは「避難所におけるトイレの確保・管理」と題し、各避難所の災害時のトイレの状況を確認し、災害時に使用するマンホールトイレ・組立トイレの設営訓練を行うとともに、避難所におけるトイレの課題を共有しました。

また、令和3年度から令和5年度までは、市統一テーマを「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、訓練を実施しています(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため中止、令和3年度は市職員のみで実施)。

### ◆訓練の概要

市統一テーマ訓練を「避難所開設訓練」と題し、発災時における避難所の「円滑な初期対応」を習得するための訓練を行いました。今年度は、学校の授業公開に伴い、市統一テーマ訓練に参加いただく地域の方が学校の授業をご覧いただけるよう、訓練開始時間を1校時終了時刻以降に変更して実施しました。

#### ▼目的、内容等

実施日時	令和6年4月27日(土) 午前9時45分から午後1時15分まで
参加職員	合計941人(各部管理職・避難所担当職員(教育部, 市民部, 福祉健康部, 子ども生活部)・初動要員・学校避難所対応職員等478人, 教員77人, 地域住民386人)
訓練の目的	令和元年台風19号の避難所開設時における課題を踏まえた避難所開設訓練を実施することで、発災時に円滑・適切に避難所開設・運営が行えるようにする。
訓練の内容	校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法の確認, 建物利用調査, 図上訓練, 防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し, 避難所体験マップ(VACAN)の入力, 防災行政無線送受信訓練, 避難所体験(小6児童・中3生徒及びその保護者対象), ハイブリッド発電機模擬設置訓練, 特設公衆電話設置訓練

## ▼タイムスケジュール（例）

時刻	訓練内容	訓練詳細
9:45	集合	・避難所担当職員のリーダーを中心に出席確認、自己紹介、訓練の流れの確認
10:05	開錠・施錠方法の確認（校門・校舎・体育館）	・「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に、校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法を確認
10:20	建物利用調査	・避難所としての使用可否を判断するため建物外観・内部で確認するポイント等を確認
10:25	図上訓練	・避難所利用計画図を用いて総合案内の場所、各受付・避難場所（一般避難者、要配慮者、発熱者等、ペット）、避難者の動線、使用可能教室を確認
10:30 ～ 11:20	防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し、避難所体験準備、避難所混雑マップ（VACAN）の入力	・備蓄品の確認及び避難所体験時に使用する物品持ち出し ・避難所体験準備として、学校体育館にて、防災備蓄倉庫から持ち出した物品を展示スペースに配置 ・避難所の開設状況や混雑状況を確認できるサイトに、緊急対応用携帯電話（スマートフォン）を用いて情報を更新
10:40	防災行政無線送受信訓練	・各避難所から避難所運営本部（教育総務課）に対し、デジタル防災行政無線を用いて各避難所の状況を報告
11:20 ～ 12:00	避難所体験	・地域の方々と職員が連携・協働し、受付体験、避難スペース体験、トイレ体験、食料品・飲料水展示、その他備蓄品展示、地区協議会ブース（任意）において、参加者（小6児童・中3生徒及びその保護者）に説明・体験、備蓄品等の配布を実施
12:00	ハイブリッド発電機模擬設置訓練	・分電盤の場所やケーブルの接続確認を実施
12:10	特設公衆電話設置訓練	・特設公衆電話と体育館出入口付近に設置されている電話ボックスの接続を実施。その後、特設公衆電話の接続確認を実施
12:20	片付け	・使用したものを元の場所に返却
12:50	振返り、終了連絡	・全体で訓練の振返りを実施 ・緊急対応用携帯電話（スマートフォン）内にあるLINEWORKSを使用して避難所運営本部（教育総務課）へ訓練終了を報告
13:15		訓練終了

## ●集合

初動要員・避難所担当職員・学校避難所対応職員・避難所担当管理職員及び地域の方は、集合時刻に、担当している避難所（学校）に参集（調布市では、第3非常配備態勢\*の場合、全職員が災害対応に当たることとされています）しました。

調布市教育会館では、各避難所からの情報集約や必要事項を連絡するため、避難所運営本部（教育総務課）を設置しました。

\*第3非常配備態勢：調布市の防災大綱である「調布市地域防災計画」に定められている。市職員の配置基準のうち最大レベルの態勢で、調布市において震度6弱以上の地震が発生した場合など、大規模な災害が発生した場合に発令され、全職員が災害対応に当たることとされている。

## ●開錠・施錠方法の確認(校門・校舎・体育館)～図上訓練

午前9時45分に各避難所に集合した市職員（初動要員，避難所担当職員，学校避難所対応職員及び避難所担当管理職員）及び地区協議会等の地域の方（自治会の方・地域学校協働本部のコーディネーター・調布市防災市民組織の方を含む。）は，訓練の流れ等の確認をした後，「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に，校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法を確認しました。その後，建物が避難所として使用できるかを確認する建物利用調査（令和6年度は，流れの確認のみ実施）を行い，図上訓練として，学校体育館で避難所利用計画図を用いて総合案内，各受付，各避難場所等の確認を行いました。

### ▼校門の開錠・施錠方法の確認



### ▼図上訓練の様子



## ●防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し～防災行政無線送信・受信訓練

防災備蓄倉庫へ移動し，格納されている備蓄品の確認を行った後，避難所体験に必要な物品を体育館に持ち出しました。その後，避難所体験準備として，学校体育館にて，防災備蓄倉庫から持ち出した物品を受付や避難スペースなどの展示スペースに配置しました。避難所体験の準備を進める合間に，今年度から各学校に設置をしている緊急対応用携帯電話（スマートフォン）を用いて避難所の開設状況や混雑状況を確認できる避難所混雑マップ（VACAN）の入力，防災行政無線のグループ通信を用いて，各避難所の状況を避難所運営本部（教育総務課）に報告する訓練を行いました。

### ▼防災備蓄倉庫確認



### ▼避難所体験準備



## ●避難所体験～振り返り

保護者による引取訓練後、避難所体験に来た小6児童・中3生徒及びその保護者に対して、市職員と地域の方々が連携・協働し、受付体験、避難スペース体験、トイレ体験、食料品・飲料水展示、その他展示のブースに分かれ、受付や備蓄品の説明を行いました。体験に来た方々には、実際にブルーシートで敷いた避難スペースに寝転んだりして広さを確認したり、エマージェンシーシートを羽織り温暖効果を体験したほか、携帯トイレの設置体験や、避難所で配布される食料品や備蓄品を手に取り体験していただきました。

避難所体験終了後、屋外においてハイブリッド発電機模擬設置訓練として、分電盤の場所やケーブルの接続確認を実施しました。続いて、特設公衆電話と体育館出入口付近に設置されている電話ボックスを接続後、特設公衆電話から緊急対応用携帯電話（スマートフォン）に電話をし、接続確認を行いました。その後、片付けを行い、全体で訓練の振り返りを行いました。

### ▼避難所体験の様子（避難スペース体験）



### ▼避難所体験の様子（トイレ体験）



### ▼避難所体験の様子（食料品・飲料水展示）



### ▼避難所体験の様子（その他展示）



## ●緊急対応用携帯電話(スマートフォン)を用いた通信訓練

訓練終了後は、緊急対応用携帯電話（スマートフォン）内にあるLINEWORKSを使用して避難所運営本部（教育総務課）に訓練終了の報告を行い、現地解散しました。

### ▼緊急対応用携帯電話（スマートフォン）



### ▼各避難所→避難所運営本部への報告訓練



## 2-2 訓練参加職員からの意見等について

訓練に参加した職員から、以下の意見が出されました(協働による訓練に参加された地区協議会の方等、地域の方から職員が聴取した意見等が含まれています)。

出された課題を検討し、検討結果については、地区協議会連絡会、防災教育の日の説明会等を通じて、地域の方や市職員等と共有し、次回以降の訓練へ反映するなどにより、発災時の迅速かつ適切な対応に繋げることとします。

番号	項目	意見等
1	地域との協働・学校等との連携	学校には、事前に初動要員の職員と下見に行き、校長先生に挨拶し、副校長先生と学校用務職員とで、備蓄倉庫や体育館を確認した。顔合わせをしていたので、当日も悪天候にもかかわらず、連携が取れた訓練ができた。また、地域の●●の副会長にも前日に連絡し、体育館の保護者使用や、参加人数等についても情報共有していたため、当日もチームとして協力していただけて、いい訓練ができたと感じた。
2		昨年と同様に地域の方の参加が多く見られた。避難所の開設、受付訓練等を通じて避難所運営の課題を共有することができており、地区協議会をはじめ地域の皆様の防災意識の高さを改めて感じました。
3		●●協議会や地域の有料老人ホームからの参加があり、顔合わせと意見交換を行うよい機会となった。有事の際は、このメンバーで対応することを意識することができた。
4		このような訓練が年間複数回あれば災害時に役立つのではないかと。市全体の訓練は、防災教育の日に集約して実施することとし、地域毎の訓練等も重要視していくことが大切であると考えます。今回のような訓練は、地域の方々や学校職員等の顔合わせの機会でもある。災害時には「顔を知っている」ことは役立つことが考えられる。また、防災備蓄倉庫の内容や無線、電話等備品の場所や使い方等の理解を共有することが出来たことは大切なことである。
5		全体を通して、リーダーのもとで、地域の方々と協力し、スムーズで有意義な訓練ができた。一方抽出された課題も多く、一つ一つ解決していかなければならないと感じた。
6		地区協議会が新たに設置されたことから、市民の方の参加が増えた。地区協議会の関係者からは地域の方の参加を増やしたいとの意見があった。地区協議会ができて間もないこともあり、周知が十分でなかったかもしれないので、市と連携しながら周知を進める必要があると感じた。
7		地域の方たちの積極的な協力により、備蓄倉庫からの持ち出しや避難所体験の準備など素早く行えた。
8		地域学校協働本部の方が自身の最寄りの避難所と地域学校協働本部の学校が違うため、この訓練に参加しても、災害時に実際に訓練した学校で対応が難しいとのご意見があった。今後とも、地域の方との連携が必要。
9		地域学校協働本部の方が自身の最寄りの避難所と地域学校協働本部の学校が違うため、この訓練に参加しても、災害時に実際に訓練した学校で対応が難しいとのご意見があった。地域コーディネーターではなく、●●小学校が最寄りの避難先である学校ボランティアに参加してもらった方が有効なのではないか。発災時は平日の日中であることも想定して、どのような連携が図れるのかを含め確認をしておきたい。また、実際の発災時には、何らかの協力を得られる可能性があるならば、訓練時においても形式的な顔合わせだけでなく、共同作業を実施することは有意義ではないかと考える。
10		地区協議会の主たるメンバーは高齢化が進んでおり、避難所の設営については手伝える範囲が限定的になるとの意見があった。避難所開設にあたっては力仕事や責任を伴う業務がある一方で、避難所を利用する市民への案内など、地域の力がより生きる場面が想定される。また、避難所利用者には高齢者以外の方もいると考えられるため、地区協議会以外の方にも声掛けするなどし、協働で作業をしていく。
11		防災意識を高め、対応能力を向上させるために、市と地域の方が協働で行う大規模な訓練の実施や、的を絞った小規模な訓練の回数を増やすことなどが必要との意見があった。

番号	項目	意見等
12	地域との協働・学校等との連携	地域にある●●グループ(●●)の方が地区協議会として参加していました。施設内に食料品の備蓄が潤沢にあり、地域のために提供するとの御意向がありました。地区協議会の方と今後連携されるとのことでしたので、市としても防災時の連携が望める施設でした。市全体の訓練は、防災教育の日に集約して実施することとし、地域毎の訓練等も重要視していくことが大切であると考えます。今回のような訓練は、地域の方々や学校職員等の顔合わせの機会でもある。災害時には「顔を知っている」ことは役立つことが考えられる。また、防災備蓄倉庫の内容や無線、電話等備品の場所や使い方等の理解を共有することが出来たことは大切なことである。
13		●●小では●●小キャンプをこれまで毎年実施し、テントの張り方などに精通。設営については積み重ねが必要である。避難所開設後も見通すと顔見知り同士になっておくことが必要に感じる。
14		●●小は、地域の方がとても協力的だと感じる。コロナ禍でしばらく実施できなかったが、毎年”●●小キャンプ”を実施しており、子どももテント張り体験をしている。設営には積み重ねが必要。避難所を開設した場合、知っている人が居ると居ないではまったく違う。地域の人と顔見知りになっておくことは重要である。わかっている人(リーダーになれる人)が1人居ると、スムーズに運営できると思う。今後とも、地域の方との連携が必要。
15		説明会に参加している地域の方が一人であったため、当日訓練内容を知る方が大半であった。地域との協働による訓練の実施という目標から考えると、参加者への事前周知がもう少し必要だと思われまます(職員が地域の方に事細かに指示して準備してもらうという形になりがち)。
16		平日の学校が稼働しているときに災害が生じた場合の、訓練も必要ではないか。学校稼働日については、先生と市職員の協働作業となるので、今後検討の必要があるのでは。
17		●●中学校から下記の通り御意見等がありました。中学生に授業の一環として防災教育を行ってほしい。初動要員や避難所担当として配置されている職員からの授業が理想。(校長先生から)3年生のみとの指定だが、部活動前の生徒についても体験の参加や片づけ等を行いたい。(副校長先生から)3年生に限定せず全学年の生徒・保護者に体験してほしい取り組みである。(生活指導の先生から)総じて防災教育の日非常に協力的な学校でした。当日の運営上は非常にありがたかったです。当日副校長先生からの御提案を受け、バスケ部の皆様に体験をしていただいたほか、片付けのお手伝いをいただきました。別日での防災教育については、通常業務の兼ね合いから初動要員や避難所担当からの実施は現実的ではないかと感じています。総合防災安全課の出前講座の一環等での対応をお願いします。次年度以降の取り組み拡大の中で、他学年生徒の参加についても御検討をお願いします。
18		地域住民の参加状況から、発災時に●●中に避難してくる地域住民がどれだけいるのか疑問に思う。当該地域には、●●小の避難場所があり、地区協議会や健全育成などの地域に根付いた主だった団体は、●●小避難場所へ参集するのではないかと。地域住民への、●●中避難所の周知とともに●●小との地域の住み分けや役割分担などの点で、「●●中・●●小地区」として2か所が連携した避難所としての在り方を検討すべきではないかと考える。
19		前述しているが、学校が避難所体験を任意としたため、避難所体験に見学にくる中学生がほとんどいなかった。「学校は防災教育の日を市が主催して行っている事業であって、自分たちは関係ないことと思っているのではないかと」地域の方々からの不満が多かった。また、中学生には避難所の開設準備等に携わってほしいとの意見が多数あった。学校側に防災教育の日の意義等を教育部からきちんと説明をする。中学生の協力体制については、検討・協議が必要。
20		学校との連携において、毎回、訓練終盤に教師の方が体育館を訪れて所感を述べていただけるが、実際に物品の確認、搬入ほか訓練の実施を協働で実施するまでには至っていない。発災時は平日の日中であることも想定して、どのような連携が図れるのかを含め確認をしておきたい。また、実際の発災時には、何らかの協力を得られる可能性があるならば、訓練時においても形式的な顔合わせだけでなく、共同作業を実施することは有意義ではないかと考える。
21		発災時を想定した小学校校舎での避難訓練を一度は実施してみたい。発災から教育総務課職員が到着するまでの対応確認・校舎の開錠施錠訓練・避難所開設訓練(校舎)・避難者誘導訓練(校舎)など。

番号	項目	意見等
22	地域との協働	災害時に避難者の入口、受付とすべき場所が日常的に学校の備品置場のように使用されているとのことでした。今回は、訓練のため、その場所を使わずに準備をしましたが、いざ、災害が起きた時に速やかに準備を行うことができないのは問題であり、学校には、備品の片付けも含め、災害時には体育館が避難所になる場所だという認識を持ってもらう必要があると感じました。学校の意識の変化が必要。総合防災安全課や教育委員会事務局から適宜、働きかけを行って欲しい。
23	・学校等との連携	現地に行つての訓練が出来ないので、災害時には対応できるかわからない。現在、工事中であり、特に校舎と体育館のアクセスが悪い。このことを知らない人が多い。場所が●●市に隣接しているので、●●市の避難者の対応を明確にしてほしい。一つの自治会でも避難場所が●●小と●●高校に分かれてしまっている。自治会としては対応がとりにくい。訓練での利用は難しいのであれば、学校内部の見学や、施設や備品の確認等ができれば良いのではないかと。
24		●●高校での訓練実施。
25		●●高校での避難訓練を企画してほしい。●●市との市境に位置しているため、避難所が混雑しないか懸念している。
26		台風19号の時には、体育館に400人の方が避難され、校舎の方も使った。最初の1時間は、職員は、初動要員が1人であった。そのような場合、かなり現場は混乱し、何を優先すべきか優先順位を考えながら行う必要がある。学校開設日の震災の際には、先生との連携も重要である。
27		雨天時は、引き取り訓練で体育館を使用すると副校長から前日に話があり、設営を体育館の半分を使って行った。設営の場所が変わってしまい少し混乱したが、メンバー全員で協力して設営できたので時間内に終わることができた。
28		避難所運営において、限られた人材を適材適所に配置して最大限の効果を発揮するためには、設備の特徴を熟知している学校職員の主体的かつ積極的な参加が円滑な避難所運営において不可欠である。
29		地区協議会の方は熱心に取り組んでいただいた。ただ、地区協議会の方も高齢化しており、また実際の避難所開設の場合には、職員のみならず、地域の方の協力も必要である。地域の若い方にも参加していただけるような訓練があるとよいのではないかと。共助の周知も重要。
30		地域の方の参加者が少ない。市民、地域を巻き込んだ訓練など、更なる周知が必要である。
31		●●小は毎年、学校職員と一緒に協力してくれるので、心強い。学校内は知らないもので、聞くことができるのでありがたいのだが、やはり使えるのは学校の一部なので、校舎内でのシュミレーションができないのは訓練の全体が見えない。校舎内は、避難者の大半が使うところになるのだから。要配慮者対策の訓練ができない。以前は、子どもたちの下校後に、先生が校内を案内してくださり、教室の使い方も一緒に話していただいたりした年もあった。それから随分経ち、メンバーも変わっていることから、そのようなことも望む。また、総合受付訓練は校舎内が使えないのなら、本来の場所を想定しながら、別の場所でも試みることも第一歩なのかと思う。
32		投光器の地域への貸し出し（フェーズフリーの視点）→（理由）設置に時間を要した。また、充電がどの程度されているか不明なことも踏まえ、地域への貸出（例：夏祭りなど）をすることで、設営に慣れる場・充電の機会を増やすことで、非常時に役立てることができる。
33		学校教職員に、「訓練に協力する」という意識がどの程度あるのか疑問に思うような言動がある。学校施設の説明等は施設に不慣れなリーダーではなく、教職員が実施すべきだと思います。市職員が避難所に到着するまでは、自分たちが対応しなければならない、ということ認識していないと思われたい。防災教育の日に授業や引き取り訓練を同時に行うことで、「それが自分達が災害時にやること」と誤った認識を持っているのではないのでしょうか。学校職員が訓練中、リーダーに市の対策について頻繁に苦情（要望）を言う。学校職員には、自分がどういう立ち位置で参加すべきなのか、初動要員や避難所担当職員とは別に（追加の）説明会を実施してはどうでしょうか。引き取り訓練は別日程で行い、避難所開設訓練等に教員も参加することが必要だと思います。避難所の運営方法や管理等についてはリーダーが計画策定・準備を行っているわけではなく、リーダーも聞かれて困りながらもできるだけ回答していました。職員（教職員含む）が災害対応や準備内容等について疑問がある場合には、訓練後に担当部署に伝えるよう説明会で言うべきだと思います。地域の方と同じレベルで要望・質問するのは訓練中にすることではないと思います。

番号	項目	意見等
34	事前の研修・説明会などの	リーダー向けの事前研修が実践的でよかった。続けてほしい。
35	事前の研修・説明会などの	自治会の方より、事前に初動要員等が備品倉庫の物品配置や欠品状況をチェックしておくなど、「訓練の訓練」を現地で行ってから避難所訓練にのぞむべきとの声があった。職員からは、防災教育の日に参加される市民の方が多く、リーダー以外の市職員ももっと当日の段取りや采配を分かっているべきだったという意見があった。グリーンホール等での集合説明のみならず（それも必要ではあるが）、備蓄倉庫内の設置状況確認や無線指示による搬出搬入、複数の搬入口の確保など当日の訓練前の時間等を活用し現地で職員が段取把握・実地演習するための時間が必要だと感じた。
36	事前準備	搬入する物資の位置を職員は事前に確認しておいてほしい。（職員の入れ替わりにより、右往左往している状況があった。）職員の説明が声が小さすぎて聞こえない。説明会のほか、当日出席する職員は、事前に現地確認をするなどの仕組みができないか。
37	事前準備	今回急遽参加していただいた、当該地域で施設を運営する●●の職員から、「事前の説明会を知らず、そちらに参加していないのに当日参加してすみません。」との言葉があった。どこまで丁寧な周知すべきか、また周知方法としては限界があるのかは議論の余地はあるとして、防災教育の日・避難所設営訓練・事前説明会についての周知方法のより一層の工夫が必要ではないかと考える。
38		テントの畳み方に苦戦したので、説明・実習があると良かった。参加者の誰も畳み方を知らなかったため、説明をお願いしたい。何人か個人の携帯で、畳み方の動画を検索してくれました。
39		テントの畳み方については、実は簡単だが、複数人で片付けようとするため畳めなくなり、無理に畳もうとするため骨部分が曲がったりしてしまうと思うので、2人で畳むことを伝えたい。畳み方を全体の説明会やリーダー向けの事前研修で伝えられたら良いと思う。実際の畳み方を動画撮影し、事前に視聴できるようにするなど（水栓訓練の時のように）できると良いと思う。現場では、少ない人手で効率の良い方法で訓練できるのが良いと思う。
40		当日の流れの事前説明ということでなく、実際現場に出た時の対応ができるかという点、準備不足は否めなかった。まず仕方がないことだが、メンバーの多くが変わったりする中、昨年も経験した人が貴重な役割を果たした。それから、防災備蓄倉庫に入っているものを確認している時間がなかった。人数が限られている中、同時進行をしなければならないこともあり、特に初めて触る機器類については、その場で確認しながらというのは負担だったのではないかと。メンバーが変わるのは仕方ないが、予備知識は必要ではないだろうか。説明会資料や別冊などはあるものの、百科辞典のようで、なかなか読めてきてというのは難しい。訓練で行ったことはその場にいた人はわかるが、毎年やっているが、蓄積になっていかない。そこで動画を活用してはどうだろうか。項目ごとにできるだけ短い動画にする。そして、今年の訓練で実施する内容の動画だけを見てくる事前研修をするというもの。私も何年前かに特設公衆電話の設置をしたが、もうすっかり忘れていたので、見直しができるかと思った。
41		防災教育の日の説明会資料一式が10冊ほどリーダーセットに入っているが、地域の参加者が多く配布基準が難しいので、昨年の参加者実績を元に資料数を増やせないか。また、タイムテーブルだけでも全員にいきわたるようにするか、図上訓練のような大きい紙に印刷したものを1部用意しただけでないか（訓練時程の説明の際、時間割を口頭で説明するのがつらかった）。
42		事前説明会配布資料のパワポ・別冊については、当日用に30部用意してください。総合防災安全課は対応してください。
43		事前の対応に不備があり、当日にもめるケースがある場合は、必ず当該担当課が来てほしい。なぜ怒っているのか状況がまったくわからず、余計混乱をきたす。無責任だと思う。次回は対応をお願いします。
44	開錠・施錠方法確認	閉庁時に校舎使用の連絡が本部からあった場合に、校舎開錠のセコムカードどこにあるのか明示してもらいたいとのこと。停電時、セコムカードは体育館も校舎も作動するか。作動しなかった場合は、どのように対応するのか明示してもらいたいとのこと。
45		鍵の保管場所は、誰でもわかるようにしてほしい。
46		ペットの避難場所がプール更衣室となっているが、校舎と同じセコムがかかっている。体育館のセコムキーとは異なるため、休日・夜間等の初動の段階では使用できないおそれがあり課題となる。

番号	項目	意見等
47	開錠・施錠方法確認	学校避難所担当職員を中心に地区協議会「●●協議会」の皆様と一緒に、場所の確認と開錠・施錠の確認と特設公衆電話の設置方法の確認を行った。震災等により停電があったとき、30分間は、セコムによる体育館の開錠ができないのではないかと質問があった。
48		指示がなくとも、誰でも自ら動くことができるよう、鍵の場所や設置方法など、全てを分かりやすくすべきである。
49	建物利用調査	例年、地域からの参加者（同一人物）から、ピロティへの総合受付の設置について意見をもらっている。ピロティの天井には、配管が設置されており、余震で落下する危険があるので、他の場所にすべきとのこと。
50		とにかく時間がなく、急いで説明しただけなので、おそらく皆、身になってないと思う。じっくりとメンバーで調査をし、貼紙を貼り、連絡もするといった一連の訓練を行う時があってもいいと思う。
51		どの程度の被害なら避難所として開設できるのか。避難所開設にあたっては、本部に被害状況を報告したうえで、本部の判断で開設となるが、被害状況をどう伝えるかが課題。被害状況は通信状況が悪くなった場合などは携帯電話で写真を送ることもむずかしいのでは。地域の中に大工さんがいるから、その方の判断なども活用したほうが良いのではといった意見がありました。
52		この建物が使えるとか使えないとかいう判断は、いつの時点で誰が行うのかという意見があった。避難所に駆けつけられた人たち複数で確認して判断する。
53		この中学校は、3階までつながっていない階段があったり決まった階段でしか行けないスペースがあるなど構造が複雑。実際の災害時に校舎の構造を知っていないとうまく活用や避難者に案内ができないので、実際に内部を見学する機会があるとよい。
54	窓ガラスにフィルムなどを貼るなどの対応をするものいいのでは？	
55	図上訓練（避難所利用計画図）	前回は提言をしたが、正門から受付はわかりづらい。開設にあたっては、正門から受付に対して交通誘導ができる対応、人またはカラーコーンなどが必要である。
56		受付を通り体育館に向かう導線の廊下は窓ガラスが一面にありガラスが散乱した場合に歩行が困難になるので、その想定を計画に盛り込む必要がある（廊下から外に出る扉があるので、雨天でなければ外を通るなど）。
57		昨年度、改善提案をした内容が反映されていない。校舎の入口が受付に設定されているが、校門から直接体育館に来てしまうことが想定されるため、誘導員やカラーコーンでの導線配備が必要である。校舎から体育館への導線上の廊下は、窓ガラスのため、発災時は破片の飛び散りなどが懸念される。従来どおり校舎入り口に受付を配置するのであれば、提案のように、誘導員等が必要と思われる。風水害時でなければ、廊下の端の入口から外側へ出て、体育館へ誘導する等が必要。
58		ペットの収容教室について、変更を検討してもらいたいとの要望が地域の方からあり。ペット収容教室はカーペット床となっており、またその教室への導線がスロープとなっていることから、もっと有効に使う方法があるのではないかと。避難所利用計画図に、一般の方、要配慮者、ペット、それぞれの収容人数を記載してもらいたいとのこと。どの程度の人数を各教室に導けばいいのかわからないため、要配慮者の収容可能人数を把握しておきたい。
59		ペット避難所にユーフォールーム（「あそびば」に改名）を設定しているが、通常、子どもの居場所として使用する部屋なので清潔を保ちたいが、ペット避難所に使うことで汚損する等、災害後の復旧が心配との意見があった。
60	一般避難者、要配慮者、発熱者、ペット同行者と動線を分けて案内する旨を話す。避難してくる人が自分から「要配慮者です。」とは、言わないので、分けるのが大変だとか、ペットだけで置いて大丈夫なのかなど、質問が出た。入口で、複数人で案内したり、紙を貼って動線を分かりやすく表示する。ペットはケージに入れて別室。	
61	発熱者の避難場所は4階とされているが、体調不良者に最上階まで階段を上らせるのは難しいのではないかと意見が出た。2・3階は一般避難者が使用する可能性があるため4階にしていると説明は行ったが、継続して意見が出されていることは報告することとした。	
62	ペット同伴の避難者について、場所は示されていたが、ペットと飼い主がどのような形で過ごせるか具体的な場所の精査がされていないとの声があった。ペット同伴の避難者について、対象の方は家族同様に扱ってもらいたいので、その方たちから納得してもらえるように配置図を作成するなど具体的な案を示すべきだとの意見があった。	

番号	項目	意見等
63	図上訓練（避難所利用計画図）	地域住民から避難所利用計画図の写真を撮って良いかという質問があった。昨年は、撮らせてもらったので良いのではないかという人と、総合防災安全課から学校の構造が分かってしまうのでよくないと聞いたことがあるという人がおり、確認するので今回は、撮るのはやめてもらった。ペットの避難場所は、同伴できるのか、ペットだけなのか。今の場所では、スペース的に足りないので、検討する必要があるのでは？
64		避難所のトイレの設置場所について意見交換。体育館奥の出口付近がよいだろうとの結論になった。
65		校舎4階に部屋の指定があるが、その一室が音楽教室で常に施錠されていることから、他の部屋に変更を願う。
66		体育館内でも部屋のように仕切られた空間があり、目的にあった有効活用をした方がよい。（今回であればペットの場所を変更するなど）図上訓練時のシートにどれだけ住民意見が反映されているか不明だが、今回あった意見を学校と協議して変更可能なものは、変更後のシートに更新して次年度に生かさないと同じことの繰り返しで意味がなくなってしまう。
67		開校時の避難所はどうなるのか。総合案内は昇降口に作ることになるが、どこから物品を持って来るなど動きや流れを訓練したほうがよい。要配慮者の受付訓練も必要。発熱などの体調不良者の部屋は1階が良い。
68		避難所利用予定の校舎2階4室のうち、右端の音楽室は常に施錠されているため、そこを除いて左隣のもう1室を避難所利用予定としたほうがよい。校舎の廊下にシャッターがあり、休日は降りているため、いざという時は開錠が必要。（鍵の置き場所についての共有あり）●●小の先生からの提言であり、そのとおりにするのがよいと思われる。シャッターのカギについては、去年も情報共有あり。
69		前回の防災教育の日の図上訓練で、避難者の受付後の動線を考慮して総合受付の場所を無施錠の正門から南京錠で施錠している西門に変更した。西門から総合受付までの距離があまりないため、避難所開設時には、迅速な門の開錠が必要である。総合受付は、要配慮者や発熱者などを各受付に振り分けることが主な役割であるため、避難所利用計画に記載された西門での運営が可能であるため、総合受付の場所を変更しない。ただし、学校を訪問する方は、普段は施錠されていない北門を利用する人が多く以前の避難所利用計画の総合受付の場所は北門になっているため、地域住民に周知が必要である。
70		北門は開けずに南門だけを施錠した方がよいとこれまで訓練で意見をしていたがどうなったのか。北門を開けると動線的に総合案内を行かずに、そのまま体育館に行ってしまう可能性があることから、総合案内で受付をしたという目印のような裳があるとよい。それがあれば、北門を開錠しても必ず総合案内に行ってから体育館にきた市民ということがわかる。どの小学校も課題であると思うので、総合案内でそういった運用ができないか市として決めてもらえると良い。例、総合案内で案内した市民にはバンド等のタグをつけるなど。
71		●●小は風水害の発災時は避難所を開設しないが、過去に地元住民の一部が駆け付け混乱した過去がある。このため、●●小や他の避難所を案内する人員体制が必要との意見あり。地域の参加者から、侵入を禁止する手立てを市として検討していただくよう要望があった。状況によって、必要な人員が割けるのかも含めて検討して欲しい。
72		図上訓練の振り返りについて、今回の訓練においては避難者の動線確認よりも避難所内での体験に重きが置かれていたため、特段意見が出ませんでした。
73		図上訓練に使用する地図は正確なものにしてほしい。地図は、貼る場所により、向きや方角などが見やすいものにしてほしい。実際の災害時には貼る場所ごとに地図を変えてもよいのではないかと、などの要望、意見が出た。「避難所開設訓練」を通して、避難所開設に係る課題を地域住民や学校教職員等と共有することができた。図上訓練用の地図については、時点修正した正しいものにする。発災時に使用する地図も作成し準備したらどうでしょうか。
74		今回は説明だけだったので、毎年変わらない「利用計画」で、これまでもいろんな意見がでてきたが、フィードバックや反映がない。地域の方々は地区協議会中心で、割と毎年同じ方々が見えるので、指摘される可能性がある。この図上訓練の中で、前年のフィードバックができないだろうか。
75		避難所利用計画については、校舎内を一度見学したうえで、計画を見直したいとの意見があった。避難所利用計画を改定する際は、地域の方に校舎内を一度見学してもらったうえで、計画改定を行う。

番号	項目	意見等
76	図上訓練	振り返りは、意見ある方を中心に、職員・地域の方から意見（改善内容）をもらった。発熱者の待機・避難場所の動線の改善について従前より改善の意見があり。体調不良者の4階の待機場所から低層階に変更すべき。
77	（避難所利用計画図）	校長先生から「教育委員会から教育部管轄の施設で計画を」と言われたため、3階を候補地にした経緯があるとの説明があった。●●小学校は入り口となる東門横にユーフォーがあるため、誘導動線などの感染症対策や医療機関への輸送時対応等、ユーフォーを活用できないか、市役所の所管に関わらず、実情に即した計画を検討すべき、という意見が出た。事前に教育総務課に確認し、令和5年度は部を越えた対応を図るとの回答がありましたので、その説明を参加者に伝えています。教育総務課及び総合防災安全課は至急調整してください。令和5年度中の対応説明がないのは不誠実です。
78	防災	今回は事前に倉庫内を整理してもらい「物品が見つからない」がなく、ストレスが少なかった。リーダーセットもすぐに見つかり安心した。
79	備蓄倉庫	訓練の内容は、概ね流れに沿い混乱もなく進められたがマンホールトイレの1台と目隠しのテントに不具合が見つかったので、総合防災安全課に避難所担当リーダーから報告予定。
80	（備蓄品等含む）	地区協議会の方から、●●中学校には災害時にすぐ使用できる飲料水があるのかとの御質問がありました。その場で回答ができませんでしたが、避難所運営の根幹となるため共有が必要と感じました。ベースとなる情報（飲用水（備蓄品）あり・マンホールトイレありなどの一覧）がまとまっている一覧やサイト等があるといいと感じました。
81		セコムカードが、別のコンテナに入っていたため、探し出すのに時間がかかった。防災備蓄倉庫扉裏面の備蓄品の一覧表が分かりづらい。備蓄品の種類ごとに一覧表とコンテナに貼り付けている用紙を色分けしてほしい。一覧表には備蓄品の写真を載せてほしい。
82		備蓄倉庫が3か所あり、今回の訓練のように、必要なものだけを体育館に運搬する場合、誰がどこに何をとりに行くのか、また、既に運搬が終わった物品がどれかの把握について、混乱があった。リーダー等が、誰が何をどこに取りに行くのか指示ができるような物品リストにしてほしい。また、受付セットの中には、受付の設営に必要な物品の一覧を入れるなどすると、設営がスムーズになるとの意見があった。備蓄倉庫の物品一覧はあると思うが、職員が各自、携帯できるよう複数枚を用意してあるとよい。避難所運営マニュアルに掲載の備蓄品の情報の更新が必要。
83		新しく設置された備蓄倉庫（むかって右側）が台の上であり、踏み台がないと備品が取り出しづらいとの声があった。また二つの倉庫の備品一覧が一枚にまとめられており、確認しづらいとの声があった。備品倉庫の扉に掲載されている配置図と備品の場所が異なっているところが多くあった。今回のようなブースごとの必要物品が予め指定されている場合、物資にA、B、C等の対応目印をはっておくとよいという意見があった。
84		ブルーシートの大きさを間違えてしまった。トイレのテントの組み立てが難しかった。初めて担当になり訓練に参加した。防災備蓄倉庫に何があるのかわからないと感じた。箱に大きく書いてあるとよいと思った。入口に貼ってあるリストも、文字が小さくて読めない。備蓄倉庫が暗くて中がわかりにくい。夜間の発災もあるため、入口に明かりがあるとよい。
85		倉庫にしまわれている状態で各備品の名称が分かるようにしてほしい。箱の表面に書かれていても積まれている状態では探すのに苦労する。本訓練時においても、備蓄倉庫からの物品の運び出しに時間を要した。各備品の箱の側面に名称を記載する。名称はわかりやすいよう倉庫の一覧に記載の名称と合わせる（商品名ではなく一般名称を記載する）と良いと思われる。
86		防災備蓄倉庫の物品の表記について、倉庫内がきれいになり、物品を探し易くなったが、倉庫内にある物品のリスト（倉庫の扉に貼ってあるもの）がわかりにくい。字が小さくて見にくく、2台の倉庫内の物品の情報全てが一覧表になっているもの（同一の表）が2台の倉庫の扉に貼られていることがわかりにくい。それぞれの倉庫に入っている物品だけを一覧表にし、できれば模造紙くらいの大きさにそれぞれの倉庫の扉に貼ることができると良いと思う。せっかく作成し、貼っておくのであれば、どちらの倉庫に何が入っているかということが、初めての人でも一目でわかりやすいものにした方が良いと思う（模造紙大のものをラミネートすることは難しいと思うが）。色分けの表は必要ないと思う。倉庫内の棚の図？も一覧表と同様に大きい方が良いと思う。観音開きの倉庫については一覧表と倉庫内の棚の図？をそれぞれの扉に貼るとわかりやすいと思う。

番号	項目	意見等
87	防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）	2つある備蓄倉庫それぞれに記載の物品一覧に食い違いがあります。備蓄倉庫内が暗すぎます。設置してあるライトも微光すぎます。備蓄品が固定されていないため、地震等で配置が変わったりつぶれてしまう危険性を感じます。備蓄倉庫の立て付けが悪くドアに隙間ができています。備蓄品の劣化等が心配です。備蓄品の段ボールに記載の品目名（商品名）等では内容物の判断ができません。双方の備蓄倉庫に体育館等の鍵が収納されているといいです。（両方が開ける状況とは限らないため）開けてすぐに必要なものがわかるようにまとめてあるといいです。（ライト・鍵・簡易なマニュアル・軍手・雨具等）●●小学校の備蓄倉庫内は何がどこに格納されているか明記されていました。日本語以外のマニュアルや記載もあるといいと感じます。防災倉庫内を内面もしくは校舎等から明るく照らせるライトの設置をお願いします。備蓄品の表記及び配置（耐震対策等）について対策の御検討をお願いします。人手が必要等であれば防災教育の日の訓練の一環として取り入れてもいいかと感じます。備蓄倉庫内備品配置図の更新をお願いします。備蓄倉庫の両方に鍵の配置があるとよいと感じます。倉庫の入り口付近に明らかにすぐに必要なものが配置されているとよいと感じます（扉裏にフックをつけ吊り下げるなど）。備蓄倉庫のスペアキーの更新や建付けについては御検討をお願いします。最低限の流れや避難所のスペック等がA3用紙1面程度でまとまったものが防災倉庫扉裏面に記載されていると発災時の指針になりうると感じます。
88		2つある倉庫のうち1つに、初動で使用するものをまとめておくとうい。2つある備蓄倉庫のリストが正しくないようなので、更新する必要がある。防災倉庫内の設置場所が分かりにくい（ライトなどすぐに使いそうなものを分かりやすいところに配置）。地震の際に倉庫内の物資が崩れることのないように工夫が必要である。手前に軍手を備えておくとうい。受付で使用する靴袋（ビニール袋）が見当たらなかった。
89		●●小は、北と南に1つずつ防災備蓄倉庫があるが、その中を確認すると、記載されているものが異なる備蓄倉庫に保管されていた（例、哺乳瓶は北側、粉ミルクは南側）。備蓄倉庫の中の整理が必要との意見が出ていた。また、それぞれに保管されているものを避難所運営マニュアルに記載した方がよいとの意見があった。
90		防災倉庫のうち扉に貼りだされている備品の一覧がなく、物品を捜すのに時間がかかってしまった。また防災品などは、災害時にあっても使わず、後になって使えば良かったということもあるので実際に開けてもらうなど、使ってもらった方がよい。昨年は、字が小さいとの意見が出ていたのですが、今回は一覧自体がありませんでした。貼りだしをお願いします。なるべく防災用品は来た方に開封してもらうようにしてはと思います。
91		避難所を開設したらトイレの確保を最優先すべき。総合受付は崩落の危険が無いところに設置すべき。震災は本震の後に大きな余震がありうる。混乱の中で避難所を開設できるよう最小限の開設準備をすべき。防災備品の保管場所の整理整頓をすべき。
92		倉庫からの搬出入のための通路が狭い。今回は手運びのための意見、災害時はリヤカーで敷地外道路等も利用予定と説明。倉庫内、備蓄品の位置が分かりにくい。探すのに時間がかかる。探すのが作業として最も大変なほど。箱の品名と備蓄品としての名称が一致しておらず分かりにくい。箱に大きく備蓄品名を記載したほうがいいのか。最初に使用するものが手前にあるといい。倉庫の明かりははいってすぐのところにはほしい（スイッチ切れていた）。倉庫の整理状況が学校によって異なるのではないかと。（以前、他の学校で訓練参加した人の意見）マニュアルの記載として、物品名にかっこ書きなどで倉庫内の位置も記すといいと思う。●●小の備蓄倉庫は、訓練時、本来の配置場所と異なる状況になっていた可能性があるのでは。人感センサー付ライトは本来スイッチが入っているとのこと。切ってしまった人がいると思われる。切らないよう周知が必要。
93		備蓄倉庫内が、貼り紙どおりに整理されていないと、探すのに時間がかかる。
94		備蓄倉庫が2つあり、どちらに何が入っているのかが分かりにくいので、シールで第1第2と区分けしてほしい。備蓄倉庫の中も分かりにくいのでケースや物品にマジックで大きく品名を描くとか、色分けするとかして分かりやすくしてほしい。また、入り口が高く躓きやすい。食料はあるべきところ1か所に入れてほしい。設営に必要な手袋も備え付けてほしい。
95		備蓄倉庫内の物品を取り出す際に、商品名が書かれているとそれが目的の物品なのか一目ではわかりづらい。食料品も年度は書かれてあるが、どれから運び出すのかわかりづらいという感想ありました。
96		防災備蓄倉庫内が狭く必要な物品を探すのに時間を要する。2つの倉庫の備蓄量の配分に偏りがあるため是正する。
97		防災備品の保管場所が分かりにくい。総合受付の開設セットに、優先順位の高い物品だけでも保管場所を示した案内図的なものを置けないか。

番号	項目	意見等
98	防災備蓄倉庫	備蓄倉庫内の地図があるといい。扉に貼ってある説明の文字が小さくわかりづらい。こちらの避難所は初めてで、倉庫の中がわかりづらい。繰り返し使うものは箱にラベルをはり「マンホールトイレ」など書くと良い。発災は夜もある、倉庫の入り口にライトがあるといい。
99	防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）	防災備蓄倉庫に何があるのかわからないと感じた。備品だけでも、箱に大きく書いてあるとよいと思った。入口に貼ってあるリストも、文字が小さくて読めない。備蓄倉庫が暗くて中がわかりにくい。夜間の発災もあるため、入口に明かりがあるとよい。重くて大きいものが多く、発災時に少人数で運び出すのは難しいのではないかと感じた。大きいものだけでも、体育館の隅に置かせてもらえないか。入口のリストは以前より改善されたが、さらに大きくわかりやすい掲示が必要。昼間でも倉庫内は暗いため、開錠した時に人感センサーなどで点灯するライトがあるとよい。備品は箱に大きく内容を記載しておくといい。運びやすいように、可能なものは小分けにしておけるとよい。可能であれば、発電機や投光器など大型の備品は体育館内に置かせていただけるとありがたい。
100		格納場所がわかりづらい。内部に棚を設けて、物品の見易さ・取り出しやすさの向上を要望。倉庫内が暗く、LEDライトが見つげづらい。ヘッドランプをドアノブに設置してほしい。ドアに掲示された倉庫内の格納場所一覧が、文字が小さいため読みづらい。文字の拡大。各物品に「写真付き名称」の貼り付けてほしい。
101		防災備蓄倉庫のライトは部分的な照明だったため、全体が明るくなるものがよい。日中の訓練だが中がかなり暗い。総合防災安全課は至急備えてください。
102		倉庫内が暗くてどこに何があるのかわからない。物を出すのが大変である。倉庫内の整理整頓だけでなく害獣対策も含め報告する。
103		人感センサー式ライトをせっかく設置したのに、電源が切れた状態で、設置場所も少し入ったところについていたことから、市民の方から入口にライトを置いたほうがいいのかとの意見があった。総合防災安全課に確認したところ、本来スイッチが入るとのこと。防災井戸と同様に学校で定期的に確認する等の協力を得られないか。
104		夜間の場合、倉庫が暗く、何がどこにあるかわからないため、扉を開けたら電気がつくようにすると良い。また、倉庫にある物がいっぱい、例えば学校の空き教室などを利用し、荷物を管理する事はできないかとの意見がありました。年に1回でも良いので訓練前に倉庫内の荷物を一度、確認する機会があれば良いとの意見がありました。
105		夜間の物資搬入搬出時は、安全に作業できるようヘッドライト付きのヘルメットが必要との市民意見があった。
106		マンホールトイレは、幼児は便座が大きくお尻が落ちる。夜間被災だと、暗くて倉庫から運べない。登山用のヘッドライトなどが必要である。
107		避難所開設にあたり、備蓄倉庫から速やかに資機材を搬送する必要があるが、倉庫内で必要物資を探すのに時間がかかる、との意見があった。初動要員・避難所担当職員が、平時から備蓄倉庫内を確認し、場所を把握するのは難しいと思われる。各学校の教職員に時間があるときに備蓄倉庫を確認してもらい、資機材の位置等を把握して、搬出時に指揮してもらえないか。
108		マニュアル類はすべてパウチしてほしい。台車を数台配置してほしい。備品の管理をしっかりしてほしい。（特に細かいパーツの管理）備蓄庫の中身の配置がわかりづらいので表示の見直しをしてほしい。備蓄庫内にゴキブリの糞がたくさんあった。学校敷地内ではネズミも見られるとのこと。害虫駆除などのほか、防災備蓄庫の総点検をするべき。昨年にも指摘された内容もあったため、事後、総合防災安全課と避難所リーダー、学校職員（一番状況に詳しい）が現地で確認、点検するなどの仕組みができないか。
109		防災備蓄倉庫だが、どこに何が入っているのかわかりづらい。訓練に使う備品も見つからないものがあった。また、通路となる部分が狭く、備品等の運搬や移動の際、不便に感じた。棚ごとに何が入っているか、貼り紙などで掲示してほしい。
110		防災備蓄倉庫が2か所あるが、どちらの倉庫に片づける物品であるかの判断に時間を要する部分があった。災害時には防災備蓄倉庫から出したままにするものと、使用後に防災備蓄倉庫に戻す物品があると考えられるが、備品管理の視点から、色テープなどを貼付してどちらの倉庫に保管される物品か視認できるようにするとよい。倉庫から避難所までに段差や足場の悪い箇所が多くあるため、解消できるとよい。作業用に滑り止めのついた手袋を備蓄・訓練用に用意しておいてほしい。
111		倉庫内がごちゃごちゃしてわかりにくい。そのため、倉庫内を精通している方がいなければ対応できない。季節によっては薄暗いためより倉庫内がわかりにくくなる。以上から整理・整頓が不可欠。避難スペースをブルーシートで区切るが、ブルーシートが小さくて1世帯の対応が困難だと思う。

番号	項目	意見等
112	防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）	内容の確認が一目でわかるような工夫を。用品等が入っている半透明のコンテナボックスについて、内容を一覧表にして、見える場所に添付してもらえれば、一目見てわかるので、災害時には役立つと考える。併せて、発電機の取扱い手順も同じように添付してほしい。災害時に時間をかけずにわかる方法があれば改善していく必要がある。
113		備蓄倉庫内の棚に〇年度と表示があるがどれから使用していいのかが不明である。備蓄倉庫から物品を搬出する際に、箱の真ん中を確認しないと必要なものが不明である。使用するものについては事前に説明をお願いしたい。物品の表示については、例えば箱の目立つところに表示するなど、箱を取り出さなくても物品を確認できるような対応をお願いしたい。
114		防災備蓄倉庫ですぐに見つけれない物品もあった。整理も大事だが、いざ、地域の人が倉庫から物品を持ち出すことなどを想定すると、梱包箱から中が想像できないようなものは、中に何があるかわかるような紙を貼っておくとよい。
115		段ボールに製品名や個数がシール等で貼付してあるが、高齢の方からは字が小さくて見づらいとの意見があった。
116		ダンボールや収納箱の表示と中身の違うものがあった。中の配置場所を記載している図面と場所が違うことや不明なものがあった。前年度もあったが、備蓄品の交換や追加などを行う際だと思うが、場所が変わってしまっていることが見受けられた。箱に写真があるものは見やすくすぐに判断できるため写真が無いものは写真が必要。中の配置図の文字などが小さく見づらいため、拡大したものを添付してほしい要望あり。
117		防災倉庫内のクリアケースは、中身が見えるが内容物が分かりにくい。
118		マニュアル記載の名称と段ボールに記載されている名称（商品名）が一致しないので、判別に時間を要した。例えば、使用するトイレについて段ボールにトイレAやトイレBなど分かりやすく明示していただき、マニュアルにもトイレAやトイレBと明示し一致させてもらいたい。マンホールトイレや携帯トイレがあるので、ベンクイックは使用すること機会がないと考えます。備蓄倉庫から処分いただけると助かります（備品の持ち運びで間違えてしまうため）。
119		雨天・荒天時の発災に備え、雨具等がすぐわかる場所にあることが望ましいとの意見がありました。
120		防災備蓄倉庫が非常に遠く、実際に災害があった際に運べるとは思えない。体育館の隣にあるウサギ小屋が現在使われていないため、このスペースをうまく活かせないか。
121		防災備蓄倉庫は体育館のそばに設置して欲しい。（●●中は建て替えをすると聞いてる）防災備蓄倉庫が遠いと確かに物資の運搬が大変なのは、今日の訓練でよくわかった。教育総務課に報告する。
122		倉庫を開けるのに扉前の除草と堆積した土の除去が必要。訓練前だけでなく、日ごろから開閉できるよう、定期的な管理が必要。防災倉庫内の物品の運び出しの際、照明備品が倉庫奥側に保管されていた。夜間に避難所を開設する際に始めに必要な備品であるため、保管場所の工夫が必要。倉庫内の案内表の更新と表示を大きなものに変更してほしい。マンホールトイレ用の幼児用便座（アタッチメント）があるとよい。おむつの保管場所が案内表と異なっている（両方の倉庫に保管されていました。保管場所はどちらの倉庫も同じ場所（F-⑤）でした。）懐中電灯、ラジオが壊れており、買い替えが必要。ハンドルで発電できるタイプのものについて、回しても発電できない。携帯充電の端子もガラケーのものであったので買い替えが必要。照明備品については、倉庫扉付近に保管し直ぐに取り出せるよう工夫しておく。倉庫前の管理、倉庫内整理、倉庫内備品の更新や追加備蓄要望等、ご意見として報告すると回答。
123		粉ミルクについて、災害時、お湯を沸かせない状況もあるかもしれないので、お湯を使わず、そのまま飲む缶のミルクも用意してほしいとの意見があった。
124		使用する物品で、粉ミルクの用意があったが、液体ミルクの用意はできないか？液体ミルクの用意を依頼したい。
125	粉ミルクのみでなく、液体のものが主流なはずなので、液体も備蓄すべき。有事の際にマンホールトイレを使用する場合、特に夜間時などの防犯対策はどうすべきか。避難所でアルファ米が配給されたとして、ペットボトルの飲料水は飲み水として使用したいことから、アルファ米をどう調理するのか。トイレについては、見回り等を実施することが必要か？ただ、人員も少なく対応が難しい場合もあるはず。ランタンなどの明かりだけでは心もとない。	
126	備蓄倉庫に準備されていた電池がすべて新品だったので、新品を開けて使用したが、防災教育の日ほんの数時間のことなので、訓練当日用としてすでに使用されている電池を準備しておいてもよいのではないかと感想がありました。	



番号	項目	意見等
140	防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）	マンホールトイレを収納している段ボールの箱がボロボロなので補強が必要。また取り扱い説明書もヨレヨレなので、ラミネートして欲しい。事前に担当決めされていたことで、自分たちが主体的に動けたことに加え、スムーズに進行することができよかった。参加者は6年生に限定していたが、希望者に参加してもらおうなどより多くの市民に参加してもらったほうがよいのではないかと。
141		マンホールトイレへの給水のために、水道から給水するためのホース及び防災井戸から給水するためのホースの用意を至急対応してください。マンホールトイレは避難所開設において設置が重要です。体調維持衛生管理の観点から至急対応してください。携帯トイレだけでは対応できません。教育総務課または総合防災安全課は至急備えてください。
142		マンホールトイレのふたをあけるための器具・給水栓をまわすための器具が必要なことを明示してほしい。総合防災安全課は至急備えてください。
143		給水栓をまわす方向や水を流すタイミングなど、マンホールトイレの資材箱内にパウチしたものを入れておいてほしい。総合防災安全課は至急備えてください。
144		アルミブランケットが眩しい、そういう人もいると思うので、避難所では素材が違うものが良いのではないかと。図上訓練に使用する地図は正確なものにしてほしい。地図は、貼る場所により、向きや方角などが見やすいものにしてほしい。貼る場所ごとに地図を変えてもよいのではないかと。テントは何に使うものかの表記（授乳用など）をした方がよい。被災時に誰かにわからずに占有されてしまうのではないかと。ブランケットなどは、実際に開けてもらうなど、実際に使ってもらった方がよい。防災用品は、あっても、使わず、後になって使えば良かったということもあるので、実際に使ってもらった方がよい。簡易トイレなどの備品については、展示場所に完成するまでの途中経過のものを置いていってもよいのではないかと。
145		受付用具の中に、ハサミ、カッター、養生テープ、筆記用具等が入ってなくて困った。補充するとともに、他ブースの箱にも入れておくと良いのではないかと。受付用具の中に靴袋がなかった、補充が必要ではないかと。ソーラーパネルの取扱説明書がなく困った。設置している時に、ソーラーパネルの部品が破損した。ラジオの電波が体育館まで入ってこない（調布FMの受信ができないことを確認）。避難所体験への参加者が少なかった。PRを強化する必要があるのではないかと。例えば、体育館入口等に開催中の立看板等で周知する、学校での案内を見直す・強化するなど。
146		簡易テントや簡易ベッドの設置する間隔をしっかりと位置づけできるように測定できるようにすべきだ。巻き尺を用意してほしい。
147		発電機は使用方法等がわかるようなものがあると良い。LED投光器は充電式のため、定期的に充電する機会を作るべき。使い方に慣れるためにも、地域への貸し出し等検討しては。
148		備蓄倉庫に物を詰め込み過ぎ（2つの倉庫のバランスが悪い）で、必要な物を探すのに時間を要する。非常用発電機の重量や倉庫と避難所の距離を踏まえると運用が難しい。発電機の小型・軽量化や避難所と近接した倉庫（保管所）が必要。
149		当施設の倉庫は大きく、たくさんの箱が積まれている状態。大地震が来たら荷崩れが起きてしまう恐れがある。棚などを用意して収納する。荷崩れが起きづらい並べ方などの工夫をする必要がある。
150		備蓄倉庫のマスクに汚れがあった。衛生用品なので、定期的に確認・入替の必要があると思われる。携帯充電器の規格が古いので、現在一般的な規格に更新すべき。避難スペースのテントについて、「授乳用」、「使用中」等の掲示物も一緒にあると良い。
151		備品管理の徹底を希望。段ボールに収納されているものが何なのか、どう組み立てるのか、誰が見てもわかるようにして欲しい。マンホールトイレやテント設営などは、地域の方も専任の担当者を割り振れば、指示待ちにならず有事の際に迅速に動けるのでは？自治会は役員の入替わりが多いので、専任で割り振るのは難しい。防災倉庫からの運搬に台車があったほうが良い。体育館の放送設備は使用できるのか？使用するなら開錠・施錠が必要。倉庫にゴキブリの糞&卵があった。衛生的に問題あり。有事の際に開門するのは正門だけか。体育館前の門を開ける必要はないのか？設営は立ち上げが肝心。責任者をはっきりさせるべき。
152		備蓄品の搬送のため倉庫内に入ったが、食材付近にゴキブリの糞がたくさんあり、万が一に備えての備蓄品であるため衛生面が心配である。倉庫内の棚卸しなどはしているのか、倉庫本体の点検、腐食などは確認しているのか、様々不安の声があった。

番号	項目	意見等
153	防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）	備品が害獣の糞だらけとても使用できる状態ではなかった。害獣の糞尿が原因で職員や地域住民の人が感染したりしたら避難所としてなりたない。害獣の糞による二次感染が心配である。きちんと害獣の駆除をして倉庫内を消毒してから使用した方がよい。穴を塞ぐだけではなく、倉庫内の備品の全体的な消毒等をしないと次回使用できないのではないか？倉庫内の管理については十分配慮が必要である。定期的な目視による管理と害獣対策、消毒等きっちりして欲しい。震災発生時に消毒業者なんか来ないし開設準備や物資の供給もできないのではないか。正直思わぬところで害獣の糞尿で感染しそれが避難所全体に広まったらと思うと怖い。
154		●●小学校は、倉庫の改修工事済ですがネズミが再度穴をあける可能性が高いです。ネズミに穴をあけられないためにベニヤ補修ではなく金属板補修等対策を行ってください。総合防災安全課は至急対応してください。
155		備蓄食料品のうち賞味期限の近いものについて、フードバンクなど生活困窮者への支援に役立てられないかとの意見があった。
156		備蓄倉庫の在り方について、多くの参加者から不満の声が上がった。
157		地区協議会から、長年要望を出し続けているので必ず伝えてほしいとのことで意見交換から特出しました。●●小学校の防災備蓄倉庫は二つあり、校舎に近い方（備蓄倉庫1）と道路の先にある方（備蓄倉庫2）があるが、それぞれ周辺環境の改善をお願いしたい。備蓄倉庫1…雨天時は足元がぬかるみになるためシートを張ってもらったが、今度は張ってもらったシートが雨をはじいてしまう素材で水が溜まってしまい滑る危険が出てきた。水はけのよいシートを張ってほしい。備蓄倉庫2…地面と倉庫入り口の段差の傾斜がきつい。スロープを設置してほしい。5年以上伝えているが一向に改善されないの今回強く望む。
158		校庭の外にある備蓄倉庫の前に段差（50センチ位）があり、危険なので何とかして欲しいと以前から要望しているが、未だに何の改善も見られないとの苦情に近い要望を受けた。同じく校外の備蓄倉庫の前にシートを敷いてくれたのは有り難いが濡れると滑るので、滑らないようなシートに変えて欲しい。倉庫内の物品で出す順番をわかりやすいように見出しを付けたり、番号などを振ると良いのではないか。校庭の外にある備蓄倉庫の段差の解消は以前からも要望として出されているが、対応が十分ではないため要望から苦情へと変わりつつあるように感じた。事情があり出来ないようであれば理由を説明したほうが良いと感じた。
159		今回任命の初動要員の中にまだ防災倉庫の鍵等が受取できていない方がいました。また、スペアキー作成の関係か初動要員の持っている鍵のなかには噛み合わせの悪い鍵も含まれていました。鍵については、早目のお渡しができるとういと感じました。また、受け渡しの際に簡単に役割・概要をお伝えできるとよいと感じます。防災教育の日の取り組みの中で、鍵のチェックも併せて行い、必要に応じて鍵の更新が必要かと感じます。
160		簡易テントや簡易ベッドの数について質問があったようなので、避難所担当職員などには防災備蓄倉庫に数が明記されていることを伝えた。また、隣同士の間隔が狭いことに訓練参加者が驚いていたとのことだった。
161	V	接続に時間がかかったことから、平易に入力できるよう考えてほしい。
162	A	入力画面の文字が小さく、また、学校のアドレス等を打ち込むスペースも小さいため見えづらく、入力の際に思いのほか時間がかかってしまいました。災害時に速やかに入力できるのか疑問に思いました。入力画面を使いやすく大きく改良して欲しいです。
163	C	VACANの「ログインID・パスワード」を防災備蓄倉庫の分かりやすい箇所に掲示して頂けると緊急時に困らないと感じた。
164	A	初めての使用であったため、上手く動作しなかった。後に、操作方法の間違いによるものだと分かった。実際配布するQRコードについても配って、機能を確認してはどうかという意見もあった。初めて使用する機器については、事前にわかりやすく作動を確認する機会を設けた方がよいと思います。
165	N	入力の訓練ができなかった。携帯電話の操作に不慣れで（iPhoneユーザーのため）アドレスの入力等に手間取った、あらかじめ入力項目等は、その端末のメモ帳機能等を利用し張り付けておけないか？
166		VACANのことを知っている方は誰もいなかった。
167		スマートフォンやVACAN等のパスワードがマニュアルやリーダーセットには記載してあるが、有事の際はマニュアルをすぐ取り出せないと思われるため、わかりやすくする（もしくはパスワードなしにする）といった対応が必要だと思われる。

番号	項目	意見等
168	通信訓練	時間がかかりすぎる。訓練時は忙しいのだからもっと効率的に短時間で終わる方法に変えてほしい。無線機の前でずっと待機している時間がもったいない。マニュアルでは無線機の前で待機となっていたが最初の方の学校はまだ良いが、最後のほうだと20分近く待つことになる。呼び出しをしても応答のない場所はどんどん飛ばして後で連絡したらよいのではないか。
169		人数が少ない中で準備しているのに、防災行政無線送受信訓練の待機時間が長く準備に参加できない。もう少し、限定的な設定ができないか検討をお願いしたい。
170		体験準備時間と無線の訓練の時間が被っているため、人手の少ない避難所では準備に割ける人手がさらに不足する状況になった。また、順番が最後の方であったこともあり、相当の時間を無線機の前で待機していなければならず、時間がかかりすぎではないかと感じました。無線の訓練時間を一番最初に持ってくる等、時間割を変更してもよいのではないのでしょうか。また、待機時間が少なくて済むよう●●小から順番に呼びかける方法以外も検討して欲しいです。
171		訓練のやり方を改善してもらいたいとの要望が、担当した地域の方と職員から以下の要望あり。今回の訓練では、各学校を4グループに振り分けて、1つのグループの応答訓練が終了するまで、次のグループの応答訓練に移行しなかったため、受信訓練に長時間拘束され避難所開設準備に人員が足りなくなってしまう。1回全学校を通して呼びかけを行ってもらい、応答しなかった学校を絞ったうえで、再度呼びかけ訓練を継続したほうが効率的だと思われる。
172		防災行政無線は、応答したが1回目は上手くいかず発信者からの応答がなく、2回目で応答が聞こえた。マニュアルどおりにやったはずであったが、原因不明。また、実際の場面では、近くにだれかいないと呼ばれてもわからないと思った。より分かりやすいマニュアルの作成。実際の避難所では、この無線近くに人が張り付いていないと、無線をとるのは難しいのではないか。
173		防災行政無線の操作がうまくできず、取扱に不安が残った。
174	避難所体験	その時点で残っていただいた地域の方も含め全員により、今日の訓練についての振り返りを行った。おおむねの声として、避難所体験は好評であった。
175		児童・保護者の避難所体験をとおして、保護者の方から「職員の説明などから、まずは、自助が大切ということがわかった」というような言葉をいただいたことから、防災意識の啓発や家庭での日ごろからの備えの啓発といった本訓練の目的が達成できた。
176		当初、雨天であったが、臨機応変に対応し、実施項目が終えることが出来た。避難所体験は、このような場でないと経験できないことであり、保護者も生徒も良い経験となったと考えている。
177		体験した生徒・保護者から実際に体験できたことでイメージがわいたと声があった。
178		ビブスの活用に併せて「避難所開設訓練の実施」に何をすべきか記載があったので行動しやすかった。その点から、避難所リーダーから各リーダーに担当内容を説明していたが、担当名と併せて担当業務を書かれていれば、説明の時間も短縮でき、より効率的になるのではないか。有事の際、各リーダーの指示が皆に届くように、「インカム式ハンズフリー拡声器」を各校に5台くらいづつ設置すればより効率がよくなる。
179		よい企画だったので続けてほしい。ダンボールベッドの見本を展示したい。また、見本の1枚でもいいのでシートの下に引くマットがほしい。
180		地域の方を招いた訓練ができて良かった。年に1回の研修は大切にしたい。子どもたちも協力的で良かった。定員についての質問があった。大勢の人が参加して、この体育館は狭いと感じた。実際の発災時は、スペースが足りないのではないか。●●小は、風水害で開設する可能性が高い。初動要員5人程で、まずどう開設するかを考えておく必要がある。事前研修は、リーダーと初動要員指揮者だけなので、全員輪番で受講したほうが良い。訓練時に地域の方や児童が参加してくれた場合は、積極的に交流を図る。心構えは重要だが、初動要員だけで避難所を開設するわけではないため、一人一人が意識を持っておく。また、開設にあたってまず必要な物品やマニュアルを防災備蓄倉庫のわかりやすい場所に置いておき、周知しておく。リーダーと初動要員指揮者の負担が大きいため、可能な部分は他のメンバーに分担する。
181		防災倉庫から実際に出して組み立てを行い、実際に災害が発生した時の動きを身近に体験できて良かった。一方でもっと方向を絞ったトレーニングをするなど、ポイントを絞って行ったほうが良いという意見もあった。

番号	項目	意見等
182	避難所体験	体験は、保護者や子どもも含め地域の方とのふれあいがあり良かった。地域の方が協力的、子ども達の参加は活気がありよかった。ブルーシート：1.8m×1.8mでなく貼ってしまっただが、臨機応変な対応ができた。今回体育館に体験で人が一度に入ったが、思いのほか狭いと感じた。ブルーシートをサイズダウンしてもいいのではないか。体育館の面積を目の当たりにされ定員があるのかと聞かれた（回答については不明）。トイレの衛生管理の大切さを実感した。トイレについては他の職員の簡易トイレの説明を聞いたが全ての職員が説明出来るようにすることが必要と感じた。今回マンホールトイレの上屋の設営に手間取り、習熟している人が必要。大きいテントがあったが、それはマンホールトイレ用なのか（車いすの方ようもありかと）。
183		地区の方々が作成したビブスを活用してのチーム編成は効率・効果的であった。また、ビブスに資料などの書類を格納できるので実用的であった。
184		避難スペース設置について、体育館の収容数が70区画程度では住民は不安。校舎内のどの教室を避難場所として使用できるか明確にしてほしいとご意見ありました。
185		展示で簡易ベッドを用意したが、実際はどの場面で使用するのか知りたい。また、避難スペースのテントにはブルーシートを敷いたほうが良い。小学生がアルミブランケットなど避難所の体験に興味を示していたことは良かった。水害発生時は、●●小と他数か所の小学校が避難所として指定されている。その際、メールの発信の対象となり招集を求められるのは、担当地区の職員のみという理解で良いか。
186		当初、ブースのリーダーが指示を出さずに動いてしまい、周囲から指導され軌道修正をし、その後上手く流れた。避難スペースのブースでは、物自体の指示マニュアルがあると誰でも動けるのではないか。（ベッドをテントの中で使用するのか、誰用に使用するものなのか等）また、テントの中にブルーシートがあると良い。独自にビブスを作成しているが、そのビブスの前面にポケットがあり、マニュアルや担当名が入れられ、分かりやすく活用できた。
187		参加した保護者から以下の要望があった。発電機の設置台数が少ないのではないか。また発電機を使用する際の、優先用途は何か。（携帯電話の充電等に使っていいのか。）
188		避難所体験というタイトル、また内容説明のための大きめの掲示物があると良いという意見があった。地区協議会訓練時にはブルーシートを体育館の全面に敷き、床を汚さないよう実施するが、市は敷かないのかと質問があった。その場では、発災時には避難所をいち早く開けることが重要であるため、ブルーシートを敷く時間はないと回答した。訓練のために物品を用意することについては検討の必要があると思われるが、各備品をどのような場面でどう使用するかわかるような資料がより多くあると良い。
189		障がい者や高齢者も多く避難することが予想されるので椅子をもっと用意した方が良い。多くの椅子の用意を依頼したい。
190		簡易テントやベッドは好評だった（備蓄数について、質問があったが答えられなかった）。ブルーシートはいくつ並べることができるのか、質問があったが答えられなかった。手で巻くラジオを体験してもらったが、大変だったので、電池が必要だと感じた。足が悪い人もいたので、椅子があると良いと思ったという声があった。参加者について、4～6年生まで拵げてみてもよかったのではという意見と、説明したりすると今回くらいの人数が丁度良いという意見がありました。（個人的には、時間的にも丁度良い人数だと感じました）参加者からの質問に答えられなかった職員や住民がいたため、よくある質問集（Q&A）などがあると良いと思います。
191		次回も食品を配る場合は、クッキーと水はなしにしてアルファ米のみが良い。水は体育館に持ち込むのが重い。子どもは甘いもののほうが好きであるため、クッキーを選択するほうが多い。クッキーはそのまま食べられてしまうので、体験を前提にするのであれば、調理を必要とするアルファ米のほうが良いのでは？ご飯ものの配布のみにする。
192		6年生の参加が少なく残念だった。6年生をすべて連れてきて欲しかった。年に1回の訓練なので参加のさせ方を工夫してほしい。せっかくの引き取り訓練なので、保護者を巻き込んで地区ごとにリーダーを決めてやったらどうか。
193		6年生及びその保護者を対象に避難所体験を行ったが、参加人数が少なく余裕があったことから、より多くの方を参加対象として行うことが可能であった。防災意識を醸成し、保護者に対しても当事者意識をもってもらうためにも、避難所体験については対象を広げて行うべきとの意見があった。
194		小学生と違い、中学生には避難所の開設準備等に携わってほしいとの意見が多数あった。

番号	項目	意見等
195	避難所体験	児童や保護者が避難所を体験する取組は、防災意識の啓発を図る点で良い取組だったと感じる。34人の児童が参加したが、20分くらいで人が居なくなった状況であった。また、参加した保護者からは、避難所でのテントの使用など、プライバシーに関する質問が出ていた。大規模災害時の避難生活におけるプライバシーの配慮が引き続き課題と感じる。来年度以降も避難所体験を継続するのであれば、対象の学年を広げても良いとの意見があった。
196		児童の参加が予想よりも多かったが、さらに多くの方に参加いただく必要がある。事前の周知方法や当日の案内を工夫する必要があると感じた。
197		6年生及びその保護者を対象に避難所体験を行ったが、参加人数が少なく余裕があったことから、より多くの方を参加対象として行うことが可能であった。防災意識を醸成し、保護者に対しても当事者意識をもってもらうためにも、避難所体験については学年や地域住民なども含め対象を広げて行うべきとの意見があった。避難所体験については余裕があったことから、学校と協議し対象とする学年の範囲を広げたり、地域の方にも体験いただけるような場にしていく。
198		避難所スペース体験でスペースへ案内する際に、シートに番号は振るものの、避難場所全体の番号案内表示があった方が、分かりやすいのでは。受付で配布する避難者名簿及び健康チェックカードについて、健康チェックカードは多く用意されているが、避難者名簿が非常に少なかった。体育館の入口から受付を想定しているが、入口付近には部活動の用品が置かれており、有事の際には使用できない状況になっている。避難所スペースの案内表示の検討をお願いしたい。必要部数の用意をお願いしたい。学校側へお伝えいただきたい。
199		屋外にトイレを設置する場合、強風対策を施すべき。
200		準備が必要な量と比べて、準備時間が足りない。避難所体験の内容を絞る。
201		避難所体験者が少なかった（45人）。地域の周知方法にも課題はあるが、行政・学校でも参加者が増えるよう検討してほしい。避難所体験はとても有意義であるため、なるべく多くの児童に経験してほしいとご意見がありました。
202		受付用に掲示物なども数種類準備されていたが、どこまで掲示するのか等の全体像が把握しづらい。説明会で配布された資料のイメージ写真だけでなく、具体的な全体図があった方が速やかに準備ができるのではないかと。また、今回はあらかじめ準備されていた体験参加者への配布物の印刷部数に偏りがあり、受付担当職員がわかりづらく感じたとの意見がありました。
203		受付には、日本語以外の表記も必要なのではないか。ブルーシートの大きさが小さく感じる（180cm×180cmの大きさに満たないのではないかと）。
204		体育館内での展示訓練だったが、実災害時の対応を考えるとマニュアル等で実際に予定されている位置に設置する訓練が必要だと思う。テントの畳み方が説明書ではわかりにくい。写真付きのマニュアル等を用意できないか。倉庫からの物品の搬出入など雨だともっと大変だと思う。明かりや雨具の用意が必要なことを改めて感じた。今回訓練開始時に小雨だったことで、雨の時を意識したものと思われます。今後の訓練で晴天時には、雨天時を意識するというのを訓練開始時に説明することが有効だと思います。
205		前述しているが、学校が避難所体験を任意としたため、避難所体験に見学にくる中学生がほとんどいなかった。「学校は防災教育の日を市が主催して行っている事業であって、自分たちは関係ないことと思っているのではないかと」と地域の方々からの不満が多かった。
206		今回の避難所体験は、小学校6年生及び中学校3年生、その保護者が参加していたが他の学年も参加したかったのではないかとの声があった。
207		生徒への周知が薄いような気がした。3年生は全員体験に来るもの（必ず体験するものと位置付けられているもの）だと思っていたが、実際はそうではなく、見学する生徒は少なかった。下校する前に体育館に寄って避難所体験をすることを訓練の1つとして、担任の先生等から生徒に伝えてほしい。学校としては、「市がやっているもの」という認識がまだ強いのだと思うので、一体にやっているということを総合防災安全課や教育部から強く伝えてほしい。また、第1体育館よりも第2体育館の方が帰り道の導線にあるので入りやすいかもしれない。来年度実施するときには検討してほしい。学校事務の職員曰く、アプリ？で保護者には周知されていたとのこと。見落とししている＆重要視していない保護者が多かったのかもしれないので、別の周知方法が必要だと感じた。
208		台湾地震での避難所設営及び二次避難所（宿泊施設等）を、日本も参考にすべき（ブルーシートではなく簡易テントでプライバシー配慮等）。

番号	項目	意見等	
209	ハイブリッド発電機の模擬設置訓練	ガソリンとガスのハイブリッドであるのとのことであるが、ガソリンの取り扱いは、火気厳禁、爆発の可能性もある。プロパンガスの場所と、体育館の場所が離れているので、ガスでの発電は難しいのではないかと意見があった。ガソリンは爆発の可能性もあるため、複数人で周囲に注意しながら行う必要がある。(ガソリンの取り扱いは爆発の可能性のあることを、職員に改めて周知する。稼働時間は3時間くらいとのことだったので、どのタイミングで行うのか)体育館近くにプロパンガスをおくことはできるのか。	
210		備蓄されているガソリンでは最大4時間しか稼働できないことから、ハイブリッド発電機を使用する具体的なシーンやタイミングを例示して頂けると、緊急時の運用基準になると感じた。(ガソリンの給油計画みたいなものもあれば、あわせて示していただけると地域の方も安心すると感じた)。	
211		ハイブリッド発電機の燃料として8リットルのガソリン(最大4時間分)が備蓄倉庫の用意されているとのことだが、それでは足りないとの意見があった。備蓄倉庫のスペースの問題もあるが、もっと用意をしてもらいたい。	
212		発電機がどれくらいの使用時間が可能かわかりづらいため、可視化することを要望。その都度、取り扱い説明書で確認するのは手間なため、備品にシールで貼る等可視化。	
213		ハイブリッド発電機は4時間しか使えない。電気自動車であれば3日間使える。●●市は電気自動車に対応するとの情報あり。分電盤を変えることで対応可能とのことですので、総合防災安全課は対応願います。	
214		ハイブリッド発電機は防災備蓄委倉庫から体育館横まで運ぶのが大変だった。避難所対応職員が少なく困難。教育総務課または総合防災安全課はハイブリッド発電機を体育館内に配備できるよう学校との調整をお願いします。	
215		発電機が極めて重く、保管倉庫も避難所から遠いため運用に課題がある。発電機の小型・軽量化や避難所と近接した倉庫(保管所)が必要。	
216		雨の際は、今の倉庫から体育館脇まで発電機をもってくることはむずかしい。体育館に持っていくためには校庭を横切る必要があるが校庭の水はけが悪く水たまりになっている。	
217		ハイブリッド発電機の設置について、雨天時の対策が必要。訓練で実際に操作出来るよう検討を。雨除けのテント設置や建物内までのコードの購入等検討が必要である。	
218		現状では、分電盤からの給電ができないため、早めの整備をお願いしたい。	
219		ハイブリッド発電機の手順書を防災備蓄倉庫に格納しておいてもらいたい(操作が複雑なため)。	
220		接続ケーブルがなかったため、接続訓練実施せず。接続する分電盤の場所を確認した。	
221		ハイブリッド発電機の模擬設置訓練で防災備蓄倉庫の外で実施し、学校側にベニヤ板を敷いたが、もっと枚数を増やしてもらいたいとの意見があった。また、ベニヤ板を設置した場所が鉄状の網が敷かれていたが震災の際に落ちないのか心配する声があった。	
222		訓練だからとハイブリッド発電機の作動を省略したが、訓練だからこそやるべきではないか。	
223		特設公衆電話の設置	脚立について、特設公衆電話のボックスが高い位置にあるため、実際に発災し、使用する時には何を使用して高い位置のボックスを開けるのかを想定する必要があると思う(訓練時は学校側で近くに脚立をおいてくれている)。
224			非常用特設電話の使い方をわかりやすくしてほしい。手順がブラッシュアップされてきて素晴らしいと思います。
225			電話機1台が訓練時、不具合があることが判明。不具合1台の交換。
226			設置訓練時に電話機の点検も同時に実施すべき。防災行政無線と同様に、特設公衆電話設置訓練時に全ての電話機の点検を兼ねて、通話テストを実施する。
227			特設公衆電話の設置で●●小学校では、電源元が外にあり、ドアを閉められない状態であったが震災時、寒い時もあるのでドアを閉めるようにできないかとの声があった。
228			特設公衆電話の設置で、電話ボックスが体育館の扉の外にあり、ドアが閉められない状態であった。構造上、ドアが閉められないと、冬だと寒いのではないかという声があった。
229	雨天時の使用について、電話ボックスを閉めた状態で公衆電話を設置することができないため、雨天時はどうするのか?電話ボックスを閉めたままでも電話線を外にだせるようにしたほうが良い。		

番号	項目	意見等
230	特設公衆電話	特設公衆電話については、体育館では、扉によって延長ケーブル等を通すことができない可能性がある。配線をどうするのかを含め、設置場所は体育館なのか、どこなのかの検討をしておく必要がある。
231	特設公衆電話の設置	誰かの指示がないと動けない、というのではなく（発災直後）参集した人（初動要員のみでなく地域住民も含めて）が行動できるように訓練しておく必要がある。例えば、特設公衆電話の受話器などの設備・備品については、訓練の機会ごとに点検すべき。
232	ラインワークス	リーダーよりラインワークスから教育総務課へ終了連絡を行った。リーダーから少ない人数にもかかわらず、全員で協力してできたとのまとめがあった。振り返りの内容は次の総括へ記載する。
233	ラインワークス	普段はラインもめったに使用しないので、使い方がわからず苦労しました。もう少し丁寧なマニュアルがほしい。別の携帯で撮った写真も送ろうとしたが結局写真なども送れなかった。
234	ラインワークス	スマホ、マニュアルの文字が小さくリーダーが見ずらそうであった。 아이폰とアンドロイドの使い方自体がわかりにくかった。もう少しわかりやすいマニュアルが望まれる。 아이폰・アンドロイドは、基本的な操作自体が違うので、その基本的な使い方があるとさらによいのでは。
235	ラインワークス	ラインワークスの使用方法について事前説明があった方が対応に苦慮しない。 ID及びパスワードが長い場合、もう少し簡単にならないか。ラインワークスの使用方法については事前説明をお願いしたい。 ID及びパスワードについては検討をお願いしたい。
236	ラインワークス	スマートフォンのラインワークスで終了連絡の対応（容量などの影響なかなか通信状況が安定しなかった様子）。
237	マニュアル	避難所運営マニュアルについて、●●小と●●施設が一緒になっているのを分けてほしいとの要望があった。 ページ数が多くなってしまい、必要な記述が探しづらいとの意見が寄せられた。 また、内容についても古いのではないかと、最新のものに更新してほしいとの意見があった。
238	マニュアル	災害時（水害時）の食事提供のタイミングがマニュアルに盛り込まれていない。 元年の台風を教訓にし、マニュアルに食事のタイミングを盛り込むとよい（基準や原則を）。 当時は、声があがると迷うことが多くあった。
239	マニュアル	受付のレイアウトが分かりづらく準備に時間を要した。 実際の受付で使用する場合、イメージしやすいようなレイアウト（参考）の検討をお願いしたい。
240	マニュアル	避難所運営マニュアルを更新してほしい。 事前説明会の資料と違うと感じる箇所もある。 また、内容について検討中であっても、いつ震災等が起きるかわからないので、現在決まっている運用については漏れなく記入してもらいたい（ペット避難等）。
241	マニュアル	学校の運営マニュアルが古い。 マニュアル内の学校の部屋番号等も現在と異なる。 又、想定しない導線から避難者が来た際の対応も考えておきたい。
242	マニュアル	新しい防災計画にあったマニュアルを作成して欲しい。 詳細なマニュアルも大切だが、実務的で簡単なマニュアルを作成して欲しい。 新しい避難者名簿に変えてください。 早々にマニュアルは作成し、簡単なマニュアルも必要と感じた。
243	マニュアル	●●小と一緒にいるためマニュアルが見づらい。 いざという時の混乱を避けるため、分冊化をすべきである。
244	マニュアル	初動要員や避難所担当職員の中にも自身の役割や動き方を把握できていない方がいました。 職員の研修目的も含めた訓練実施ではありますが、発災時に訓練参加できている職員のみが参加できるとも限らないことから、1枚程度にまとめたチャート表を防災倉庫等に大きく掲示するなど防災倉庫さえ開けば動き始められる工夫が必要と感じました。
245	マニュアル	防災備蓄倉庫の中が十分に整理されていなかった。 防災備蓄倉庫が2箇所離れたところに所在されているので、どちらの倉庫に入っているのか、避難所運営マニュアルに記載してほうが良い。
246	マニュアル	簡易トイレの使用後の処理・処理したものの置き場等、今後のマニュアルに入れてほしい。 教育総務課または総合防災安全課は至急対応してください。
247	マニュアル	参集職員が1人でも避難所を開設すべきか。 手順はどうか。 1人でもやらなくてはならないことは何か。 例えば、建物利用調査は、複数で確認するのか、1人でもよいのかなど…、統一的な行動マニュアルを整理しておくとういと思った。

番号	項目	意見等
248	掲示・案内・	校舎の見取図は、初めて来た方が見たときに分かりやすいように、複数の方角から見たパターンで作成した方が良い。避難スペース体験のテントには、「授乳用」等の表示があった方が良い。収納されている箱にも何用か書いた方が良い。アルミブランケットの存在を知ってもらうため、事前に市民に配布するなどして周知が必要。マンホールトイレは完成形だけを展示するのではなく、組み立ての途中経過が分かるような設置をした方が良い。避難所体験の各ブースには、何のブースなのかを表示した方が良い。
249	広報	テント、トイレ用テントについて、できるだけ可視化することで多くの人に周知できるよう「使用中」などの掲示物が欲しい。消費期限がない特に衛生用品は、人が使用するもののため、使用時の衛生面が必須なため。受付対応の備品マスクの定期的な点検と更新を要望（当日、多少濡れていた）。
250		できるだけ可視化することで多くの人に周知できるよう、テント、トイレ用テントについて、「使用中」などの掲示物が欲しい。避難所開設の情報共有短縮につながるよう体育館に避難所設置レイアウトの常設掲示をしてほしい。
251		避難所を開設後に、性被害が発生していることは周知の事実。トイレは男女の別を明確にした方がよい。トイレの男性・女性のマーク表示が必要なため、トイレセットの備品の中にパウチをした表示を備えてください。教育総務課または総合防災安全課は対応願います。
252		今回の訓練の内容をもっと市民の皆さんに知ってもらいたい。自分の避難所がどこかもわからない市民も多くいると思う。
253	感染症対策	●●中の生徒からの意見で組み立てトイレの便座を拭くための除菌シートが欲しいとの声があった。
254		トイレ体験をした来場者から、不特定多数の人が使用するため、便座を除菌するスプレーなどを求める声があったとのこと。
255		簡易トイレの始末をしたあとのビニール手袋がない。教育総務課または総合防災安全課は至急配備をお願いします。※感染症対策の観点からも至急対応願います。
256		避難所を開設した後、直ちに運営上の問題が発生することが予想されます。開設後の運営についてマニュアル化や訓練が必要です。①発熱者を受け入れた後にどのような対応が必要か。②ペットを受け入れた後に鳴き声対策や糞尿などの衛生をどのように維持するか。③トイレの衛生をどのように維持するのか。③については、あらかじめ受付の段階で、避難所担当を含め全員が被災者であること、避難者も含め全員で避難所を運営していくことをチラシにして配付してほしい。教育総務課または総合防災安全課は対応願います。
257		訓練時に屋外等で声が通るよう、マスクなしで説明等することが求められる状況があるが、引き続き参加者が感染しないようマスクをつけて訓練に従事することが許容されるよう、説明会資料等で記載いただきたい（福祉避難所部会の資料には避難者の受け入れ訓練時、受付はマスク手袋着用と記載あり）。
258	要配慮者	●●は災害時に高齢者を引き受けるということを知ったことがある。●●小に避難してきた人が高齢者の場合に対応してもらえるのか確認してほしい。教育総務課または総合防災安全課は確認をお願いします。
259		マンホールトイレ体験をしてもらったが、体の小さい児童はうまく座れなかったため、実際の避難所運営の際にも注意が必要だと思われる。
260		便座が大人用の1個ついているが、子ども用に便座があるといいではないかとの意見あり。
261		総合受付で体育館利用者（一般）と要配慮者等を振分けるトリアージのカードがあると良いという意見が出た。
262		マンホールトイレのテントは小さくて、車いすの人は利用できない。車いすの人は要配慮者のため、校舎内に避難していただくため、誰でもトイレが利用できるが、避難スペースぐらいのテントがあれば使用も可能ではないかと思う。
263	様式関係	避難者区画番号のレイアウトデータを防災備蓄倉庫に備えていただくように依頼しました。再度本報告書にデータ添付します。教育総務課または総合防災安全課は至急備えてください。
264		避難者名簿の新様式に「性別」欄があるが、ジェンダーレスの中「性別」欄はなくてよいのではないかと。（必要であれば、その理由を記してほしい。）教育総務課または総合防災安全課は至急対応してください。

番号	項目	意見等
265	学校施設・備品等	備蓄倉庫から体育館までの近道があった。事前点検が必要。前回開設したとき、トランシーバーが役に立った。
266		トランシーバーは事前に学校職員が充電対応をしていたが、複数台応答ができないものがあった。使用不可の選別まではできなかった。学校職員によると支給元が教育総務課か総合防災安全課か不明とのことだった。教育総務課または総合防災安全課は点検及び修理をお願いします。
267		体育館の舞台の使用について市の見解を示しておいた方がよい。想定より多く避難者がきてしまった場合に、舞台を使っていいのか判断に迷う。(授乳室としての使用では？との話もあったが、明示してほしい。)教育総務課または総合防災安全課は至急対応してください。
268		体育館や教室の窓ガラスには飛散防止フィルムを張ったほうがいいのか。二次避難所との連携訓練を実施したほうが良いマンホールトイレの1台に足の先に不具合があるものと、目隠しのテントのポールに不具合があったので総合防災安全課には確認をお願いします。不具合は、現物を確認し対応願います。
269		学校で準備した無線機を体育館内と体育館横の備蓄倉庫間で使用したところ、電波がなくて使用できなかった。
270		●●4丁目と●●5丁目と同じ自治会だが、避難所が4丁目は●●小、5丁目は●●高校と分かれている。自治会内で避難所が分かれていると対応が難しいことがある。どうかできないか。
271	避難の考え方・周知	●●自治会は、同じ自治会内であっても住所によって避難所が分かれている。可能であれば同じ避難所にまとめてもらいたい(●●四丁目は●●小、五丁目は●●高校)。
272		プールの更衣室と東側昇降口の2か所設けているが、更衣室は体育館のセコムキーとは別のカギで施錠されており、東側昇降口も学校側の許可を受けてから使用可能となるため、発災時の運用が懸念される。ペットは家族同然なので人と同じように対応してほしい。
273		地域の方は高齢でもあり、朝早くから1, 2時間目の授業を担当するので準備もしていた。お疲れの様子だったため声をかけて早く帰ってもらった。地域の方との意見交換は前半に行った。●●はどうしても人があふれてしまうので、元気な人は●●ではなく、さらに北の避難所に行ってほしい。多摩川のバスにも期待したいところ、との意見があった。
274		まずは初動が駆けつけることになるので、一人でも、まず何ができるか、何をするかを考えておく必要がある。避難所にもよるが、実際の時に動けるかどうか、何から手を付けるか難しいと思うとの意見があった。
275		水害時に使用しない避難所、建物被害等で使用できない場合などで、「避難者が来てしまった時」、現場で周知する方法について決めておく必要があると思う。HP等で来る前の確認方法の周知も必要。避難所やその物品の使い方をみんなが知っているわけではなく、勝手なことをする人がいると混乱しそうで心配。トイレは大小で分けて使用するようにすると効率的で使用しやすくなると聞いたのでそうしてもらいたい。ゴミ出しについて、学校内の集積場所を決めておく必要がある。【私見】マニュアルには記載されているが適切な場所か確認必要。感染症対策として避難場所を分けているが敷地内で受け付けると間違えそうなので、敷地外の時点で導線を分け経路も敷地外から回る形にしてはどうか。物品管理として、アルファ米など消耗品の数量(使用済の量)を把握するため、空き箱を適切に管理する手法を検討してはどうか。
276		●●小に限らず、風水害時は、車への被害を避ける観点からも車による避難者も多いと思う(羽毛下からとか。利便性やプライバシー確保の利点もある)。車で避難してくる方への対策も検討が必要では(駐車スペースとか)。避難所近隣の駐車場や駐車場完備の施設を市で借り上げられるとよいのでは。
277		車で避難できると思い、わからずに車でくる方もいるので、門のところの誘導が必要ではないか。発災時に手伝える市民の方に何をどう手伝えるかのアクションカード(あなたは何をやってくださいということが書いてある)を作って入口で渡してはどうか。そうすれば、指示しなくても手伝えるのではないか。
278		地域の方から、大規模マンションの住人は避難所に避難することはあまりないと思うが、市は、食料品の配給をどのようにするのか明らかにしてほしいとの意見あり。
279		地域住民には「自助」の必要性・重要性がまだまだ浸透していない。行政側からもっと広報してもらいたい。

番号	項目	意見等
280	避難の考え方	自宅からの可能な範囲での避難物資（自身の毛布や飲食物等）の持参について周知するとともに、自宅避難ができる人は避難所へは来ないように周知することも大事。（今日の参加者数を見ても）地域住民を（避難所開設訓練に）強制的にでも参加させるようにしないと、いざという時に、避難所すら知らない（避難できない）人もいる。行政側で何とかできないものか。
281	周知	●●の子供たちは、特に配慮をしなければならない。市としてどのように対応する予定なのか。●●小に避難させるのか。そのあたりのことを、事前調整していただきたい。その結果を初動要員・避難所担当職員に周知・情報共有してもらいたいとのこと。
282	事業実施	避難所担当職員は、遠方に居住している人も少なくなく、休日・夜間に発災した際、どれだけの職員が参集できるかわからない。震災の際の避難所開設に当たっては、地域住民の協力は不可欠であり、その意識を醸成するためにも、各学校の児童・生徒とその保護者にも避難所開設に参加してもらってもよいと思う。
283	に関する意見	4月は年度初めでもあり、繁忙期の最中での開催は関係職員にとって負担が重なる。秋の実施により、年度末・当初の繁忙期を回避していただけると幸い。当地区協議会においては、秋にも防災訓練を実施しているが、気候的にも過ごしやすく問題は生じていない。訓練時でのリーダー・サブリーダー・初動要員指揮者以外は、やや傍観者としての立場に位置する場面も見受けられた。発災時においては、参集状況によって誰もがどの役割でも担える体制準備が必要。役割分担のローテーション制を導入して、訓練参加者の誰もが様々な状況下でも柔軟に役割を担えるよう備えて欲しい。その前段として、研修にて主体性を発揮できる具体的なマニュアルを整備して学習したうえで訓練に参加することで、訓練を傍観せず先導する目線が加わり避難所職員全体の飛躍的な意識の向上が期待できる。
284		参加者の負担を考慮して、時間短縮をお願いしたいとの意見あり。
285		●●施設は、●●会と施設担当者（●●）のみの参加で、児童・生徒、保護者等は参加していない。●●会からは、もっと広く、一般の市民が参加するような訓練にするべきだとの意見が寄せられた。また、●●からは、開催時期について、年度当初の忙しい時期は避けてほしいとの意見があった。
286		訓練の時間が長い。もっと時間を短くして実施するか弁当を出して欲しい。3連休に訓練をしてもみんな出掛けてしまい参加しない。日程についてはよく考えてほしい。学校の行事や天候等によりこの時期に実施しているが伺って報告する。
287		腹が減った。もう少し早い時間から始めてほしい。この時間帯なら、お弁当を支給してほしい。
288		災害対策服は時期的に暑いので、ベストやビブス着用での訓練が望ましいと思います。
289	訓練内容	これまでの訓練と違い、小学生・保護者・地域の方、先生などの避難所体験があり、防災訓練の共有ができたと思う。
290		細かな課題は散見されたが、全体としては概ね良好に実施できた。地区協議会の方が友好的に参加いただけていることも大きな要因の一つである。また、参加者のひとりひとりが発災時に指示が出せるよう、訓練の役割配置・運営においても検討してほしい。
291		今回参加した職員や地域の方からの要望や意見を整理し、報告書に記載することをリーダーから伝えた。（内容については本報告書のそれぞれの項目に記載済）その他は特に問題なく、避難所に合わせた訓練を臨機応変に行って短い時間の中でも効果的だったと考える。昨年までの訓練と違い実際に多くの防災用具を使用した訓練になった。使用しないとわからないことも理解できたが、いざ本当の災害が夜間に発生し、大勢が避難してきた中で行うことは困難もあると実感した。今回用品、用具の使用方法なども検証できたのは今回の成果であったと思う。
292		●●係長の進行でスムーズに実施できた。
293		人数が多いこともあり、体験の片づけ、防災備蓄倉庫への搬入等、問題なく出来た。体育館の清掃も、学校の清掃用具（モップ等）を借りて実施することが出来た。最終的に、忘れ物やごみ等の処理が出来ていることを確認した。
294		振り返りとして意見や要望のあった事項についてリーダーから報告があり、参加者で共有した。その後リーダーが終了報告を行っていた。
295		訓練実施中に出された意見について、避難所担当リーダーから内容の確認が適切に行われ参加者全員で共有した。

番号	項目	意見等
296	訓練内容	避難所開設に向けて、地域と市で少しずつ知識が定着しているように感じる。想定されている総合受付からの誘導が正門からでは無いため、誘導の訓練が必要。（車両による搬入等も）避難所運営に協力いただける方が自分が何をやるべきか分かるように、アクションカード（役割分担ややるべきことが明記されているカード）のようなものを受付で配れると良いと思う。（防災教育の日の訓練もそのようなものがあると良い。）避難所に避難してくる方は高齢者や障がい者等の比較的弱者の方が多いと思う。そうした方への対応や医療との連携、傷病人の移送等は事前に想定しておけると良い。
297		防災教育の日での「地域の方が参加した訓練」以外での市職員の習熟体制の検討。市職員はリーダーを除き、ほとんどが防災教育の日でしか避難所開設等の訓練を実施していない状況。地域住民側は、地域訓練で避難所開設を行っていることもあり、市職員の対応に物足りなさを感じていると思われる。地域住民が参加する場合、どうしてもそちらへの対応が優先されるところがあり、職員は疑問や質問があっても確認しにくいところがあります。防災教育の日とは別の時期に、対象を市職員・教職員等に限定した地域住民が参加しない形での訓練を実施する必要があるのではないかと思います。
298		今回は避難所体験ということで、すでに総合受付を通過してきた一般避難者の対応という前提だったが、総合受付がどのようになるのかが見えない。「利用計画」では校舎内になることからできないのかもしれないが、総合受付は受付業務以外にも、案内、苦情対応など、1対1になることもあることから人手も必要だし、不安を感じる。仮に校舎内利用ができないのなら、本来の場所を想定しながら、別の場所で配置などを考えて、動きながらシュミレーションしていくのはどうだろうか。ただ、その時、いるメンバーは発災時にはいないことが想定されるため、発災後、地域住民を含めた人数でどうやって避難所開設までこぎつけるかのシュミレーションも必要になる。
299		協働優先ではなく、初動要員や避難所担当職員だけでシミュレーションを行う時間が欲しい。市民は市の職員は当然すべての動線や施設の利用方法（教室の区分）を把握していると思っているが、実際は現場を見ていない。特に体育館以外の教室（要配慮者、発熱者、ペット）には過去一度も現場を見たことがないケースが多く、発災時スムーズに対応できる気がしない。協働訓練と市民参加訓練を年度交互に行う。
300		今回トイレ体験があったが、設置訓練をやらないと意味がないのではないかと。嵐の際にはもっと困難で時間がかかるだろうという意見があった。防災マップ、AEDマップを配布した（地区協議会）。
301		トイレについて説明ができるようにしておかないといけないと思った。子どもや地域の方々に参加してくれて良かった。コロナ禍もあり、初めての経験だった。質問もあり、参加者が熱心だった。「定員があるのか？」という質問もあったが、大勢が参加した中で、この体育館は狭いと感じた。
302		●●高校が改築中。今の校舎から体育館までは階段を経由しなくてはならない。要配慮者等も含めて、避難訓練を実施してみないと課題もわからず、心配。また、●●高校が避難地区の地域は12,000人だが、避難可能な人数は何人を想定しているか。
303		訓練全体について、簡潔に時短で進めてもらいたいとご意見をいただいた。地域の方の解散は定刻であったが、有事の際に避難所を速やかに開設できるよう、日頃から必要な手順の共有や防災倉庫内外の整理整頓が必要である。
304		防災意識を高め、対応能力を向上させるために、市と地域の方が協働で行う大規模な訓練の実施に加え、的を絞った小規模な訓練の回数を増やすことなどが必要との意見があった。防災教育の日の訓練では時間の問題もあり、訓練できる内容が限定されてしまう。大規模な訓練に加えて、避難所開設に特化した訓練、開設後に行う用具設置訓練などを実施し、練度をあげていく必要がある。
305		訓練参加に当たり、参加者の貴重品を管理できるよう準備してほしい。施錠できる部屋など何らかの統一した管理方法を提示してほしい。
306		例年できていない●●高校でも実際の訓練を行ってみたい。体育館天井にはまったボールについて、建物利用調査の際に、危険箇所とするか否か、確認をする必要があるのではないかと。その他、とるべきもしくはとりうる対応があるのについても検討すべきである。
307		物品の運び出しからトランシーバーを使って訓練をすればよかった。
308		並行して行われた訓練に人員を取られ、また、訓練欠席者が複数名いたことで、実働人員が少なかったため、設置に時間を要した。
309		令和5年度に提出した報告書で現状を確認した。まったく改善されてなく、地域の方から非難を浴びた。リーダーは特に標的になり、他の職員も立場がなかった。このため、終了時間も伸びてしまった。その他は令和5年度の継続案件も含め、「12」に記載。

番号	項目	意見等
310	訓練内容	今年度訓練参加に伴い、HPに掲載されている昨年度の訓練報告書を見たが、改善されていない箇所が多い。改善されていない中、翌年度に訓練をしても効果が少なくなってしまうと感じる。近隣住民の方から直接意見をいただくのは、初動要員や避難所職員になっている職員なので、前年度と同じ意見をいただくのは心苦しく感じる（もちろんすべてが改善すべき箇所だとは思っていないので、改善が簡単な箇所や、対応すべき箇所等についてです）。
311		台湾での民間企業等の寄付・協力活動を日本も見習うべき。行政はそれを促進すべし。
312	職員体制について	初動要員が事前に把握し支持してくれないと困る。この意見については、職員の出勤時間を早め時間外対応を増やすか、当日の現場確認を含めた訓練でもあることを参加住民に周知する必要があると考える。被災当日は、一番初めに必ず初動要員が参集するとは限らないことも踏まえた対応の訓練と考えればよいと思う。学校稼働日については、先生と市職員の協働作業となるので、今後検討の必要があるのでは。
313		近隣の●●小との連携が必要だと思う。市職員（特に初動要員）は、毎年同じ学校に行くのではなく、何年かに一度はもう一つの学校に行く等、両方対応できるような体制にするのが望ましいと感じた。
314	リーダー	職員の事前欠席が多い。今回は地域の方の参加が多く運搬等、滞りなく実施できたが、特に体験訓練は今回の職員数では実施が厳しい。原則参加を徹底してほしい。
315	サブリーダー等	今回は使わなかったが、実際に避難所を開設した時、トランシーバーが役に立った。発災時に、初動要員5人程で、実際にどうやって避難所を開設すべきかを考えておく必要がある。体育館の入口から防災備蓄倉庫に行くにはぐるっと回らなくては行けないが、いざという時はピアノの裏側に非常口があり、出入りができる。事前訓練は、いつもリーダーと初動要員指揮者のみの訓練となっているが、それぞれが経験しておく必要があるのではないか。輪番制にするべきである。
316		①学校が開いている日についても、避難所運営のしかたは変更なしか。教室に子どもがいるのでは？平日と休日で開設方法が変更になるとは総合防災安全課からは聞いていない。発災時は保護者が迎えに来て子どもは帰宅をする想定。②発災後に避難所にするかどうかの判断は誰がするのか。避難所になったことを市民はどのように知るのか。避難所を開設するかは災害対策本部が判断をする。※発災（震度5弱以上）→初動要員or避難所担当職員集合→開設指示・避難所開設準備の流れ。災害対策本部結成から判断までのタイムラグで、市民が避難してくる場合がある、その時は一時的に学校に避難させ、あとから、避難所に指定するなど前後する場合もあると想定される。臨機応変に対応する。③避難所開設の具体的な基準などを共有してほしい。近隣住民としても判断基準がないと避難所にいった方が良いのか行動もできない。初動要員が担当避難場所へ集合する参集基準は震度5弱である。市民の方が避難所に来る基準等その他については、総合防災安全課に確認する。今回の訓練に集まった人は高齢者がほとんど。実働として頼りになるのは、若い人の力である。中学生や高校生を対象とした訓練を授業の一環で実施してはどうか？総合防災安全課に伝える。④体育館が点検で使用不可であった場合は、校庭などに一時避難をさせるのか。実際その状況になった場合は、そうせざるをえないと考えられる。その後、本部の指示により、避難者の対応にあたる。
317		地域の方からは、実際の避難に際して指揮をする者が必要との見解があった。
318		事前準備や当日の進行等、リーダーになった職員の負担は非常に大きい。（当課のリーダーは勤務時間中に担当校に出向き打ち合わせ。当日の資料づくりや進め方の確認などをするので、本来の仕事ができなく時間外勤務。それでも終わらないので、防災教育の日の資料読み込みなどは、自宅で行っていた。）また、人事異動のたびにリーダーが変更になるのは効率が悪い。せつかく学校の特徴や地域の方との関係が築けたのに、リーダーが変わるたびにまた関係を築くのは効率が悪い。別のしくみを考える必要がある。地域の方からも同意見あり。このやり方には限界を感じる。至急、対応策を考えてください。
319		避難所担当が職場による選任というのは適切ではない。訓練参加の職員は10人 大地震が発生した場合に来れる職員はさらに少なくなる。初動要員が非常災害時に駆け付けられるとは限らない。教育総務課または総合防災安全課は以下について対応をお願いします。避難所担当の任命方法を再考する。避難所担当職員を増員する。初動要員以外に地域の人に非常災害時のカギを預ける。
320		避難所担当職員は異動等で簡単に変更になるため、実際に対応できる職員は少ないのではないかと感じる。部で担当する業務が決まっていることは理解するが、避難所運営ということだけで考えると、避難所担当職員の変更は極力しないべきだと思う。

番号	項目	意見等
321	職員体制について（リーダー・サブリーダー等）	人事異動に伴ってリーダーが変更になる仕組みだが、担当の小学校にも行ったことが無く、これまでの実施状況等も分からない中で、事前及び当日の役割がリーダーに偏りがちになってしまうように感じました。係長職に限らず、これまで担当の小学校で訓練に参加している方がいる場合には、リーダーを命じる。サブリーダーの役割の明確化、訓練への出席率の向上が必要と感じる。（サブリーダー3人のうち2人欠席でした。）
322		訓練全体を通して避難所リーダーの負担が大きい。サブリーダーの役割をもっと明確にしないと実際に開設したときに結局リーダーが訓練よりもっと増えるであろうすべての業務を負うことになる。避難所開設期間が長期化しても交代もできないのではないか。リーダーは固定せずにより多くの方が経験しておく必要がある。その立場になれば自分で考え判断し動けるし、リーダーが不在時にも対応できる。
323		当日、欠席の職員が多いため、勤務した職員の負担が大きい。（年々勤務する職員が少なくなっている。）災害発生時には、現状の職員人数では対応できない。部単位での張り付けではなく、再任用、会計年度任用職員を含め、全職員の配置が必要ではないか？また、学校職員の勤務基準が不明確。会計年度任用職員は市事務、市栄養士、調理員。指導室所管の会計年度任用職員は該当しないのか？また、都の事務補助でも人により勤務になるのか？学校職場から不満の声があがっている。
324		防災教育の日の参加者リストにおいて、事前調査では出席回答しているものの、直前にキャンセルする職員が多かった。そのため、作業に割く人員が想定より少なかった。出席してもしなくても任意で良いという考えになりかねないと思う。防災教育の日は、全庁での重要な取り組みであることを参加者に認識してもらうことや、所属長からも特段の用事がない限りは参加を促してもらうことが必要と感じた。
325		事前の準備として必要なのはわかるが、マニュアルにリーダーが早く来るように記載することはいかがなものか（早く来るように明記するのであれば時間外手当を出すべき）原課ではなく、事業を所管している部署で時間外手当を予算措置するまたは特定の職員は午後振替にする。
326		職員の勤務態度（防災訓練に係る姿勢）について
327		出席すると思っていた市の職員で当日参加しなかった人がいる。事情があって欠席されたとは思いますが、その場合の連絡方法については明確にルールとして決めてほしい。また、仕事を理由に訓練に参加されない方がいるが、訓練に参加しなくて本番は大丈夫なのだろうか。あらかじめ訓練日と参加者が決まっているのだから、各職場には理解ある対応をお願いすべきではないでしょうか。仕事で欠席なら代替りの人が参加する等・・・。
328		新人職員が配置されたが、新人職員自身の訓練として有効であったか疑問がありますし、本来訓練の対象となっている避難所担当職員や初動要員、地域の方の訓練にも人が多いことで、「実施する」のではなく「見ている」状況になってしまう人がいるなど、影響がでています。また、鍵の開錠や倉庫の説明など、見える範囲が限られており「見えない」人が発生していました。（住民参加が多い場合にも同様の懸念がありますが、新人職員については実施者側で調整可能と思います。）今回「移動」の都合で、新人の派遣場所の数が限られたのは理解できますが、訓練に影響が出ていることから、新人職員への説明・指示出しを行う職員を配置する、通常訓練とかぶらないメニューを用意する（時間をずらす）等を検討してください。
329		●●小では、リーダーが体調不良のため当日欠席となったが、サブリーダーは、リーダーの代わりに訓練を主導することができず管理職がリーダーとなって訓練を実施した。リーダー役割が集中しているため、リーダーが当日欠席の場合の対応を事前に決めておく必要がある。サブリーダーを1人にしてリーダーとサブリーダーの2人で訓練を運営する等、サブリーダーの人数と役割を見直しほしい。サブリーダーを複数人配置する時は、リーダー不在時の指揮者順位を明確にする（サブリーダー1、サブリーダー2、サブリーダー3）。
330		初動要員・避難所担当職員の配置について、力仕事が必要な場面が多く男性が必要と感じた。男女の人数配分を考慮してもらいたい。また、訓練については強制で出席していただきたいと思います。現状の配置では、発災した場合、避難所設営ができないと思います。
331	初動要員・避難所担当職員が、家庭の事情等により万が一、誰も参集できなかった場合、どのように対応すればいいのか、明示してもらいたい。	

番号	項目	意見等
332	職員体制について（リーダー・サブリーダー等）	新しく配属された学校で、リーダーをいきなり担当するより、何年か経験がある人がリーダーをやるほうが、学校のことも理解があるのでスムーズにできるのではないかと思う（他校を経験した人が別の学校の担当をやることは、他校の良い点も取り入れられたりするので、サブリーダー等から始めると良いと思う）。
333		いざ発災となると、同時に初動要員が参集するのは困難。初動要員が揃ってから開設準備を始めるといふわけにはいかない。ならば、避難所に避難してきた市民も含めて、来た人から準備できるよう（市の方針として）形を作っておくべき。台湾地震の避難所を参考に、簡易テントを敷き詰められると良い。（令和元年）台風19号の経験から、避難所に来た人にあるだけの食料を配ってしまうと、後から避難してきた人の分がなくなったり、必要以上の要求をしてくる人への対応についても、事前に統一的な方針を、市は持っておくべき。
334		●●高校の初動要員及び避難所担当職員への情報提供が全くない状況について、●●高校と調整はしていると思うので、調整した内容や経緯、●●高校からの回答など、現状行っていることと確認取れていることの情報提供を至急お願いしたい。

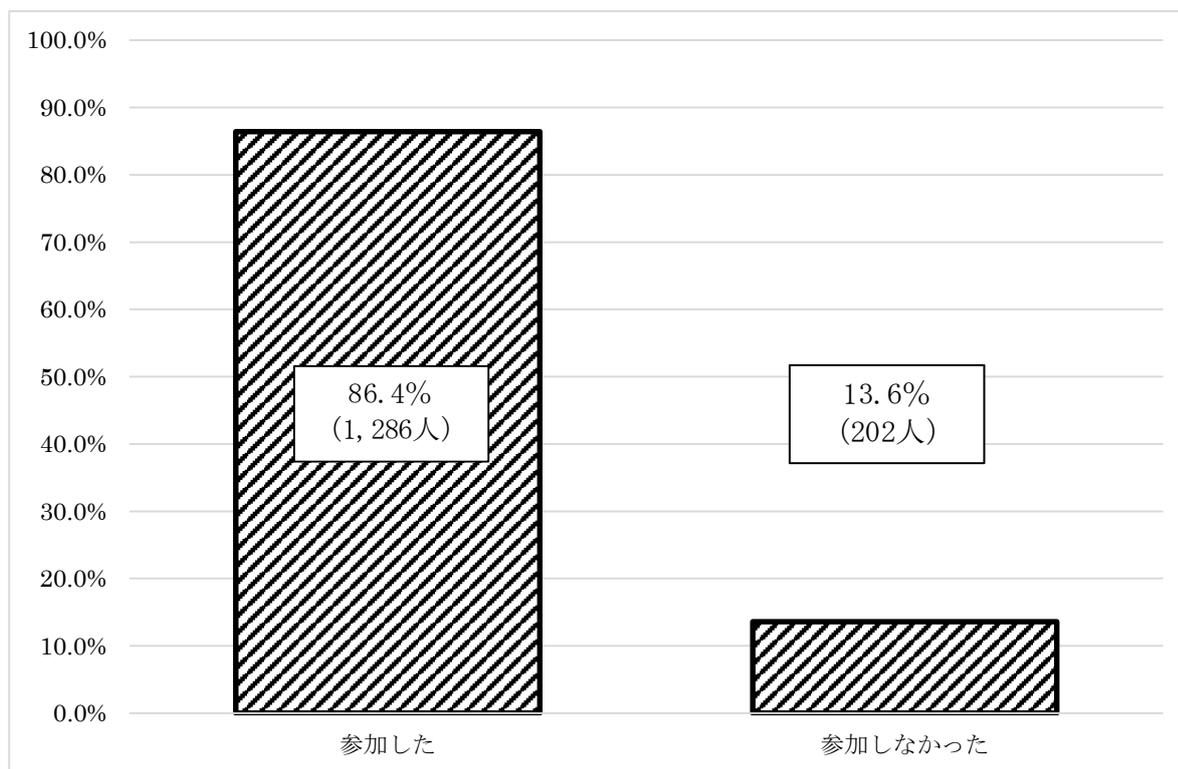
## 2-3 保護者アンケート実施結果

防災教育の日における趣旨やねらいの理解度や、防災に関する意識の高まりなどを把握し、次年度の取組に繋げるため、保護者の方を対象にアンケートを実施しました。

### ◆アンケート結果

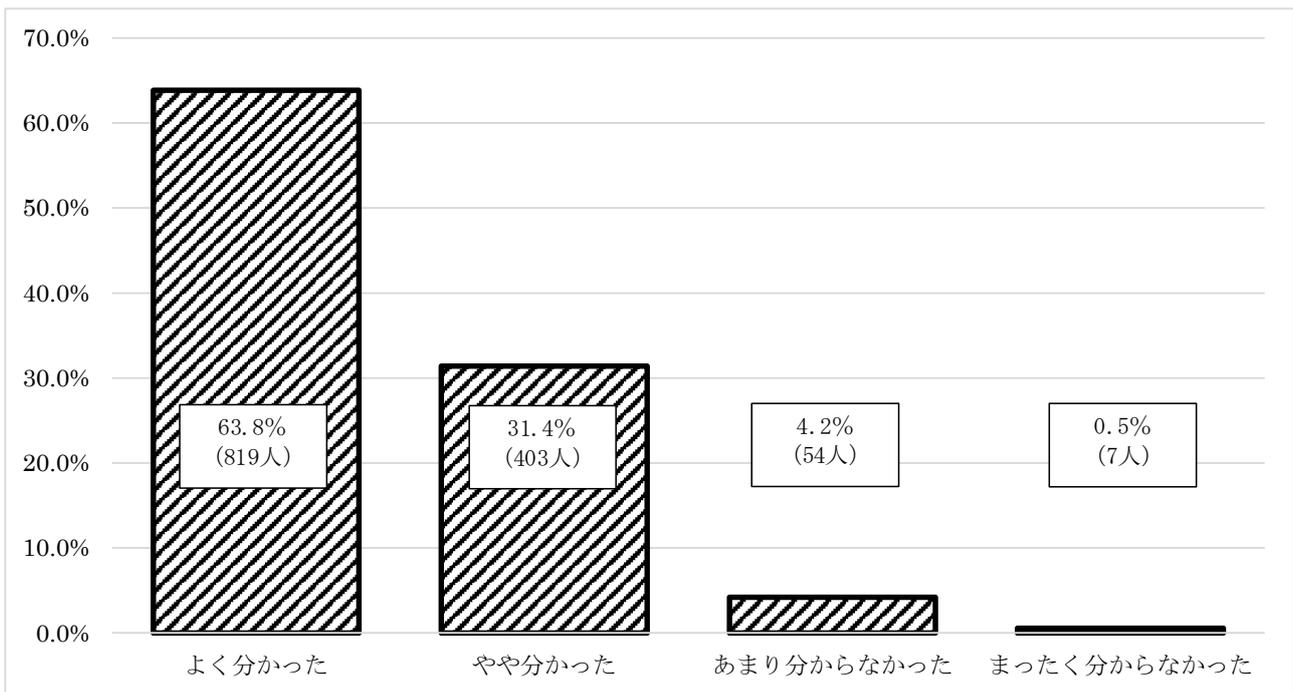
実施期間	令和6年4月27日（土）から5月10日（金）まで
対象者	市立小・中学校に在籍する児童・生徒の保護者 （「すぐーる」登録済みの方） 回答者数 1,488人（配信者数 10,719人）
実施方法	「すぐーる」により配信した「L o G o フォーム」アンケートフォーマットにより回答
その他	設問1は回答必須としたが、それ以外の設問は任意回答とするとともに複数回答可としたため、各設問の回答人数は一致しない

### ●設問1: 令和6年度「調布市防災教育の日」に参加されましたか。（回答人数:1,488人）



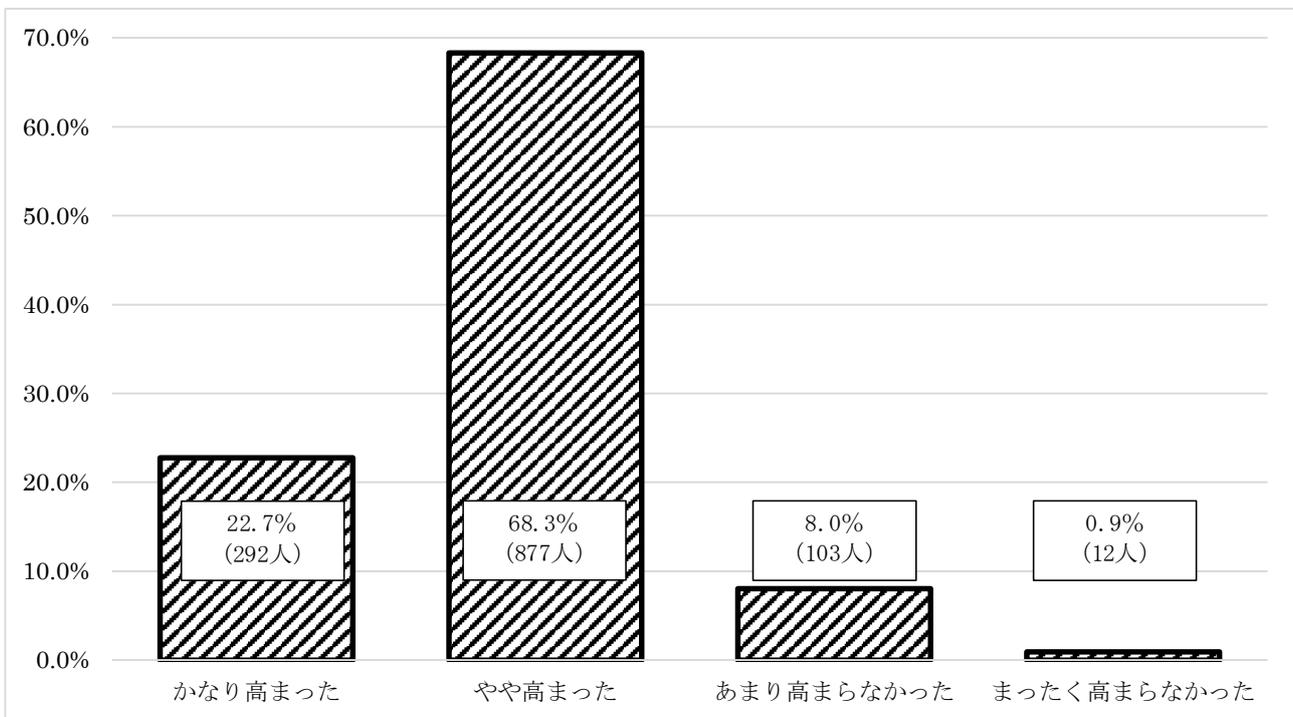
アンケートに回答した保護者のうち、1,286人（約86.4%）の方が防災教育の日に「参加した」と回答しました。

●設問2:「防災教育の日」の趣旨やねらいが理解いただけましたか。(回答者数:1,283人)



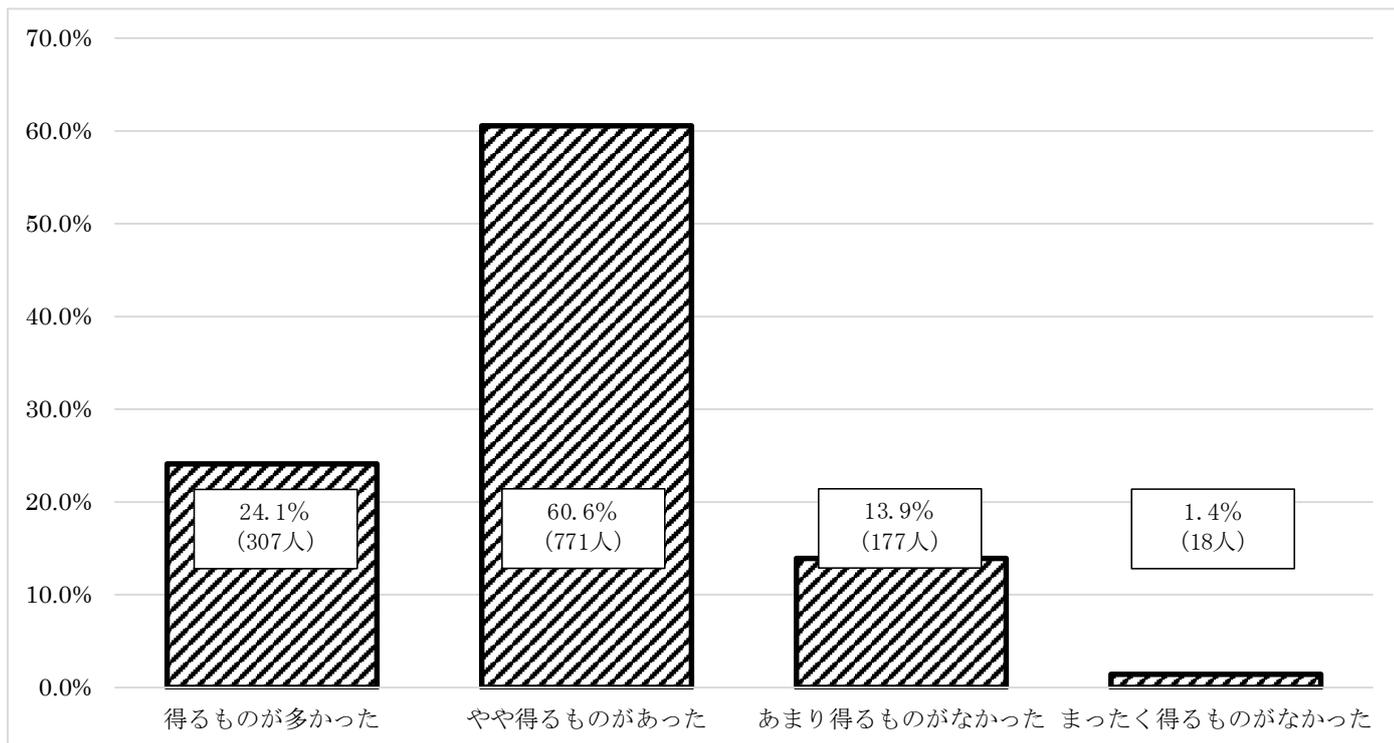
「よく分かった」又は「やや分かった」と回答した保護者数は、全体の約95.2%に当たる1,222人となりました。

●設問3:防災に関する意識が高まりましたか。(回答者数:1,284人)



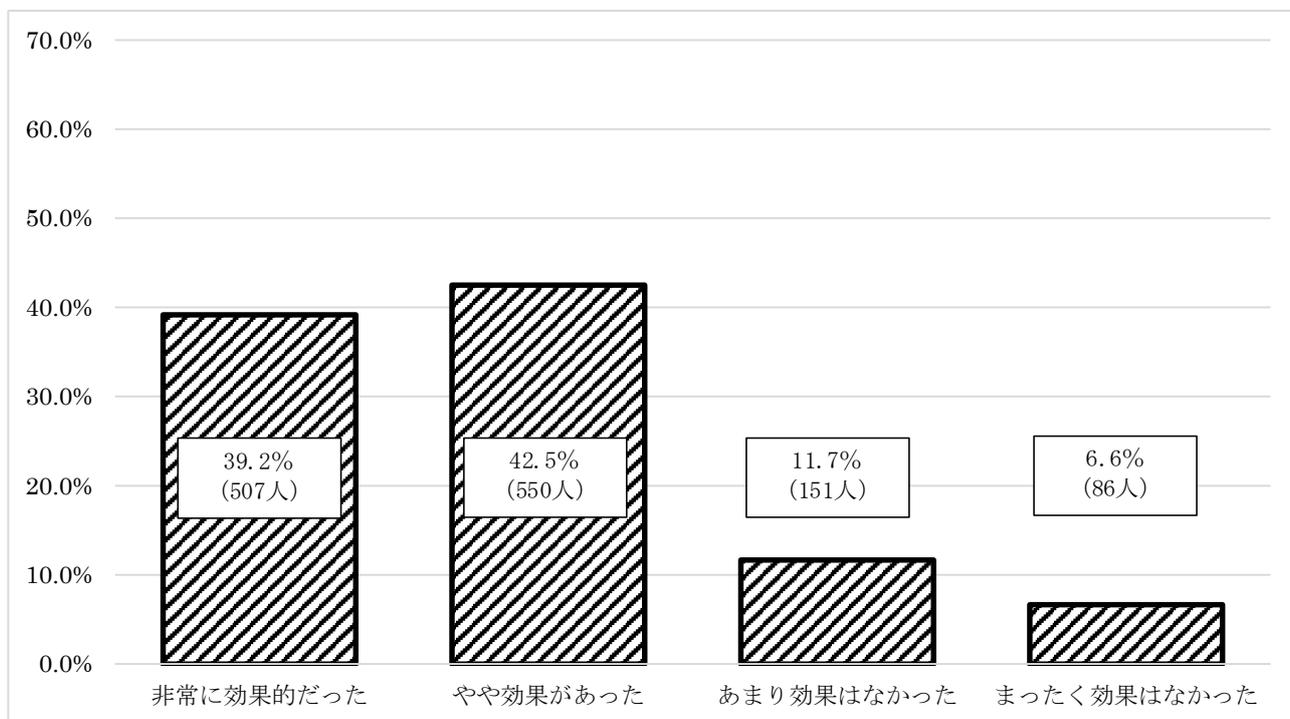
「かなり高まった」又は「やや高まった」と回答した保護者数は、全体の約91.0%に当たる1,169人となりました。

●設問4: 防災に関する知識や技能, 防災教育への理解など, 得るものがありましたか。(回答者数:1,273人)



「得るものが多かった」又は「やや得るものがあった」と回答した保護者数は、全体の約84.7%に当たる1,078人となりました。

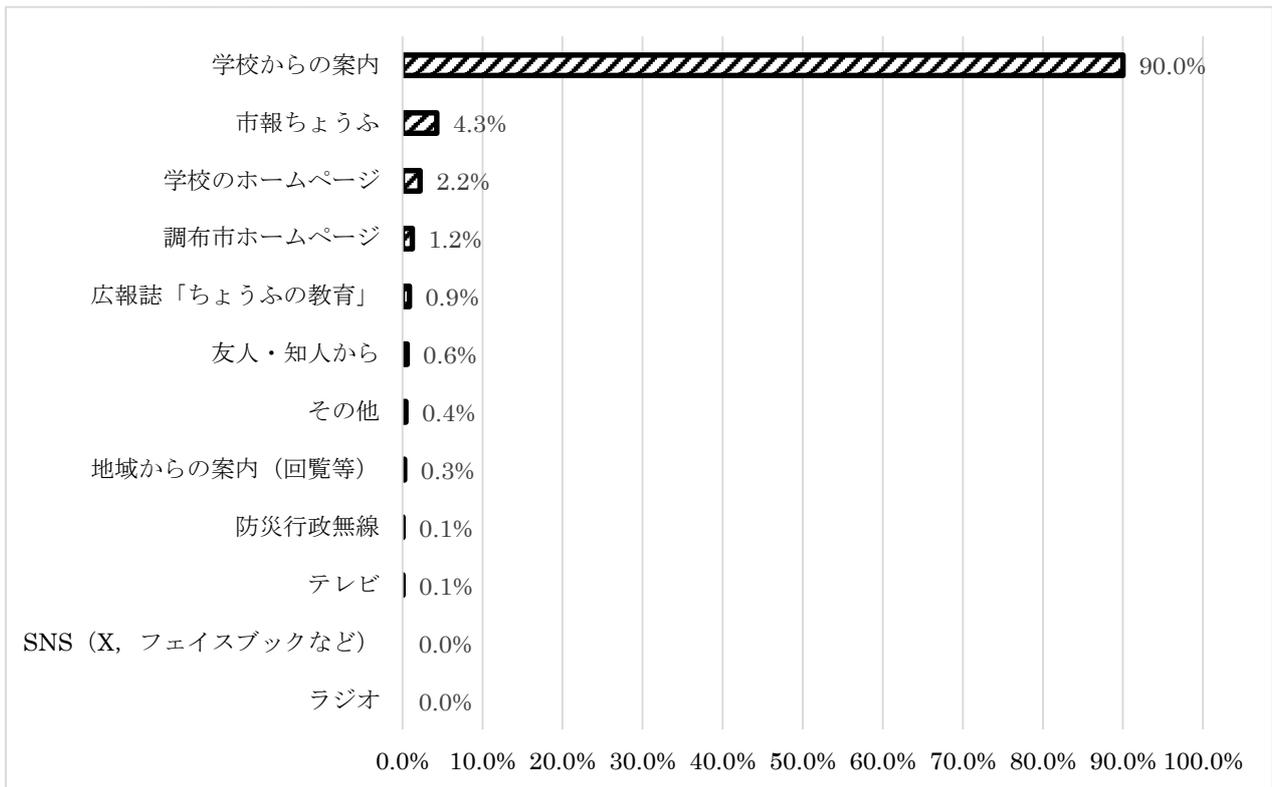
●設問5: 引取訓練での「すぐーる」の配信は効果的でしたか。(回答者数:1,294人)



「非常に効果的だった」又は「やや効果があった」と回答した保護者数は、全体の約81.7%に当たる1,057人となりました。

●設問6:「防災教育の日」は何でお知りになりましたか。(回答人数:1,291人 総回答数:1,398人)

【複数回答可】



総回答数のうち、1,258人(約90.0%)が「学校からの案内」で防災教育の日を知ったと回答しました。

●設問7:自由回答

アンケートの自由回答の抜粋(回答者数:254人)

自由意見においては、主に「引取訓練」「すぐーるの配信」「授業内容」「日程」「避難所体験」などに関する御意見を多くいただきました。

訓練の実効性を高め、保護者の皆さまにとって有意義な事業となるよう、内容を精査し、次年度の取組に生かしてまいります。

番号	項目	意見等
1	引取訓練	小学校入学して初めての引き取り訓練だったので、この時期にあるのはとてもよかったですと思います。
2		普段は便利な自転車をよく利用していますが、引取りに行く際、未就学児の下の子を連れて通学路を歩くことで、実際どれくらい時間がかかるか、気をつけなければいけない箇所などを認識する事が出来ました。
3		人数が多い学校で、初めての参加でしたが、とてもスムーズな引き取り訓練に、正直ビックリしました。もし災害があったらを想定して、行き帰り往復しました。先生方に感謝です。ありがとうございました！

番号	項目	意見等
4	引取訓練	本日は先生方、保護者の皆さま、子どもたち、大変お疲れ様でした。我が家は1年生で入学したばかりなので、防災について知識が深められました。いざという時はこのように子どもを小学校で引き取るんだなという経験もできて、ありがたかったです。公開授業もしてくださって1年生の子どもたちの様子も見られることができました。横断歩道や道の渡り方、歩き方を先生からも丁寧に説明していただきありがたかったです。●●小学校の1年生の本日の予定が記載されているプリントで、時程がB時程や通常時程などの記載があり、どれが正解なのかわかりづかったです。また、公開授業から引き取り訓練までの間、保護者は1時間程度外に出なければならず、我が家は家から小学校までが遠いので、自転車での来校は不可だった為、1時間の時間を潰すのが大変でした。子どもと防災について話すこともでき、とても良い1日になりました。ありがとうございました。
5		引き渡し訓練の際、校長先生が「親が引き渡しに来られないこともある、そんな時は朝まででも責任を持って子ども達を預かります」とはっきりと仰ってください、とても安心できました。また、実際子どもを引き渡していただく時も、担任の先生が丁寧に親の名前を確認し、次に子どもに自分の親で間違いなくもしっかり確認してくださったことで、取り違いや連れ去りなどをしっかり予防しようとしてくださっていることが伝わってきて安心しました。私も一保護者として万が一の際にはご迷惑をおかけしないで引き渡しがスムーズに行えるように意識したいと思います。
6		コロナ振りの引き取り訓練だったのでバタバタしましたが、地震も増えてますし良かったと思いました。
7		小中同日開催になっているので、本当に引き取りが必要なことが起こったと想定して、引き取りの方法も小中連携したものにした方が良いと思いました。きょうだいが小中それぞれにいた場合、中→小にいくとか、その他の児童とどれくらい時差がありそうなのかなど、親にとっても想定できるよい機会だと思います。よって、引き取り訓練は午後にするとういのかと思います。
8		調布市内で兄弟を公立2校に通わせているが、同日だと引き取りや参観ができないので困った。
9		小学校で引き取りしたあとに、中学校に行きましたが、お迎えの最終時間が短く間に合わないかとハラハラしました。もう少し引き取りの時間に余裕があると良かったです。
10		将来子ども達が中学生と小学生に別れた時、引き取りに行ける大人が1人だった場合、引き取りに行く工程が複雑になるなと想像しながら参加していました。基本、大きい子から引き取りに行くのが良いのでしょうか？気持ち的には小さい子から引き取りに行きたくなりますが、学校単位での訓練でしたが、親としては想定しておかなければいけないなと思いました。
11		中学校の方が引き取り開始時間が遅く、小学校の方が引き取り開始時間が早かったため、中学生を引き取ってから小学生を引き取るのが時間的に無理だった。引き取り時間について、中学校(●●中)を早め小学校(●●小)を遅めるなど、時間の調整をしてほしいです。
12		引き取り訓練が、違う学校に通う兄弟で重なると、迎えに行くのが大変です。
13		兄弟が別々の学校の場合、時間内での引き取りは無理がある。中学校は、一度経験すれば手順等理解できるの、で新一年生のみで十分ではないでしょうか。
14		子どもが二人いて、●●中学校と●●小学校に通っています。引き取り訓練の時間が中学校は11:30~12:00、小学校が11:20~11:45なのに中学校から先に迎えに行かなくてはいけないのは非常に困ります。物理的に小学校の時間に間に合いません。実際に災害が起きた場合を想像してみましたが、年齢的にも下の子を先にピックアップしたほうが不安感等を軽減できるのではないかと感じました。

番号	項目	意見等
15	引取訓練	上の子が●●中学校で、下の子が●●小学校の3年生なのですが、中学校から迎えに行けとの指示だったので、行きましたが、小学校のお迎えには間に合いませんでした。下の子を1人で帰らせるのが可哀想(まだ3年生)で、急いで行ったため道中危なかったなど、後で振り返りました。下校途中の下の子に会うことができ、そこからは一緒に帰りましたが、両方迎えに行くのは無理だと思います。小学校は、11時20分からの引き取りで45分まで、中学校は11時半からの引き取りで12時までなら、せめて小学校からの迎えではダメなのではないでしょうか?11時10分には●●中学校に着いて待っていましたが、結局、生徒数も多いため、子どもを引き取れたのは、30分開始でも40分ぐらいで、そこから●●小学校までは、とてもじゃないですが間に合いません。それとも、別々に迎えに行く人がいることが前提なのではないでしょうか?一箇所の引き取りのみの訓練なら、そのように明記していただけると、事前に迎えに行けない旨を子どもに説明することができるので有り難いです。
16		小学校と中学校で全く同じ引き渡し時間だったので、30分ほど時間をずらすなどしてほしい。
17		兄弟が小中と居る場合の案内を事前にして欲しい(どちらに行ったらいいのか、行けない場合は連絡するのか、など)。公開授業後の引き取り訓練は、災害時とは状況が違いすぎるのではないかと感じました。別日の方がいいのではないかと思います。
18		中学生、小学生の兄弟がいます。引き取りは中学校からとの連絡でしたが時間が中学の方が開始が遅く、結局小学校のみの引き取りしかできませんでした。できたら中学校の時間を早めてもらえたら行きやすいかなと思いました。
19		小学校によるが、●●小と違い、●●小では保護者が参加して良いかどうか、案内がやや分かりづらかった。
20		小学生と中学生の子どもがいますが同じ時間帯なので小学生の子どものほうしか行けませんでした。時間帯をずらすとか考えてほしかったです。
21		兄弟の場合、上の中学生から引き取りという意図が分かりません。いざ避難する時は、下の子の方が優先度があると思います。
22		小学校と中学校は時間をずらして欲しいです。兄弟のお迎えがとても大変でした。
23		●●小学校と●●中の引き取りをした。今回は母と父の二人で手分けして引き取りに行けたが、一人で引き取りをしようとするとうちから迎えに行くには時間が重なってしまっ行って行けない。小学校と中学で両方行けるように検討してほしい。
24		引き取り訓練が、小学校と中学校が同時刻のため両方に参加することができなかった。きょうだいがある家庭も多いと思うので、時刻をずらしていただくとありがたい。
25		小学校中学校、両方に子どもが通っていますが、引き取り時間がどちらも同じ時間だったのでどうやって行こうか迷いました。人手があったので分担しましたが、そうじゃない人は困っただろうなあと思いました。
26		小学校、中学校(過去には保育園も)と参加したが、調布市全体で同じ日に、しかも毎年実施していることは、習慣化するうえでとても良いと思います。小学校のお迎えの際、クラスがわかりにくかったです。
27		引き取り訓練でのクラス表示をカラーコーンに貼り付けていたが、人が多くて見えない。また、事前の案内と順番が違ったので、並び直しになった。有事には混乱するので、プラカードのように高く掲げるべき。
28		赤コーンに学年クラス掲示があったようだが、引き渡しの保護者列で掲示が見えず、自分の子のクラスがわかりづらくて見つけるのに少し苦労した。引き渡しはスムーズだったので良かったと思う。
29		ハンドスピーカーを利用されていましたが、父兄の待機する場所までは聞き取りにくく、実際の震災場面では機能性が薄れるなと思いました。

番号	項目	意見等
30	引取訓練	授業がとてもわかりづらかった。保護者の方が手伝って非常食を作るという場面があったにもかかわらず、予めその連絡がなかったため保護者のいない子どもは心細く泣いていた。ひきとり訓練は、あらかじめ学校の校庭で並ぶのではなく、いざ何かあった時と同じように引き取りする人は家で待機して、連絡があってから学校に行かないと意味ないと思います。
31		学校から配られたプリントと、実際に並ぶ列が違っていて、どこに並べばいいか分かりにくかったです。
32		生徒の学年やクラスの表示がとてもわかりづらかった。
33		去年はグダグダでしたが、今年は雨天の設定で教室迎えのためスムーズでした。去年は門付近に保護者が集まっているにも関わらず、教師がほとんど誘導しなかった。誘導しても小さい声で時々するだけで保護者はみなさん戸惑っていた。
34		引き取り場所が校庭から教室に変更になったことがなかなか伝わっておらず、場所に混乱してる方が数多くいらっしゃいました。学校からのメールで連絡は来ておりましたが、ケータイを見ることをしていなかったため、なかなか状況の理解ができませんでした。門に一枚貼り紙をするか、声かけをどなたかしてくださるとスムーズな引き取りができたかもしれません。しかし本当の非常時にはそうは言っていないかもしれませんが。
35		生徒誘導がいまいち。緊急時を想定しているのだから、無理に学年ごとに並べず、避難方向（避難訓練時は昇降口の場所）で並べた方がスムーズなのではと思いました。●●小なら本部に向かって右から2-4-6-5-3-1など。
36		校庭での引き取り訓練の児童の整列場所について、事前にプリント配布で知らされていたものの、現地に行くと人が多すぎてどこが何年生かわからない状態になっていた。保護者の並ぶ列の手前にカラーコーンを置いて学年を書いておくなど、工夫が必要かと思った。
37		実際に災害が起きた時はケータイも使えない事があります。また、すぐーるを見てない、見れない場合もあるかと思います。その際に、学校の分かりやすい場所に何処に集まってるかを掲示すると良いと思います。引渡し訓練でも引渡し場所が分からないで迷ってる方もいたので、何処に集まってるかを分かりやすくすると良いと思います。
38		すぐーるでの引き取り手順と実際に説明があった手順と異なっていた。
39		引き取り訓練を行いました。列の前にはコーンがあり分かりやすかったのですが、二人目をお迎えに行く際に列の後方からはどの列が何年何組か分かりづらかったため、最後尾札（何年何組の紙をラミネート加工したようなもの？）を作って一番うしろの人が回して持つと良いのかもなと思いました。
40		引き取り訓練について学校に行った時は既に訓練が始まっていましたが、自分の子どものクラスがどこかなかなか見つからず、苦労した。引き取りを終了したら速やかにその場を離れて混乱しないように誘導が必要なのではないかと感じました。
41		引き取りが高学年でかつ、メールの連絡がとても分かりづらかった。結局みんな正門前で待機するという案内と違う現象が起きてしまった。
42		引き取り時に子どものクラスがどこに並んでいるのかわかりづらく、実際に災害が起きたら右往左往して大混乱しそうだなと思いました。もう少し高く掲げられると見やすくなるかなと思いました。
43		今年で三回目でしたが、毎回危機感のない恒例行事。多少は訓練にはなってるのかもしれませんが、引き渡しが終えた校舎内や通用門までの人溜まりを見て学校側は何とも感じないのかと思います。いざ事が起きた時本当に対応ができるのか疑問をもちました。
44	前みたいに、災害が発生したので迎えに！と連絡があった方が緊張感があって良かった。	

番号	項目	意見等
45	引取訓練	避難訓練、防災訓練に携われた方々ありがとうございます。私は長男で東北の震災を経験しました揺れがあり次女の安全確保をしベランダから外を見ると、当時小学生だった次男の学校の先生が通学路の安全確認をしに走って来てました。今すぐ子どもを引き取りに行ってもいいですか？と聞くとすぐに行ってくださいとの事で、末娘を連れベビーカーで●●小まで行きました。無駄なおしゃべりもなく校庭に集まり皆縮まって集合してました。次男を引き取り●●中へ向かいました。やはり無駄なおしゃべりもなく静けさだけある校庭に集合していて、日頃の訓練の成果だと安心しました。今回引き取り訓練に参加して思ったこと。訓練なら、警報器は生徒が無事校庭に逃げ切るまで鳴らす方が良くと思う 拡声機で何度も声かけ危険を知らせるべきです。先生方が話されてる声もとても小さく聞こえませんでした。また、緊張感も無い保護者の雑談が大きく何にも聞こえませんでした。子どもの引き取り時、クラスが分かりにくい。分かりやすさで言えば、1年から3年という並び方じゃないでしょうか。今回は、1年3年2年となっていました。学年クラスのプレートまで下げられ保護者は混乱します。先生の胸背中と一目で分かるよう願います。もっと緊張感が必要だと思います。
46		引き取り訓練のためなのだと思うが、事前に児童は外履きを準備したりと用意周到。先生は荷物を持っておらずだったので、実際の有事の際も同様なのか疑問に感じた。なにせ保護者たちはただのお迎え気分の方が多く、引き取りの時はここに並ぶことがわかったくらいの方が多そうと感じた。
47		引き取り訓練のみの参加の為、目に見える意識の高まりは無かった。
48		引き取り訓練は保護者はただ並んで待ってる時間が非常に長く、最後に引き渡しの際に担任の先生に名前を伝えたのみだった。校長先生からのお話も生徒たちにしか聞こえないような感じだったのであまり訓練をしているという実感がなかった。
49		訓練にも関わらず、遊具広場で下の子を遊ばせている人がいて騒がしく、校長先生の話が聞こえませんでした。スタッフの方が騒がしい人には注意してほしいです。
50		学校も保護者も、訓練という意識が薄かったように思います。昨年までの小学校の方が危機感を持って取り組んでました。イヤホンを聴いている保護者や、友人と談笑する保護者が見受けられました。もっと本番さながらの緊張感を持って実施した方が良くと思います。次回以降は、訓練内容や目的をあらかじめ学校と保護者が共有し、例えば災害発生時刻を設定し、各自地震発生時刻を過ぎてから家を出るようにした方が良くと思います。そして、災害発生時、親が迎えに来なかった場合、生徒はどうする(自力で帰宅、宿泊するなど)のか教えて欲しいです。最近、国内外で大地震が立て続けに起きていますし、在校生の多い中学校ですので、実際の災害時の混乱を少しでも減らし、生徒たちを守るため、より具体的な災害の想定をした訓練にして欲しいです。
51		引取訓練の際に待機する保護者の私語が多すぎるように感じました。小さなお子さん連れの場合などは仕方ないとは思いますが、学校公開のあと帰宅可能な人はなるべく帰るか、そもそも学校公開の日は別で設定するなどして、より実際の状況に近い形で実施しないと子どもにも悪影響だと感じました。(おそらくお知らせなどでお願いをしてもなくなることはないと思うので。)
52		引き取り訓練時に、教職員や生徒は静かにしているのに、引き取り待ちの一部の保護者がベラベラと話しており、非常に気になった。保護者も訓練の一環であることを、もう少し知らせるとともに、場合によっては注意するなどしても良いのではないかと？
53		学校へ子どもを引き取りに行っても保護者同士の日常会話が煩く訓練に集中できませんでした。保護者の訓練に対する意識の向上が今後必要ではないかと感じました。

番号	項目	意見等
54	引取訓練	引取り訓練にて、校庭で子どもたちが静かに指導を聞いている中、保護者の私語が気になった。拡張器でお話する先生の声が聞こえませんでした。災害時に指示が聞こえないのは命に関わることと思います。子どもたちはしっかりできていました。
55		帰りの動線が一つであり、学年毎に時間差があるとはいえ、実際はかなりの混雑状態でした。有事の際はもっと混雑が予想され、将棋倒しになる可能性が容易に想像されて怖さを感じました。また、引き渡しだけの訓練なので、実際に建物が倒壊する可能性がある場所が発生した際の立ち入り禁止等は想定されておらず、せっかく学校、生徒、親の協同訓練の機会がもったいないと感じました。
56		引き渡し訓練に時間がかかった。また、どの列に並べば良いか保護者側からは見え辛かった。
57		小学校の引き取り関連ですが、保護者の顔を教員が認識している場合は、保護者の名前をその都度書面で確認しなくてもいいのではないのでしょうか？これがもし現実の災害時の引き渡しだったとしたら、できる限り早く児童を保護者の元へ返すべきですし、そんなことをしている時間はないはずです。35人の児童を親元に返すまでに相当な時間がかかり、時間が勿体無かったです。そこに児童の引き渡しの間違いは当然生じないと思います。もしも、本当に災害が起こった場合のことを考えるなら、早急にマニュアルの変更をお願いします。
58		11時30分から引き取りと書いてあったが、実際はもっと前から引き取りはできたようで、11時25分に到着した際にはかなりの人数が帰宅を始めていた。出遅れた上、年長者のクラスはたまたま長蛇の列ができていたので、下の子を迎えに行く頃には相当な待ち時間になった。混雑状況により、空いている方から引き取りに行けるようにした方が効率的だと思った。
59		学校の授業参観も兼ねてはいたが、時間前から外には保護者がすでに並んでいる感じなので…すぐ入るが来たから迎えに行ったと言う感じがしない。
60		もう少しスムーズに引き渡しができるといい。公開授業後、引き渡しができるように朝に引き渡し訓練、安全指導を行って欲しい。公開授業終わってからの保護者の引き渡しまでの時間が開いてしまうため。
61		引取り終わりの親子と、これから迎えに来た親がごったがえしてぐちゃぐちゃだった。動線を分けるべき。また、学年クラスの紙が目線の下にありすぎて、どこに並べば良いか一目で分かるようにした方が良い。高い位置に見えるプラカードなどが分かりやすい。
62		学校公開の後引き取り訓練まで50分近く校庭で保護者が立ったまま待たされ大変だった。暑い日や妊娠中の方は大変だっただろうなど。一年生なので行くまでわからなかった。あの時間をもう少し有効に使えたらよかった。(体育館で待機など)
63		小学校は外まで避難→保護者が並び引き取りととてもスムーズ。また、実際の避難を想定し子どもたちも意識持って避難している様子が見れた。中学校は反対に教室まで保護者が引き取り。人数が大変なのは分かるが実際は外に避難することもあるのでこういう機会に実施して欲しい。引き取りの長蛇の列が道路にまで伸びていたので改善の余地あり。近年地震も増えいざという時に上履きで避難より靴で避難した方が安全。上履きではなく、中履き用シューズを取り入れて欲しい。体育館でも使用できるフットサルシューズなど。
64		引き渡しの連絡、高学年から順に連絡来るとはわかっていたが、中学年も含め3段階で連絡がくるということは先に知っておきたかった。中学年のメールが来ないと4年生は高学年に該当しますよね？公開授業のあと、一度帰ってからの引き取りについて、学区ギリギリのところから通っていると容易ではない。
65		学校公開から引き渡しの時間が短い。
66		学校公開の後に、帰宅してまた引取訓練で学校に行くのは、手間だった。
67	年に1回とはいえ徒歩で迎えに行くのは大変です。自転車はダメなのでしょうか。	
68	中休みなしで、スムーズに引き渡し訓練に移行してもらいたかった。	

番号	項目	意見等
69	引取訓練	学校の外ですが、学校のすぐそばの細い歩道で、引き取りを終えて帰る親子の群れに阻まれ、これから迎えに行く親がなかなか通れないと言う現象がありました。また、中学では、校舎を出たあと、本来通るべきではないところに人の列が出来ていました。人手の問題があると思いますが、子を引き取ったら、あとは楽しく帰るだけではなく、せめて学校周辺では、危険の無いようにポイントで交通整理があった方が良くないかと思いました。
70		授業参観後、保護者は児童の引き渡しまで校内で待機も可能とのことでしたが、一度帰宅してから、すぐーるでの連絡を待って小学校に向かったほうが、より実際の災害時の動きに近いのではないかと思います。校庭でのアナウンスは、音量やスピーカーの関係か、半分も聞き取れなかったのが残念でした。
71		今回は悪天候の為、教室での引き取りとの事でしたが、では晴天の場合どのような形になるのか分からないと感じました。まず長机が4席ほど置かれ、用紙に記入してからの引取りでしたが、災害や有事にはスペース的に無理がありパニックになるのではないかと不安になりました。もう少しスピーディーにスムーズに行われる方法を、これから考えていければと思います。
72		子どもの引き取り時、名前や続柄を聞くのはいいが、保護者に全く目を合わせない先生もいてちょっと心配になりました。校長先生が、災害時、お父さんやお母さんが迎えに来れない場合は学校が責任をもってみんなを守ります、それが夜やお泊まりすることになって子ども達に伝えていたのがよかったです。
73		お便りの時間まで教室で待機してもらえず、子どもに会えず引き取りできませんでした。先生方は早く帰りたかったのかもしれませんが、一般企業ではありえないこと。改めて学校や教育委員会への不信感がつりました。実際に災害が起こった時にこのような姿勢では死者が多数出ることでしょう。安心して子どもを通わせることができないことがわかったことが今日の唯一の収穫です。
74		様々な意見があると思うが、他の自治体が必ずしも引き取り訓練を実施しているという訳ではないので、調布市も慣例に捉われず、引き取り訓練に関しても一考してもいいのではないのでしょうか。
75		中学生は、引き取りを待つのは現実的ではない。中学3年の場合は、本当の地震等の場合は、一人で帰宅させてほしい。家も近いため。
76		学校から配布されたプリントには「11:05 に保護者が並ぶ」との記載があったため、その時間に学校に着いたが、実際には まだ保護者はほとんどいなかった。その後、「11:30-引取り開始」となってからゾロゾロと保護者が集まっていた。集合時間をしっかり統一・周知した方がよいかと思う。
77		中学生はもう大きいので引き取り訓練はいらないと思う。
78		メールタイトルが「緊急引き渡しについて・」だったので、引取依頼ではなく、注意事項の内容かと一瞬迷ってしまいました。
79		当日の連絡が引き取り時間の直前だったので気づかなかった。大勢の保護者が参加していて良かったです。
80		●●小と●●中で参加しました。●●中の引き取り時間等詳細連絡が前日でしたので、次回からはもう少し早く周知していただけると助かります。●●小の方は、保護者側のコーンにも学年クラス記載があると素早く並べると思いました。
81		幼児を連れての引き取りだったため職員の方の話をちゃんと聞くことができなかった。
82		子どもたちのほうが積極的に参加していた、後ろの保護者（と幼児）が注意喚起後も騒がしく、訓練時の話は全く聞こえなかったのが残念でした。
83		全校生徒が校庭へ避難したあと、校長先生や職員の方が何を話されているのか聞こえませんでした。実際に震災等が発生した場合はパニック状態に陥ると思いますので、大きな声ではっきりとお話して下さい。よろしくお願いします。

番号	項目	意見等
84	引取訓練	誰のための訓練なのか、何の目的があって何を目指しているのかわかりませんでした。いつ起こるかもわからない実際の有事の際に、あんなにたくさんの父兄が迎えに来れるわけがなく、どちらかといえば迎えに来れなかった場合の先を考えた方がいいのではないのでしょうか。当然そういう想定はあるのだと思いますが、そういった話がないので何のためにやっているかが不明というのが感想です。迎えありきの設定だなど。子どもたちのためになることという趣旨からはズレている内容だなど感じました。
85		事前に時間指定されており、多くの保護者が待機していたが発災時はそうもならないため、多少拘束時間は出るが様々なシュミレーションをしたり、幼保や中学などと同時連携するなどのシュミレーションも事務局は大変かと思いますがあっても良いと思いました。東日本を教訓にどんな動きが当日なされたかを踏まえた訓練をすると多くの方にとって良い訓練になると思いました。
86		子どもの熱中症対策も同時に考えていただきたいです。新一年生の保護者で初めて参加いたしました。校庭まで避難した後、並んだり点呼をとったり、先生のお話を聞いたり、子どもたちは長い時間防災頭巾を被ったまま待たされていました。引き取りに行き子どもと対面すると大泣きしており、担任の先生は「あらどうしたの～笑」という対応でさようならしたのですが、防災頭巾を脱がすと頭がものすごい熱さで、どんどん顔色が悪くなり帰宅後もしばらく寝たまま起き上がれない状態でした。恐らく軽く熱中症だったのかなど。子どもも「暑いから脱いでいいですかと聞いたけど先生にダメですって言われた」と話しており、熱中症の危険さを知らない一年生だとそんな状態でも自分で判断できないと思います。夏ではなくても、熱中症の可能性は意識して臨機応変に指導していただきたいです。暑さを子どもが訴えても聞いていただけないことに、今後の不安を感じました。何卒宜しく願いいたします。
87		逃走してフェンスによじ登っている生徒がいたが、訓練とはいえそれでいいのでしょうか。
88	すぐーるの配信	引渡訓練の通知がなく、子どもの引渡がスムーズにできなかった。その後説明がない。どういう事が説明が欲しい。実際に起きたら通知が無いのはありえない。
89		●●中学校の引き取り訓練に参加しましたが、訓練実施の可否についてすぐーるの配信はありませんでした。小学校の配信はあったのですが、中学校は無いのでしょうか？
90		すぐーるの連絡を待ち引き取りをとのことだったので自宅で待機していましたが、結局すぐーるからの連絡はこないままでした（今もなお）。今日の発砲事件の連絡も遅かったですし、もっと大変な事態や地震が起きた時にちゃんと連絡がくるのか？不安100%です。
91		引取訓練の際にすぐーるが送られるとありましたが、一切配信がありませんでした。テストメールを受信して以降なんの音沙汰もないです。
92		この日、すぐーるの連絡メッセージが届くことになっていたはずですが、受信されませんでした。（その他の学校のテストメールや、教育委員会からのメッセージは届いているため、登録は問題なくされていると思います。）
93		すぐーるの配信、来ませんでした。
94		●●小学校はすぐーるでお迎え要請が来たが、●●中はお迎え要請が来なかった。すぐーるで連絡等、統一した方がわかりやすいです。
95		テストメールは来ていたものの、引き渡し訓練のためのすぐーるの配信が来なかったです。
96		引き取り訓練のすぐーるからの配信が届かなかった。（令和6年度で登録したはずでしたが…）
97		姉が●●中なのですが、●●中からお迎え依頼のすぐーる配信がなかったのが不安でした。

番号	項目	意見等
98	すぐーるの配信	すぐーるでの連絡が来たら学校へお迎えに来てください、と事前にご案内がありました。当日連絡が来ませんでした。どこに原因があったのかわからないのですが、災害があった場合にも機能しないのかと思うと不安です。
99		引取訓練のすぐーる配信が届かなかった。授業見学から、引取訓練までの待ち時間が長かった。
100		なぜかすぐーるでの連絡が今回のみ届かなかった。他はきちんと届いたのですが。
101		引き渡し訓練の当日すぐーるの通知があるかと思ったがなかった。事前に手紙での連絡はあったが、当日も通知をするべきではないかと思いました。
102		すぐーるで学校からの連絡が受け取れませんでした。現時点でも引き取りに関する連絡が確認できず、本当に送信されたのか分かりません。このアンケートの連絡だけが届いています。
103		すぐーるの連絡が来なかった。同級生も来てないみたいなので、学校全体で配信がなかったのでは？手紙には、すぐーるからの連絡が来てから迎えに行くよう記載があったのに、まったく使えないと思います。
104		すぐーるの教育委員会と小学校の登録を4月16日にしたのですが、27日の引取り訓練での配信がありませんでした。学校からのテストメールが15日だったのですが、登録をし忘れて16日の保護者会の時に登録いたしました。登録をしたのがテストメール後なので実際にメールを受信したことはありません。見落としてるのかと思い、すぐーるやメールの受信箱を探しましたが見つかりませんでした。アンケートや教育委員会からのメールなどはすぐーる内で受信しますが、学校からの配信はありません。学校の登録が上手くできていないということでしょうか？また登録できているのに配信がされない原因は何かありますでしょうか？お手数をおかけして申し訳ございませんが教えて頂けると助かります。
105		すぐーるが来なかった。
106		引取訓練のすぐーるが配信されなかった。周りも配信されていない人の方が多かったので早急に原因解明していただきたいです。
107		テストメールは来ていたのに、今日のすぐーるのお知らせが届かなかった。
108		すぐーるからの連絡が来なかった。
109		すぐーるから、連絡がこなかった。とても困り、実際に地震などがあったときに受信されなかったらと思うと不安でいっぱいです。周りの中で、受信されなかった方がいたので私だけではないと思いました。テストメールはきていたのに何か設定が悪かったのか？その後も学校からの連絡はなかったため未だに不安が残ります。
110	すぐーるでの当日の配信はありませんでした。	
111	すぐーるの配信がなかった。	
112	すぐーるの配信が届かなかったです。私だけでなく、皆さん同じくでした。	
113	引き取り訓練「すぐーる」の配信がありませんでした。	
114	すぐーるについて。事前のテストメールは届きましたが、肝心の訓練時の配信が届きませんでした。学校からのプリントには配信がある旨が記載されています。どうなっているのでしょうか？有事の時にも配信されないのでは？と疑問です。これでは訓練の意味が無いと思います。	
115	●●小学校はすぐーるの配信がありませんでした。	
116	すぐーるからの連絡がきていない。	
117	引き取り訓練の時にスグールが配信されていない。	
118	すぐーるからの配信がありませんでした。	
119	すぐーるから連絡がこなかった。	
120	すぐーるの配信、実施されました？私の携帯には配信がなかったです。どのチャンネルで配信されたのか、教えていただきたいです。	
121	11時に配信されるはずのすぐーるの連絡がなかった。迎えに行けず困った。	

番号	項目	意見等
122	すぐーるの配信	Q6 に問はあるが、そもそも●●小から 11:00(11:20?)のすぐーる配信はなかった。動画の内容がもう少し興味を引く構成であってほしい。テンポが悪い。
123		子どもの時から防災について考える機会があるのは素晴らしいと思います。ただ、私の設定が悪かったのか、配信されなかったのか不明ですが、すぐーるの通知はありませんでした。
124		すぐーる登録したのに、引き渡しの連絡は来なかったもので、不安になった。友人は、届いた人もいれば届いていない人も多数いた。兄の中学校からは届いた。
125		事前には配信されてからお迎えとのことだったのに配信が無かった。数人の他の保護者に確認したが、どのご家庭もなかったようだ。実際に災害が起きたらどうなるのか、この配信システムに不安を覚えた。日ごろから、家庭への連絡手段としてもっと利用し、万が一の時に配信できないなんて事が無いようにしてほしい。
126		学校公開で学校内にいたため訓練の開始がわかりましたが、すぐーるでの連絡が一切なかったので実際の災害時にこのようなことがあっては困るなと思いました。
127		引き取り訓練の際、すぐーるの連絡が届きませんでした。公開授業に参加していたので、引き取れましたが。
128		子ども・教職員は真剣に取り組んでいました。保護者の私語が多く、同じ保護者として残念な感じとなりました。なお、すぐーるの登録がきちんと年度更新されていないご家庭も多く、連絡を受信できないまま参加していた方もいるようです。教職員の方々にはお手数をおかけしてしまいますが、今一度学校よりすぐーる登録への呼びかけを強化していただく必要性を感じました(個別管理ができていようならば、個別に登録を促すなど)。よろしくお願ひします。
129		すぐーるが届きませんでした。本番の時も届かなかつたら困るなと思いました。
130		●●小から、11:00 配信予定のすぐーるメールが届かなかつた。職員同士の情報共有ができていのか、気になった。小学1年生だが、防災頭巾の被り方を間違っていた。数人確認できた。避難訓練中は先生も大変かとは思いますが、正しい被り方を指導して欲しかった。
131		引渡訓練時のすぐーるからの通知が来ませんでした。他の保護者の方も来てない方がたくさんいたようでした。テストメールは届きましたが。すぐーるの問題なのか小学校の設定の問題なのかはわかりませんが、通知が届くように修正していただきたいです。
132		引渡し訓練の配信が来ませんでした。アンケートの案内等はきてます。私だけでしょうか？
133		すぐーるでの配信が確認できませんでした。
134		すぐーるが来ないため、どのタイミングで迎えに行くのかわらず非常に困った。
135		引取訓練時のすぐーるの配信がなかった。
136	すぐーるから特に何も連絡がなかったもので、意味が分からなかった。	
137	すぐーるが届かなかつた。	
138	5分前に引き取り要請配信では到底間に合いません。	
139	兄弟がいる場合、引き取りは高学年からという案内が当日のすぐーるできていたが、確認したのは訓練後であったので見落としした。事前に学校から配布のあった案内にも記載しておいてもらえると見落としは減ると思うのでお願ひしたい。	
140	Q6 の問いについて:11 時 20 分までに着きたかったので、11 時に家を出ました。すぐーるは家を出た後に届いたので、効果がなかったを選んでます。	
141	時間が変更になっていたもので、すぐーるの案内はもう少しはやく送ってほしかったです。	
142	引き取り訓練のお知らせ配信は、すでに引き取りに向かっているもしくは参加している段階で配信されてきたため、もう少し早い時間帯での配信なら意味があると思う。	

番号	項目	意見等
143	すぐーるの配信	学校配布資料より、※引き取りはすぐーるが届いてからとの記載と、※学校安心安全メールが届いてからと表記があり、すぐーるとは別に登録メールアドレス宛にメールが届くのかと誤認してしまっていた。
144		最初にすぐーるメールが来てからのお迎えと認識してはいたのですがメールがこず、家でしばらく待っていた人もいました。本来は災害があつてからの子ども達、学校、保護者の動きの練習が目的かと思えます。その流れがもっと体験できれば良かったなと思いました。
145		「すぐーるメールが来たら引き取り ok」「すぐーるメールに書いてある時間になったら引き取り ok」と、現場の先生がたの指示が違っていたように思います(時差は3分くらいですが)。先にすりあわせていただいたらと思いました。
146		すぐーるアプリが、スマホの画面上にない場合、通知を誤って消した場合、すぐに再度確認する事ができなかつた。※「すぐーる」の名前を思い出せなかつた。かくぷり等に統一して欲しいと思った。
147		すぐーるでの引き取り開始の連絡の際に、高学年、中学年でなく、具体的に2年生、3年生と対象学年を連絡してもらえた方がわかりやすかつた。自治体によって、高学年の定義が異なるため、誤解するケースがあるかと思いました。
148		すぐーるアプリより、メール配信のほうが利便性がよい。
149		引き渡し訓練お疲れ様でした。問6について、今回配信があるのを事前にわかつたのもあり緊急性かがあまり感じられませんでした。すぐーるを開いて赤いマークで重要という表記をみて確認することができました。本番の時に点滅のような表示があると普段のお知らせとは違うものだという緊急性がよりわかつてよいのではないかと思いました。色々ご準備していただきましてありがとうございます。
150		すぐーるの連絡はスムーズでしたが、本当に緊急の時は、気付かないこともあるかと思うので、緊急性がわかるように、他の連絡とは区別してほしい。
151		「すぐーる」を令和5年度から令和6年度にそれぞれ再登録しなければいけないシステムなのが分かり難くて面倒です。毎年この仕様なのでしょう？前の運用していたシステムのように、ログイン先で学校・学年・きょうだいの登録と選択が出来た方が良かった。配布されたプリントも書式が似ていたので、改めて登録をし直さなければならぬと気付かず、もう済んだと判断をして捨ててしまった。学校から前日に配信したと言われていた「ビニール袋を待つてくる事」が配信されていない保護者が大多数で、少数の届いた保護者との分かれ目はなんなのかわからず、(自分も含め、令和6年度での学年組の登録済み)これからの運用に不安を感じる。そしてこの配信が届かなかつた件を教員に報告をしたが、原因が学校の設定なのか、保護者の端末によるのか、配信元の運営によるのか、報告先はどこが適当なのかわからない。プリントに「授業公開に出席されない方は「すぐーる」による連絡を受けてから校庭に迎えに行く」とあるが、連絡は無かつた。「すぐーるを家族3人まで登録できる」と書いてあつたので、配偶者の端末にインストールしようとしたが、他のアプリと干渉しあつてインストールが出来ませんでした。
152		すぐーるからの案内は、単なる引き取りに関するお知らせ(何時にどこにといつた)だったので、訓練なら想定した内容の発信(震度6が発生しました。生徒は校庭に避難しています…)など、リアルな内容での発信にしないと訓練にならないと思いました。
153		すぐーるは通知が地味なので、緊急時には見逃しそう。緊急時には派手に通知する機能が必要では。今日は引取訓練の日、という認識で何か市民の防災意識を喚起する取り組みが行われていたとは知らなかつた。
154		局所的な火事などの場合は、すぐーるの通知だけではすぐに気が付かないこともあるので、防災無線なども使えるようなら併用していただけるとありがたいと思つた。(バックアップ手段としての意味でも)
155		学校からの連絡にある「高学年」とは何年生を指しているのか分かりにくかつた。

番号	項目	意見等
156	授業内容	ありがとうございました！こどもの授業の様子が見れ、また災害対策に関心がある姿に成長を感じました。
157		授業の時間を通して、子ども達同士で話をすることや先生ご自身やご家族の実体験を聞くことができ、よい学びとなりました。ありがとうございました。
158		子どもたちは様々な事態を想定した訓練を毎月のように行っていて、親の立場としては安心に繋がっている。ありがたいです。
159		子ども達が小さい頃から防災についてわかって身近になって良い！と思いました。
160		子ども達が小さい内から防災の事がよくわかり身近になっていくのでよいと思いました。
161		他の授業を設けずにじっくり防災について考えることで、命の大切さを伝える良い機会になったと思います。非常時は親も慌てると思うので、貴重な訓練でした。ありがとうございました。
162		実際に動いて体感することで、万が一の場合にはより落ち着いて行動できると思うので、毎年続けていけるよう、よろしく願いいたします。
163		学校では命をテーマに授業があり、日頃から親子で命の大切さについて話しているものの、多くのお友達の意見を聞く機会となりよかった。
164		子どもたちへの教育がよかったです。
165		災害伝言ダイヤルの利用方法について、実際に公衆電話を触らせてもらいながら学ぶことができました。公衆電話を触ったことのない娘にとってはそれだけでもよい体験だった上に、実際のかけ方のレクチャーは私にとってもよい学びとなりました。
166		災害伝言 171 について、家族で電話番号など確認しよう意識が高まりました。防災授業は、年に数回あってもよいと思います。
167		親も見に行けたところが良かった。
168		地震発生想定時に全てのクラスの子どもたちは担任の先生とともに各教室で着席していましたが、実際に凶工や体育、また休み時間中に災害が発生した場合、それぞれがどのように行動すれば良いか考える必要があると感じました。
169		公開授業に参加しました。平日に学校いる時間に災害が起きた場合、休み時間に図書室にいる想定でどういう動きをするべきかグループごとに考えさせる内容でなるほどなあと思いました。災害は近くに先生がいる時に必ず起こるというわけではないので、それぞれの子どもにイメージを持たせる良い内容で感心しましたし私自身も勉強になりました。
170	三角巾の使い方を教わって良かった。災害時のボランティアに支援が不要になるまで参加している人のドキュメンタリーを見て、自分には何ができるのか考えさせられた。	
171	教室内の倒れたり移動してきそうなもの考える場面がありましたが、実際に棚が滑ったりテレビなど倒れてきそうに見えたので、滑り止めを置いたり、また対策が取られているならそれを紹介するとより安心感があるのかなと思いました。家でも対策気をつけます。	
172	体育館での調布警察署の方による映像をまじえた震災の話はとてもためになりました。我が家は、●●小学校の児童以外にも都立の●●学校の中学生がいます。●●の小中学生は、希望者のみ居住地域の市立小中学校との副籍交流をしています。4月の防災教育の日に親子で副籍交流に参加できたら、インクルーシブな地域社会、誰も取りこぼさない地域防災に向けて一歩前進できると思います。じっとすることが難しいお子さんであれば、通常級ではなく支援級との交流でも十分意義はあると思います。防災教育の日に副籍交流参加、という流れを教育委からも●●に提案していただけたら素敵だなと思いました。	
173	学校だけでなく、介護施設や病院、公民館などでも防災の講座や訓練をするとういと思いました。	

番号	項目	意見等
174	授業内容	学校授業を参観しました。子どもたちの火災からの身の守り方につながる素晴らしい教育だと思いました。他の時間でやってるかもしれませんが、防火扉を実際に閉めて、横の扉を使って逃げる練習や、火災報知機を実際に押す練習、消火栓の中の見学などの、体験型の企画ができますと、好奇心の旺盛な子どもたちの探求心を刺激しより理解が進むのかなあとと思いました。また、自分自身煙の危険性がずっとピンと来ていませんでした。実際の火災事件なども参考に、煙を吸うとどうなるのか（多分数秒で意識喪失し、その場で倒れてしまう、そんなこと本当に起こるの？って半信半疑ですが）の理解も進むような取り組みもあるとよいと思いました。
175		子どもは5年です。火事の際の対応を考える授業の参観をしました。火事の怖さを先生が伝えるまでは良かった。その後、火事の際の対応を子どもたちだけで考えるところで授業は終わり。子どもだけでは限界があると思います。大人が教えてあげないと。学校で火元となる場所は限られるのだから、火元がどこなのかで対応をどうするか、を学校の指針として示して欲しかったです。
176		開始前に雨が降っていたようですが、実際の授業中は雨が降っておりませんでした。防災訓練車体験ができ新鮮でした。翌年に体験できる機会があるわけでもないのが、残念でした。
177		校庭で地震の体験トラックなども行って欲しい。防災グッズを配って欲しい。
178		このような勉強の機会、授業を参観することで、保護者も勉強になると実感していますが、中学校の参観が極めて少ないことに驚きました。
179		VTRの女性の声あまり聞こえなかったのが残念だった。
180		視聴していたビデオは小学一年生には分かりにくい部分があり、もっと年齢に合わせた内容にした方がよいと感じました。またビデオを視聴するだけでなく、もっと実践的な方がためになると思います。
181		今春小学一年生になったばかりの子のクラスを見ました。動画が少々長いのではと感じました。先生によるのかもしれませんが、小学校が避難所になっているのでここに来るんだよ、と具体的に伝えても良いのでは。調布市のハザードマップを各教室に貼っておくのも良いのではないかな、と感じました。
182		1年生が、動画を観るだけの時間というのは、時間的にも長くもう少し工夫できるのでは？と思った。
183		難しい内容ではなかったように思いますが1年生のクラスではわかってるのかわかってないのか微妙な感じでした。普段からお家で話すのが基本だとは思いますが…
184		子ども向けのビデオ（特に低学年向け）が難しい内容と感じた。マグニチュード、震源、余震など一年生には分かりにくいのでは。実際、子どもたちはほぼ聞いていませんでした。
185		小学1～2年生対象の講義映像を拝見しましたが、全く子ども向けでなく驚きました。①対象者は誰か②何を伝えたいのか③見た後にどう感じてほしい or アクションを起こして欲しいのか。以上を考慮して作成し直した方がよいと思います。①映像が長い②難しい言葉や漢字ばかり③文字ばかりの映像で読み上げるだけの内容④震災の事例が多すぎる、こう言った要因からイマイチ内容が伝わっておらず、子どもたちは集中力が途切れ何のための時間だろうと感じました。ぜひイラストや写真を上手く活用し、より、子どもに震災の怖さや起きる事象の種類、どう行動するかが命を守れるのだと伝える時間にしていただきたいと思います。実際、子どもに感想を聞いたら「よく分からなかった」と言っていました。子ども達に観る目的を持たせてから、映像を見せることも非常に大切だと思います。引き取り関連の帰り道、子どもと通学路の危険な場所を一緒に探したり、こういう時はどうしたらいいかと話すよい機会になりました。ですから市全体でこういった防災の取り組みをしていただければ、非常にありがたいです。だからこそ、もっとより意味のある時間にしていただけたら嬉しいです。今回は形だけ防災の映像を流したように感じましたので。

番号	項目	意見等
186	授業内容	動画を流しっぱなし。動画を見て会話するような授業の方がいいと感じた。
187		授業公開で見た動画が、ネット環境が悪く途切れがちだった。また、1・2年生向けの動画も、用語が難しく、スライドも単調で、あまり内容が頭に入ってこなかった。
188		1時間目は消防庁の動画を全学年見っていたが低学年や中学年は真面目に見ていない子や飽きてしまった子もいた。内容をもう少し子ども向けのものにするか、実際消防庁の方や防災館の方に来ていただいて授業するほうが子ども達も興味を持つのではないかと。
189		低学年向け動画は、内容は良いが、言葉づかいなどわかりやすいとは言えないように思った。
190		一年生に見せていた動画が、聞き取りづらくみにくかった。時間も長かった。
191		高学年用の災害啓発動画が単調で、眠そうな子が何人かいたので、もっと音や動きがあればよかったらかもしれないと思いました。
192		調布消防職員による防災啓発講話の録画ですが、小学生には長すぎて、話に抑揚がないため、もう少し子どもが関心を持てるように改善すると良いと思います。
193		防災講話の内容は、大人でも知識の深まる内容であったと思いますが、2校時への保護者の参観は不要とお子さんが保護者に伝えたご家庭がありました。動画中のクイズでは、子どもがヒントを聞いた上で考えて答えが出せているかが分かり、興味深かったです。1校時と2校時の間にチャイムが鳴らないからか、廊下で話し続ける保護者グループがいて、2校時の始まっているクラスでは聞き取りづらく感じました。その後も廊下で私語をするグループが複数あり、気にしていた児童もいたため、数回注意させていただきました。心苦しいですが、授業公開のお知らせに、私語を慎むよう、目立つ記載をお願いしたいです。(卒園した幼稚園からのお知らせには記載がありました。)引き渡し訓練では、昨年でもでしたが、学年ごとの待機位置は把握していたとしても、どの組がどこに並んでいるのか後方からは見えないので、迎えに来た保護者が左右にうろろせざるを得ない状況があります。列後方にあたる位置にも、組ごとのコーンの設置をお願いしたいです。
194		2年生の授業を見学し、1~2時間目に渡り延々と色々な動画を見せ続けるだけの授業で非常に残念でした。合間に子どもが話す場面もなく、動画に子どもも大人も飽きましたし、記憶にも残り辛くなってしまいました。防災について、途中途中に質疑応答や、ディスカッションなど子どもが感じたことを発散する時間ももうけて欲しかったです。途中低学年向けの説明にしては難しい内容(調布消防署?の各地の震災被害写真説明の動画)もありました。低学年に情報の羅列では意味がないです。日本地図を見せて位置関係を伝える、などもっと工夫してください。
195		動画での学習だったので、もっと体験が出来たらいいと思いました。
196		低学年の子どもたちには長時間映像視聴は集中力が持たなかったように思われました。少し短く、メリハリをつけたほうがよろしいかと思います。このような授業時間を確保していることは大変素晴らしいです。
197		クラスによって伝える方法、伝え方(温度感)がだいぶ差があるのが気になりました。防災の話なので、緊張感を持った伝え方をした方が良いと思いました。
198		公開日的な参観日のようなものはあまり必要性を感じない。普段の授業や担任、子どもの様子は年間で参観日としてもうけられてるし、自由参加とはいえ引き取りまでいったん帰宅しなきゃいけないのはちょっと面倒くさいと思った。防災引き取り訓練のみでよいと思います。
199	日程	震災はいつなんどき起こるかわからないから雨天決行もありだと思えます。
200		防災教育の実施は大変素晴らしいと思うので、ぜひ続けていただきたいです。日程は、先生方にとっても、各家庭にとっても、あえて連休にかぶせない方が他の家族と都合が合わせられて良いのではないかと思います。

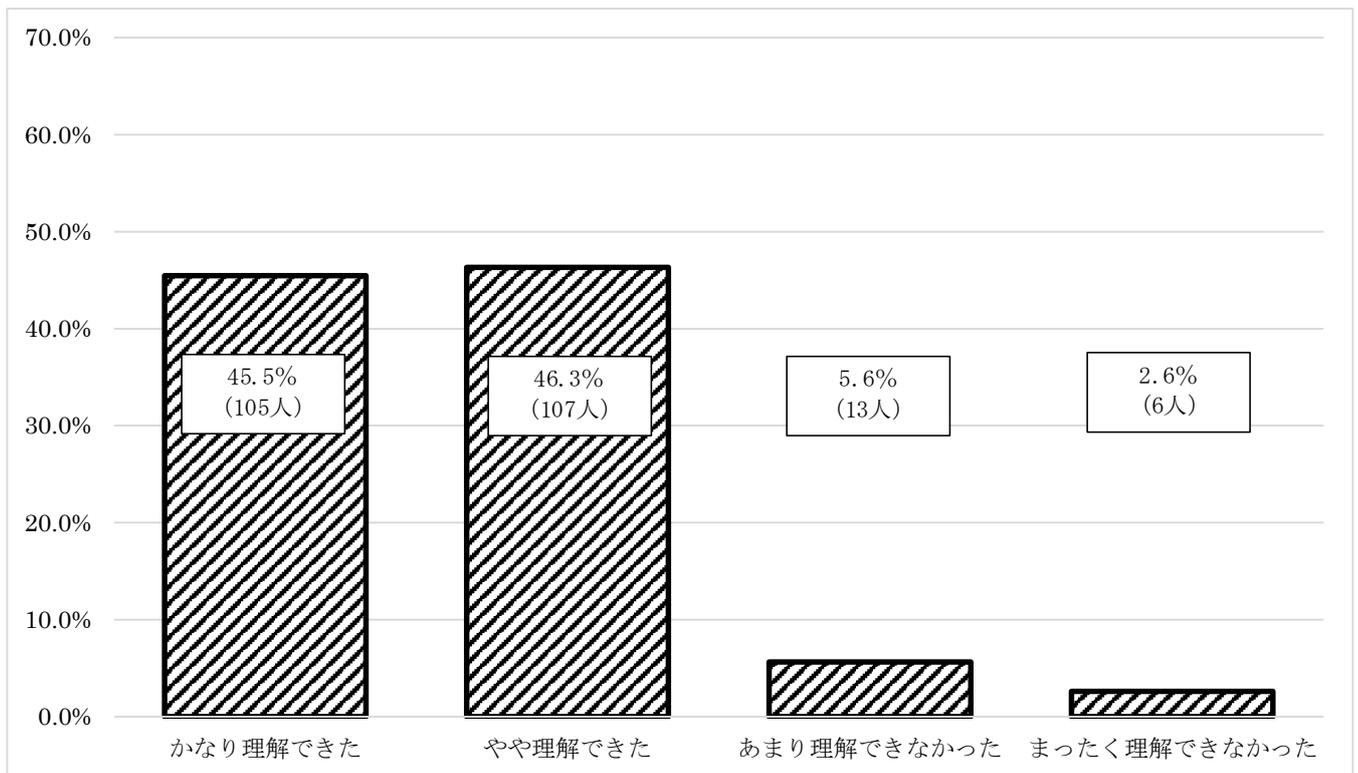
番号	項目	意見等
201	日程	連休の土曜日にやめて欲しい。また、迎えに行くだけだったのと、迎えの長い列に本当に災害が起こった時に大丈夫か心配になりました。ただ学校側もなんとなくやっているだけな感じがしました。
202		随分前から立っていた家庭の予定もあるので、ゴールデンウィーク初日の土曜登校と訓練はやめてほしいです（やむを得ず学校を欠席しました）。
203		わざわざゴールデンウィーク中に調布市防災教育の日を行う必要は無いと考えます。「一度定めた日程で行っている」といった、たいてい意味のない理由で毎年この日程で実施しているのであれば、最初の日程設定で失敗しているので、改善すべきです。
204		ゴールデンウィーク中に登校日を作らないでください。連休ではなくなってしまうます。防災訓練は前の週にすればいいだけのことです。
205		連休に当てられると家族の予定を前々から予約してしまうので日程を考慮してほしいです。
206		ゴールデンウィーク初日に設定するのは本当にやめて欲しい。防災教育は大切なものであり、せっかくの訓練であるのに、連休に登校日があることで、防災意識よりも不満の方が高まるので、効果も薄まる気がする。
207		GW 初日のため、旅行等の計画がある場合には参加できない家庭がありそう。本来別の日に実施すべき。
208		すぐーるで連絡は来るけど、大体の時間や流れは教えて欲しかった。ゴールデンウィーク前の土曜日なので、病院をそれぞれ家族が受診予定だったが、子どものお迎えのために、予定を変えたりする必要があった。
209		連休にやらないでほしい。他の日にしてほしい。
210		こういった企画を、あえてゴールデンウィークに絡めることに穿った見方をしております。土曜日を登校日にすることで、後半の4連休の前の5/2に振替え休日を繋げて5連休にしたい意図が透けて見えて、誰のためなのか、お役所的な作為を感じます。民間に勤める大半の親は5/2は仕事です。大型連休のために、その分むしろ仕事が詰まって忙しくすらなっているタイミング。ここを勝手に振替えにして子どもの世話は誰がするのか。役所の大人の都合のスケジュールだと思われました。振替えは連休と絡めずに、もっと先にするなど親への配慮が全く無いことに呆れました。防災ということであれば9月1日が通例のはず。翌年より改められることを望んで、改善を注意深く見ておきます。
211		振替え休日をGW 後半初日の5/2にして頂けたらと思いました。
212		引き渡し訓練や防災教育の重要性は理解しており、特に●●地域においては大変重要であると思うのですが、この土曜授業の振替え休日が平日にあるのが、働いている親からすると難関であったりもします…。
213		取り組み内容としてはよいと思いますが、日程を考え直してほしいです。ゴールデンウィークに登校日を設定して訓練をする必要はないと感じています。普通の土曜日に実施してください。
214		防災教育の日となって何年経つのでしょうか。毎年のことながら、この時期の連休を一日使うのはやめてほしいです。いつもそう思いながら参加してます。
215		小中と同じ時間はやめてほしい。
216		小中学校が同じ時間帯で実施しているため、兄弟がいても両方に参加できない。もう少し時間をずらしてほしい。
217		土曜日は仕事のため、詳細について入学式に案内がほしかったです。
218		小学校の引き渡しが終わって、お腹ペコペコ状態だったので、調布市開催のほうは参加できず…午後開催などにしてもらえると嬉しいです。
219		防災の授業参観と引き取りは別日だと行きやすいです。

番号	項目	意見等
220	日程	今年1年生になる子どもがおりますので、初参加です。学校によるのかもしれませんが、もらったプリントに8:45からとあったので、その時間に来る家庭が1割くらいいたように思います。みんなが通常に通学して席についている中で遅れて来る子は恥ずかしくて泣いている子もいました。もらったプリントには書いてなかったのですが、「通常通り登校してください。ランドセルも持たせてください。」などと書いてくれていたほうがより親切に思います。同じクラスの保護者の方とも話しましたが、その点が皆さんの間で疑問になっていました。他の学校の保護者とも話しましたがそちらの学校では、授業参観も兼ねているという記述がないので、保護者が学校に行けないものだと思っていたケースもあるようです。
221	避難所体験	避難所の体験がありがたかったです。知らないことだらけで勉強になりました。子どもの防災意識も高まったようです。
222		実際に防災食を食べてみようという働きはすごく良かったです。自宅のものの賞味期限を確認するきっかけにもなりました。
223		自分で作ったアルファ米がかなり美味しかったようです。みんな、笑顔で食べていたのが印象的でした。
224		アルファ米を食べる体験は家ではやったことがなかったのでいい機会でした。家でも購入しました。家に帰ってから地震がきたらどこが安全かなど家族で話し合うきっかけにもなった。
225		ただ引取訓練があるだけではなく、その日の授業で防災について考えたり、前日の給食でアルファ米が出されるなど、子どもの防災への意識が高まってとても良いと思います。
226		個人的に、家庭での備蓄の重要性を理解されていない方が多いと感じています。（自治体の備蓄をあてにしている）具体例に触れる機会やナッジ理論なども交えつつ、災害備蓄の一般化が進むことを期待します。
227		避難体験できて良かった。
228		地震活動が活発になっているなか、子ども達と防災について話をする良い機会になりました。避難所体験など、今回は6年生のみで参加できなかったのが、年に何回か色々な人が参加できる機会があれば更に良いなと思いました。
229		避難所の体験は低学年は対象外ですが、せめてどういふことを行っているのかの案内があれば嬉しいです。安心にも繋がるように思います。
230		1人のスペースなどが具体的にわかって良かった。支給されるものがレジャーシートとアルミシートという最低限なものなので家で用意するもの持っていくものがいふ必要だと思いました。
231		保護者や家庭用にもアルファ米を配布して欲しかった。
232		子どもが持ち帰った引き渡し訓練の用紙で体育館での避難所体験を知っていたので、予定どおり参加できました。ただ、あまり防災に興味感心を持たれている家庭が少なく、閑散としてました。市でも「防災士」の資格推奨のために資格取得の助成支援などしていただければと思いました。職種柄、興味があり資料請求しましたが取得に6万円はします。支援してくださる市区町村の提示がありましたが、残念ながら調布市は含まれてませんでした。金銭面で学びを断念しかねないのはとても残念です。
233		防災意識の向上のため、他の学年も避難所体験をさせた方が良いと思った。
234	避難所見学について、引取に行った娘が頑なに見学を拒否したので行けなくて残念でした。それ以外には防災教育の日の取り組みはあったでしょうか？	

番号	項目	意見等
235	避難所体験	引取訓練に行ったら、体育館で体験避難所なるものを開催しているようだったが、事前に知らなかったのので、寄らずに帰宅しました。引取訓練には、かなりの保護者が来ていたので、もう少し周知したら、よかったのでは？と思いました。引取訓練だけだと、若干形骸化している感が否めません。引取に合わせて、災害時、学校が避難所となるのか一時避難所なのかなど、保護者と生徒に向かって、市から改めての案内や防災意識向上のための説明や資料配布があったほうが引取訓練自体意味があるものになるのではないかと思います。災害が色々なところで起きているので、備えはしすぎることはないと思います。学校が避難所となったとき、どこにどういう防災グッズがあるのか備蓄がどこにどれくらいあるのか、そういうことも把握できていないので、半数以上の保護者が学校に来ている機会を活用すべきだと思います。
236	全般的な御意見	今回は、仕事で参加出来ず残念でした。震災はいつ起きるか分からないので定期的に学校で訓練してもらえ事に感謝致します。
237		最近、調布市に転入しましたが、このような取り組みがあつて素晴らしいと思いました。
238		最近地震も多いので、防災訓練はやはり大切だなと思いました。
239		日頃の備えは常々意識をしております。
240		通学路の歩道がとても狭いので、実際に災害が発生した際は、きっと混乱するだろうと思いました。他にも帰宅する道を探してみようかと思っています。
241		実際に地震が起きたら、学校までの通学路等の道路状況が気になりました。
242		頭の中で分かっているけど実際に起きたら行動できないと思う。自分自身、震災経験した事を思い出してしまい不快な気持ちになった。
243		阪神大震災の時には、地震のあまりの大きさに体がすくみ、動くことすらできなかった。また大地震となると、整列して避難するほど時間は許されていない。阪神大震災では、学校の倒壊も起きた。地震の揺れが始まってから十数秒のことだった。つまり、地震が始まってから、死ぬまでに残された時間は十数秒ということだ。このことを想定した避難が出来るかが生存者を増やすために重要。地震を甘く見てはいけない。全員は生き残れない。
244		本件とは関係ないですが、中学校の制服のブレザーをどんなに熱くても着用が必要というルールは絶対を守る必要ありますでしょうか？異常気象が発生しやすい現代において、無理に着用することは健康に悪影響ではないかと思いますが、5月に真夏日になったとしても着用の必要はありますでしょうか？もし熱中症で登下校中に生徒が倒れたりしたらどうされますでしょうか？子どもは学校のルールを真面目に守ろうとしているのですが、どこまで意味があるかわからないルールを守らせることに疑問を感じております。
245		校庭で3年生の体験授業を眺めている際、1人の生徒を大声で恫喝している男性教員がおり非常に不快だった。足が痛いとか何かで立っていた生徒に対する暴言で、立たせてもらってんだろ、座れよ、足伸ばしても座れねーのかよ、など非社会的勢力のような発言。3年生全員かつ保護者のいる前で大声で怒鳴るなどありえない行為と認識。完全なハラスメント行為であり適切な処罰を要望したい。
246		学校の配置図を事前にお知らせいただくとスムーズでした。1~3年の昇降口から入ることと、位置、導線を知っておくことが災害時の混乱を避ける備えと感じました。
247	●●中は人数が多い為、保護者も多く、混雑していた。本当の避難の時にパニックにならないか、心配はある。	
248	人数制限なしの学校公開で誰でも自由に入れる、ということだと思いますが、IDのチェック等も何もなかったのが心配になった。不審者も簡単に入れてしまうのはいかがなものかと思いました。	
249	●●小学校はハザードマップでは浸水地域になっているため、浸水した場合は何処に避難するのかなどの説明があると良いと思いました。	

番号	項目	意見等
250	全般的な御意見	●●小学校で受け取りをしたがハザードマップを見ると、おそらく野川が氾濫したさいにはそこにはとどまれない。その場合はどうなるのか？という点もきになった。非難経路、氾濫を想定しながらどう逃げるのか。
251		参加者が少なすぎた。
252		学校から写真、動画は撮らないでというお知らせがあったにもかかわらず、校庭に集まる全体を写真に撮っている保護者がいた。写真を撮る必要は全くなく、学校からのお知らせを読んでいないのか？と思い不愉快でした。
253		上の子から下の子でかれこれ 12 年経過してマンネリ感も否めないです。把握しきれてないですが、何かテーマを決めて臨場感ある訓練の取り組みなども必要なのかなと思います。
254		聞こえなかった。

●設問8: 避難所体験の趣旨やねらいが、理解いただけましたか。(回答者数:231人)



「かなり理解できた」又は「やや理解できた」と回答した保護者数は、全体の約91.8%に当たる212人となりました。

●設問9:避難所体験の感想をお聞かせください。(回答者数:80人)

感想においては、主に「備蓄品」「避難スペース」「衛生面」などに関する御意見を多くいただきました。

今年度初めての取組である避難所体験に関していただいた御意見について内容を精査し、より効果的な訓練となるよう、次年度に生かしてまいります。

番号	項目	意見等
1	備蓄品	災害に遭う前に、遊び感覚で避難所がどんな物を意識して置いているのかを子どもが実際に見たり、体験出来たのは万が一の時に不安にかられることがなくなるのではないかと思えた体験でした。防災意識が高い地域に住んでいるんだと安心しました。
2		家族全員で参加したので、それぞれの立場で質問や体験をして、避難所の感じがわかった。子どもたちはトイレに座ってみたり、アルミをかけて寝てみたり、個室(授乳室)に入ったりさせてもらったので、本当に避難することになっても、不安や焦りが少ないと思う。親は何を持って避難すれば役に立つのかなど計画が立てやすくなった。帰ってから家族で災害備蓄の食品を食べてみたのもいい経験になった。
3		1人分のスペースがどのくらいの広さなのか、避難した時に必要な物(毛布やエアーマットなど)を事前に用意しておくべき物が確認できて良かったです。また、非常食も水で作ると時間がかかるためすぐに食べられないことや非常時のトイレなど子どもたちとも防災について話す良いきっかけになりました。今回、6年・中3とのことでしたが学年問わず体験してみるのを薦めたいと思います。小1の下の子連れでしたが、トイレ体験で、おしりがトイレにすっぽり入ってしまったのでその辺も勉強になりました。
4		避難所での備蓄食料の量や、実際のスペースを具体的に知ることができ、避難所へ行く際に事前に用意しておくべき物などをイメージすることができました。
5		避難所の風景は報道ではよく見るものの実際に近くで見たり、触れることができて良かったです。
6		大人と云うより、子どもが体感した方が良いかなと思い、参加しました。エマージェンシーブランケットの温かさに驚いていました。
7		なかなか実物を見る機会がないので、こどもにも体験させることができてよかったです。
8		避難先での過ごし方や、備蓄品のことがわかったので参加できてよかったです。地域の避難マップを市役所でももらえるようになるとうれしいです。
9		子どもと食べ物や、トイレについて話し合いができた。
10		実物を見たり触れたりしたのがよかったです。
11		ローリングストックなど、普段から出来る備えを計画的にちゃんとしようと思いました。家族での話し合いも必要だと思いました。
12		子どもと一緒に頂いた備蓄食を食べてみて、思っていたよりも食べやすく、子どもも嫌がらずに食べれたので、自宅でも購入して保管おこうと思いました。
13		体育館にはブルーシートとアルミシートしかないのですが、防災備品は各家庭でしっかり準備しておく必要があると改めて実感した。
14		子どもの防災意識が高まったようです。家でも備蓄やトイレの備えはしておりますが、学校にも食料備蓄があると知りませんでしたのでありがたいと思いました。
15		ブルーシートとシルバーシートだと心許ない、自前で必要なものは揃えようと思いました。

番号	項目	意見等	
16	備蓄品	家庭での備蓄品など考え直すきっかけになった。	
17		非常時持ち出しバッグを用意しなければ、と思いました。	
18		改めて、防災に対する意識が高まりました。再度、備蓄品や非常用リュックの中身を確認と、避難所の確認をしたいと思いました。	
19		保存食やトイレに実際に触れることができてよかった。	
20		備蓄はあっても定期的な点検や、使い方を確認することが大切だと思った。	
21		備蓄グッズを頂けて良かったです。災害に備えます。	
22		今の備蓄品に加えて必要なものを話した。	
23		家が無事な限りは家で過ごせるように備蓄を揃えておこうと再確認できた。	
24		備蓄品の数や、ペットがいる場合の避難について考えさせられた。	
25		家庭で備品バックの準備をすることになりました。	
26		用具を実際広げてみたり、座ってみたり出来たので良かったです。子どもはやはり食べ物に興味があり、どんな感じか食べてみたいと言っていました。子ども2人で行って各家庭1つだけだったのでどちらかの気になる物しか選べず少し可哀想でした。せめて子どもの数だけあげて欲しかったなと思います。	
27		備蓄食の賞味期限を確認し、入れ替えのために災害食を食べる日をつくろうと思いました。手動ラジオや電気のエリアは、何をやっているのかわからず一列に並んでいたの、張り紙や説明の宣伝というかアピールをしてよいと思った。せっかく体験があるのに帰宅する方も多かった様子なので、6年生だけでなく他学年も可能でもよいと思う。	
28		テントや非常用トイレ、アルミケットなど実際に見て試してみることができたことが良かった。ただ、せっかくの場所(体育館)が余っていたので、テントだけでなくダンボールのパーテーションなども置くとか、もう少し種類があったらいいと思った。	
29		避難スペース	ひと家族あたりの面積が少ないことに驚いた。日ごろから防災意識を高めていきたいと思いました。
30			避難所のイメージが少しつかめました。実際には収容人数の問題などもあるので、各自の備えがとても大事だと思いました。
31	親子共に、避難所のイメージが出来、共有できたことが良かったです。		
32	ひと家族分のスペースが狭いと実感した。ブランケットは薄くてとても暖かいので、保管にも困らないので準備しておこうと思う。		
33	避難所で家族4人で過ごすブルーシートを見てあまりの狭さに驚きました。限られたスペースでの生活を考えるきっかけになりました。ここ2~3年避難用のリュックの中身を確認していなかったの、家に帰り子どもと見直しました。備蓄用の水が不足してしまったら…と不安がありましたが、野川の水をろ過すれば使える事を教えて頂きました。避難所体験の事前準備など大変だったと思います。色々ご丁寧に教えて下さりありがとうございました。		
34	敷かれたシート1枚、これが4人分のスペースですと説明を受け驚きました。大きな災害が起きるたびにニュースで幾度となく目にしてはきましたが、実際に見て感じることはとても大事だとあらためて思うことができました。		
35	一家族のスペースが、思っている以上に狭かった。担当者から話をうかがえて皆で協力していかなくてはと思いました。ありがとうございました。		
36	避難所で割り当てられる一人のスペースの広さが、思っていたより広がった。		
37	避難所スペースの狭さを実感できました。		
38	避難所体験に初めて参加しました。我が家は4人家族なのですが、敷いてある各家庭分のビニールシートの大きさを目の当たりにし、想像していたものより小さく、子どもたちも驚いていました。参加したことによりただただ携帯用トイレも色々なタイプがあるのだと勉強になりました。親子共々、防災に対する意識が高まり有意義な時間でした。ありがとうございました。		

番号	項目	意見等
39	避難スペース	実際に使用できるスペースがどのくらいなのか、イメージできた。
40		防災の意識が高まった。テントを立てたりシートを敷いた体育館内は思ったより狭くて、ここにたくさんの方が避難して過ごすのは厳しい環境だと思った。家の中での備えが大切だと思った。
41		体育館は広いイメージがあったが、実際に床にシートが敷かれているのを見ると、あまり収容人数は多くないように感じた。公共の援助に頼るのではなく、個人でできる対策は進めることが重要と感じた。また、家に用意してある備蓄品がまだ使える状態か定期的に確認することが必要と感じた。
42		体育館にブルーシートでは、実際身体が辛いだろうなあと思いました。簡易トイレ体験や備蓄のお話は勉強になりました。
43		実際に目にするとスペースの狭さを感じ、セルフ準備の大切さを感じた。
44		段ボールの仕切りなどは使わないのかなと思いました。
45		大変お世話になります。当日は●●の娘は放課後デイに行っていたので、下の息子(小6)と母親の2人で避難所体験に行きました。普段は広く感じる体育館も、避難所用に受付、災害用トイレ、被災者用区画が設置された体育館はとても狭く感じ、いったい何世帯が避難できるのだろうか？と狭さに驚きました。また、受付→災害トイレ体験→非常食受取り、など各ブースを回る際、前の家庭が終わるまで少し待たなくてはならなかったのですが、大した待ち時間でもないのに、後ろに並んでいた男性が、効率が悪いだの待たされるだのブツブツ文句を言っていて怖かったです。訓練ですらこんなことを言う人がいるので、本当に被災した場合はイライラしている人がたくさんいそうだととても怖いな、避難所にはできれば行きたくないなと感じました。我が家は知的障害児がいるので、なおさら避難所での集団生活は厳しいと感じました。
46		避難所の一家庭あたりのスペースが思っていたより狭く、長期間だったら辛いなと感じました。
47		各家庭のスペースは小さく、プライバシーもあまりなくて、数日なら頑張れるが、避難生活が長引くならストレスが溜まりそうだった。テントや寝袋を各家庭が用意できるのが理想だと思うが、アウトドアレジャーの習慣もなく、収納場所は取るしで、購入を躊躇している。
48		1家庭のスペースがかなり狭いことは理解できました。もう少し色々な説明や展示品があるのかと思ったのですが、思いの外少なかったので少し残念でした。
49	衛生面	マンホールトイレなどが用意されていることを知らなかったので参加してよかった。
50		実際に避難所に避難した経験がなかったので横になってみたり、簡易トイレに座ってみてイメージが湧いた。
51		避難所での生活について、簡易ベッドや簡易トイレを体験することでイメージがわく良い体験となりました。
52		防災用トイレの使い方がわかって良かった。
53		普段見られない物を見せていただき貴重な体験になった。女の子なので仮設トイレは、体験するのを恥ずかしかったようで、いい…と避けていましたが、当事者になればつかわざる得ない話をした。
54		簡易トイレをすぐに用意しようと思った。
55		仮設トイレに実際に座らせていただきました。トイレがあるだけでありがたい。と、感じました。説明してくださった方も、すごくわかりやすく、熱心に教えてくださいました。実際に避難したらどんな感じなのかを、もっと体験してみたいです。最近の地震の多さ、そう遠くない未来に、避難することがあるのかなと思っています。子どもがいる分、備蓄など、備えを今一度見直してみます。もっと定期的に、夏休みなど、色んな場所で体験できたらいいなと思いました。

番号	項目	意見等
56	衛生面	避難所の運営方法や簡易トイレの使い方などを知ることができた。いざというときに知識がある分、多少は余裕をもてると思う。
57		床がビニールシート一枚だったのはとても残念でした。プライバシーを仕切るものや、テントなどは検討されてないのでしょうか。また、何人収容できるのか、孤立した場合何人分食糧やトイレが備蓄あるのか？など不明でした。能登の教訓として女性のトイレ問題、生理の問題に対してあまりに雑な準備だどがっかりしました。これをみて、もっと声をあげるべきだと感じました。もし、今回実際の避難設備ではなく、簡易の物であれば、次回はもっと実際に近い状態で、大人の女性に配慮したトイレや、実際にはこれでトイレすることになりますよと、お母さんたちに訴求するとか、しっかり隣と仕切ってプライバシーを守ってますよとアピールすると良いのかなと思いました。
58		トイレ、衛生面が一番気になっていたので取り組み方や自宅での対処方も体感出来たのはとてもありがたかったです。食事面ではアルファ米のおにぎりを体験しました。パッケージに文字がありすぎなので、小さな子どもが自分で出来るような工夫は必要だと思いました。例えば…水なら 60 分なので食べる時間の前に準備をしましょう。大きく注意表示。手順 1、このシールをはがします。水をここまで入れます。手順 2、水ならタイマーで 60 分。お湯なら 15 分。お待ちください。等
59		一時的には有難いけれど、避難所の環境は良いものではないな、と思った。
60		防災時のトイレ等、もっと準備した方が良いと思った。避難所の一家族スペースが想像以上に狭かった。
61		全般的な御意見
62	小1の息子は楽しそうにしていました。いざというときにも安心するきっかけができたとおもいます。	
63	防災意識が高まった。	
64	想定しやすく良かった。	
65	子どもが学校で教わった避難の仕方を聞いて、なるほどなぁと勉強になった事もありました。	
66	家族での共有認識の大切さを感じました。	
67	実際に手に取る事が出来、参考になった。	
68	防災意識高くなった。	
69	家族でいま一度防災について話し合う機会となった。	
70	防災について家族で話そうと思いました。	
71	これまでは災害が起きたら避難所に行けば良いと漫然と思っていたのですが、実際に避難所のキャパシティを目の当たりにし、多くの人を収容するのは難しいと感じました。もし災害が起きた際には、自宅が壊れるなど在宅避難が困難な方が優先になるでしょうから、これからは、在宅避難を前提に備える必要があると改めて感じました。今後は、備蓄を促すチラシを配るだけでなく、在宅避難を前提とした訓練（シミュレーション）も必要なのかなと感じました。そして、ニュースなどでも避難所の様子は伝えられますが、在宅避難の方の様子はあまり見たことがないので、もし、機会があれば、在宅避難された方のお話など聞いてみたいなと思いました。	
72	市役所の方が、説明してくれて、ありがたかった。確認しないとわかりませんとのお答えも多かった印象はあった。	
73	参加人数が少なかった。もっと保護者の参加があってもいいのでは、引取の前に、見学を必須にするくらいでもいいと感じました。	

番号	項目	意見等
74	全般的な御意見	主催者側の(補助要員やお手伝いを含む)対応, 知識をもう少し勉強した方がいいかなと思いました。今後もこの様な活動ががんばって下さい!
75		体験というよりは展示でした。
76		せっかくの良い機会だが, 参加人数が少なく, スタッフの方々がお手隙だともったいないと思った。任意参加というより, 授業の一環とし基本的に生徒が皆参加できるよう, 何か良い方法がないのかなと思った。
77		上に記載した。
78		参加してない。
79		参加していません。
80		こちらは体験していないのでわかりません。

# 第3章

## 「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

### ねらい 過去の災害の教訓に学び、備える

- ◎過去の災害からの教訓や、防災分野の有識者の知見から学ぶ
- ◎「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録を共有する
- ◎自助・共助の意識と行動様式を啓発する



VR防災体験車体験(国領小学校)

### 3-1 第一小学校

#### ◆ 「命」の授業

<b>防災意識を高めよう 学ぼう 防災 ーキミならどうするー</b>
第6学年

「急いで避難所にむかわなければならない。家族同然の飼い犬も一緒に連れていく?」, 「学校に避難しようと玄関を出たが, 親から避難時に持つように言われていた防災リュックを忘れた。ほんの十数秒でもどれる。家にもどる?」, 「一人で留守番中に大きな地震」など, 具体的な場面を想像させ, 10秒以内で判断しました。どのような理由でどんな判断をしたか, クラスで話し合うことで, 災害が発生したときに, 自分の命を守るためのとっさの判断をすることの大切さについて学びました。



**下校後1人で家にいた時, 大津波警報発令!**

学校に避難しようと玄関を出たが, 親から避難時に持つように言われていた防災リュックを忘れた。

ほんの数十秒でもどれる。家にもどる?



**YES**

もどる

**NO**

もどらない

#### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

<b>「まちかど防水訓練」</b>
講師 調布消防署員
第6学年

6年生は, 調布消防署の方に, 「まちかど防水訓練車」を用意していただき, 2名ずつ放水訓練をしました。この防災体験では, 全員が訓練車の炎の絵の的に向かって放水体験をしました。

実際にホースを握って体験したことで, ホースを通る水圧や放水の勢いを体感することができました。

児童からは, 「予想以上に水圧が強かった。」, 「いざという災害のときに自分の身を守ることはもちろん, 自分でできることは何かを考えるきっかけとなった。」という感想が聞かれました。6年生全員が, 防災について意識を高めることができました。



## 3-2 第二小学校

### ◆ 「命」の授業

#### もし、大地震・水害が起きたら ーどのような行動をすればよいかー

全学年

「大地震」または「水害」が発生した際の行動について考える学習を行いました。

低学年では、登下校や学校生活の中で地震が発生した際に起きる危険を予想し、実際に動作を行いながら、自分の身の守り方を考えました。また、「お・か・し・も」の約束や避難経路等を確認しました。水害が発生する前に避難することが命を守るために大事なことを学びました。中学年では、大地震や水害が発生した際に備えて家庭で行っていることや、家族と離れているときに災害が発生したときにどのように行動するかを考えました。高学年では、「自助・公助・共助」や「避難所の役割」について学び、避難所での過ごし方や自分たちでできることを考えました。どの学年も自分の身を自分で守り、共に助け合うことの大切さを学習することができました。

### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「災害用伝言ダイヤル171体験」

講師 NTT東日本東京武蔵野支店職員

第6学年

6年生はNTT東日本のご協力を得て、「災害用伝言ダイヤル(171)・災害用伝言版(WEB171)」体験を行い、災害時における家族との連絡の仕方を学びました。まず、東日本大震災当時における災害用伝言ダイヤルの様子や、災害時には公衆電話が優先的につながることを学びました。次に児童達にあまり馴染みのない公衆電話のかけ方を学び、実際に災害用伝言ダイヤル171の操作体験を行いました。受話器を上げることも初めての児童もいましたが、伝言を録音したり、聞いたりすることはとても上手でした。学校周辺の公衆電話の探し方等も教わり、充実した時間となりました。

3時間目に引き渡し訓練を行いました。児童は、学んだことを生かして、廊下に静かに素早く避難することができました。その後、保護者の皆様のご協力のおかげでスムーズに引き渡しを行うことができました。体育館では、6年生対象の避難所体験が行われ、多数の児童が参加し、地域や市職員の方から避難所生活の説明を受け、実際に体験も行い、充実した活動となりました。



### 3-3 第三小学校

#### ◆ 「命」の授業

##### 「地震だ！さあどうする？」他

全学年

地震等の災害が起きたとき、自分はどのような行動をとらなければならないのか、各学年の発達段階に合わせた「防災実践力」を高める授業を行いました。

- ・ 1年生 階段や図書館など、教室以外の場所で安全に過ごす方法について学ぶ
- ・ 2年生 地震が起きた時に、自分の身を守る方法を実際に体験しながら学習する
- ・ 3年生 学校や家などの危険な箇所について考える
- ・ 4年生 自分の非常持ち出し袋に入れておくべき物について話し合う
- ・ 5年生 東日本大震災の事例から、災害が起きた時に家族と決めておくことを話し合う
- ・ 6年生 避難所の生活について具体的に想起しながら、自分自身に置き換えて考える

学習の後は、全学年児童が朝から準備したアルファ米のご飯やおにぎりを試食しました。色々な味があり、予想以上のおいしさに驚き、避難生活を想像しながらいただきました。



防災頭巾と軍手の着用練習



備蓄の水でアルファ米を準備中



1年生も真剣に考えています

#### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

##### 「多摩川が起こす水害と命を守る行動」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年

3年生～6年生は、京浜河川事務所による、「多摩川が起こす水害と命を守る行動」の動画を視聴しました。普段遊びに行くこともある多摩川だけに、児童は興味深く視聴していました。

壊れそうな堤防や川の氾濫などの様子を見て驚くと共に、身近なところに危険が潜んでいることを知ることができました。

児童からは、「高い所に逃げる垂直避難を覚えておきたい」、「避難のお知らせが来たら、できるだけ早く逃げるのが自分自身も周りの人も助けることにつながる」等、どんな行動をとればいいのか、具体的に学ぶことができました。

## 3-4 八雲台小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命を守る防災訓練—ぼくの気持ちに共感しますか？共感しませんか？—

第6学年

避難訓練に一生懸命参加した「ぼく」が、自分の地域に大きな地震がめったに起こらないことから、「本気でにげたら損かもしれない」という感想をもつ教材文を通して、避難訓練について考えました。その「ぼく」の感想に対して共感できるか、できないかという話し合いを通して、避難訓練だけにとどまらず、自分たちの日常の行動についても議論しました。

授業後に行われた避難訓練では整然と避難することができました。「自分の行動が友達を守ることににつながる」、「どのような場面でも落ち着いて命を守る行動をとりたい」などの感想が見られました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「命を守る避難行動」

講師 調布警察署員

第4～6学年

4～6年生を対象に調布警察署の方に「命を守る避難行動」についてお話をさせていただきました。

身近にある危険な場所について、具体的な場面を想定しながら説明していただきました。児童はこれまでの経験から考えて、どのような場所が危険なのかについて、たくさん意見を発表することができました。また、東日本大震災の際に実際に活動した時の様子について映像を交えながら丁寧に説明していただきました。改めて被害の大きさを知ることができました。

有事の際に自分の命を守るために、そして、周りの人たちの命を守るためにも正しい知識で正しい行動をとる必要があることを全員で理解しました。



## 3-5 富士見台小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「自宅で地震が起こったら」

第3学年

自宅で地震が起こった際に、どんな物に気を付ければよいか、どんな備えがあればよかったか話し合いました。

どこから物が落ちてくるか、怪我につながる危険な物は何か、気付いたことを発表していき、学級全体で共有しました。VR動画を視聴したことで、実際の場面を想像することができ、地震が起こった際の身の守り方について考えを深めることができました。

また、避難所運営について学んだことで、日頃の備えの大切さに気付き、いざというときへの意識を高めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「震災に備えるための心構え」

講師 特定非営利活動法人みんなのコード 竹谷 正明 氏

第4～6学年

東日本大震災の直後に、宮城県気仙沼市の小学校で東京都から派遣教員として勤めた竹谷正明先生をお呼びして、防災啓発講話をしていただきました。震災に備えて心構えをすることがねらいでした。

災害にあった人たちの心の変化として、「災害が起きて3日ぐらいは、命を守ることで精一杯。」、「2か月ぐらいまでは、みんなで力を合わせて頑張れる。」、「3か月を過ぎると、これからどうなるのだろうと不安になります。」と実際に経験したことを踏まえて、教えていただきました。

また、不安になったお年寄りの心の支えが親切な子供の姿であったことを受けて、「災害時はお年寄りを助きたい。」、「ご飯を配る仕事を頑張りたい。」とひとりひとり、自分にできることを考えることができました。



## 3-6 滝坂小学校

### ◆ 「命」の授業

ひなんのしかたを しろ うーいのちを まもるためにー

第1学年

小学校生活初めての避難訓練のため、避難する必要があるのはどのようなときか話し合いました。

地震がきたとき、火事になったときに、どのようなことが起こるか話し合いました。そのことをもとに、自分の命を守るための方法を知りました。

- ・地震がきた時には机の下にもぐること
- ・机の下にもぐるときには、机が動かないように対角の脚をもつこと
- ・火事の時には、ハンカチやマスクで口を覆って姿勢を低くして逃げる  
こと



学校で、自分の命を守るための練習を避難訓練といい、「おかしも」の約束を守って避難することを学びました。また、「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない」の約束を守るのは、なぜか考えることで、自他の命を守るために大切なことだと気付きました。

### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

三角巾を使用した防災親子ワークショップ

講師 各担任

第6学年

阪神・淡路大震災を題材にした教材を読みました。どこか遠くで起こっていることと感じていた、主人公の父親が医師として被災地へボランティアとしてかけつけた話を聞いて、考え方を変えたことを知りました。父親の影響を受け被災地に自らも行くことを決めた主人公の話から、防災親子ワークショップを行いました。頭部を三角巾で覆う手順と腕を三角巾で吊る手順を確認し、親子で実際に体験しました。



## 3-7 深大寺小学校

### ◆ 「命」の授業

#### どうする？災害時の食の備え

全学年

災害時の「食の備え」について学ぶことをねらいとして、全学年で、災害時の備蓄食料「アルファ米」を食べる体験活動を行いました。

前日の給食で、備蓄米・アルファ米を使用した「わかめごはん」を食べましたが、実際に自分たちで作るとなると、「できるかな」と不安そうな児童もいました。しかし、ペットボトルの水をアルファ米のパックに入れ、60分間待つだけで、アルファ米の「ごはん・おにぎり」が簡単に出来上がったため、驚きと喜びの声が上がりました。

1～5年生は「わかめごはん」、6年生は「わかめのおにぎり」を実際に食べました。「水を入れただけなのに、おにぎりができるなんて不思議だね」、「とてもおいしいね」、「家の防災バッグにアルファ米があるので、時々食べてみようと思う」などと、感想を述べていました。今回の経験を通して、電気やガスが使えなくなるかもしれない非常時に向けてどう備えるべきか、防災意識を高めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「災害時に命を救うために」

講師 地域学校協働本部・調布消防署員

第4学年

4年生が、地域学校協働本部の方々のご協力を得て、消火体験活動を行いました。実際に体験することを通して防災意識を高めることがねらいでした。

まず、協働本部の防災ボランティアの方から、消火器の仕組みや使い方についてのお話を聞きました。次に、校庭に模擬的な火を設置しました。ボランティアの方が、次々と練習用の消火器に水を補充してくださり、1時間で全員が消火器体験を行うことができました。災害や緊急時に互いに助け合う気持ちを高めるとともに、「命を守るために自分にできることは何か」を考え、自分事として災害を捉える良い体験活動になりました。



## 3-8 上ノ原小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 非常時・災害時には何がいる？

第6学年

災害は突然やってきます。その際、行政だけに頼ることは難しいということから、「自助」「公助」「共助」の三つの言葉を学び、それぞれがどのような備えをしているかを話し合いました。その中で確実にできる「自助」について避難袋に入れる物の優先順位をグループで話し合いながら考えました。どのグループでも水と食料が重要ということは共通していましたが、それ以外の部分は、個人や家庭の事情で変わってくるため、各家庭で確認する必要があることが分かりました。また、マニュアルに載っている避難袋の中身についてもただ用意するだけでなく、その道具がどのように活用できるかまで調べることが大切と知り、授業で使ったワークシートを持ち帰ることで家庭での話題作りとしました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「多摩川が起こす水害と、命を守る行動」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年

3～6年生は、京浜河川事務所による防災啓発講話を視聴し、大雨時の多摩川の水位変化やそれに伴う水害、そこからどうやって自分の命を守るかについて学びました。

調布市のハザードマップと照らし合わせると、自分たちが住んでいる地域は比較的安全な場所であることを知ると同時に、常に自分の住んでいる地域にいるわけではないことも確認し、災害に対する知識と日頃の備えの重要性について話し合いました。その後の避難訓練では、一人一人が自分事として捉えて、真剣に参加する姿が見られました。



## 3-9 石原小学校

### ◆ 「命」の授業

あなたならその時どうする？ 一命を守る つなぐために考えるー

第4学年

災害が発生して避難するとき、どのような経路を通して避難すればよいか、話し合いました。

普段行っている避難訓練では、全員一斉に避難するので、この経路で逃げる必要性について児童一人一人がきちんと理解できているかを教員は確認できていません。一人一人が違う場所にいる想定であれば、個人で考え、適切な経路を使って本部まで避難することが確認できるのではないかと考え、出火時刻をクラブ活動の時間帯とし、どう避難したらよいかそれぞれが経路を考える活動を行いました。一人一人が考えたあと、グループで話し合い、学級全体で共有しました。学級全体で共有したところ、多様な避難経路が挙がりました。全ての意見を統合すると、「火元から遠いところを選んで避難する」ということでした。最後に「日頃の訓練の際に、実際に火災が起きたときと同じ緊張感を持って行動すれば、いざというときにも訓練のときのようにスムーズに動けます。いざというときのための意識を高めて訓練に臨み、命を大切にしましょう」と児童に声をかけ、学習を終えました。

### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「子供たちの命を救うために」

講師 調布消防署員

全学年

防災への関心を高めることをねらいとして、調布消防署作成の、過去の震災を振り返りながら震災時の行動について考える45分程度の動画を各クラスで視聴しました。今在籍している小学生は東日本大震災を経験していないため、震災による大きな爪痕を見て驚く児童がたくさんいました。日本は地震が多い国だからこそ、防災行動力を身につけ、震災時、自分で判断し、行動できるようにしておく必要があることを教えていただきました。津波によって建物の3階に運ばれた車を見て「こんなに高いところまで水が来たのか。自然は怖い。」といった感想が児童から出されました。

動画での学習は、どうしても一方通行になりがちですが、調布消防署の方々が動画の内容を散りばめたクイズを作成していただき、最後は問題に答えながら動画の内容を振り返りました。クイズに『答える』という行動により、動画で得た知識をアウトプットすることができました。全問正解する児童が多く、動画で学習した内容の理解が、振り返りのクイズによってさらに深められました。



## 3-10 若葉小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 震災救援所ってなに？ —あなたならどうする—

第6学年

大きな地震が発生した際に設置される震災救援所の役割について学びました。また、震災救援所で発生する具体的な事例への対応方法について考えることを通して、多様な視点で様々な人に配慮していくことの大切さや難しさを疑似体験しました。

班ごとに若葉小学校の校舎図を見て、どのような問題がどんな場所で発生しそうかを話し合いました。子どもたちは、震災救援所には様々な立場の人がいることを考慮し、具体的な問題と、その解決策などについて考え、発表することができました。

また、全員で共通のテーマを話し合うために、「仮設トイレが明日5つ届きます。どこに設置しますか。」など、具体的な問題を5つ用意して、対応策について話し合いました。子どもたちは、「ひとりひとりの立場、意見、国籍を考えて運営することは想像以上に難しかった」、「班の友達と話し合うことで、色々なことを深く考えることができた」など、今回の学習を通して、震災が起きた際に大切なことについて深く考えることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「子供たちの命を救うために」

講師 調布消防署員

全学年

タブレット型端末を活用し、調布消防署員による防災啓発講話を視聴しました。子どもたちは、教室でスクリーンに映し出される画像を食い入るように見つめていました。台風やゲリラ豪雨などにより、見慣れている川が氾濫し、猛威を振るう映像から、ひとりひとりが自分事として捉え、「防災」の必要性を強く感じたようです。消防署員の方からの「水害は事前に準備ができる災害です。自分の命だけでなく自分の大切な人の命を守るためにも、家族の人と話し合っただけで逃げるタイミングなどを事前に準備しておく、そうしたことのきっかけにして欲しいと思います。」とのメッセージを受け、家族で話し合い、防災意識を高めることや、事前の準備の大切さを実感したようです。

## 3-11 緑ヶ丘小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 防災の備えと対応 ～自分で自分の身の安全を守るために～

第1～3学年

入学したばかりの1年生にとって、この日の引き渡し訓練は初めての避難訓練でした。この授業では、机の下に身を隠す練習や、防災頭巾を被る練習をしました。この練習が、この後に行われた引き渡し訓練に生かされました。

2年生は、大地震が起こると、どんなことに困るのかを思い浮かべながら考えました。未経験の大地震をイメージすることは難しいですが、参観されている保護者の方からヒントをもらいながら、自分なりに考えることができました。

3年生は、私たちに身近な日常生活を描いた一枚の絵から、大地震が起きたら絵の中のどこがどのように危険なのかを考えました。「食器棚が倒れる」、「ガラスが割れる」、「台所で火が起きる」など、様々な危険が予測されました。次に、防災の視点に切り替え、日頃から自分にできることや、大地震が起きた時の適切な行動について考えました。地震による被害を防ぐため、自分事として様々な考えを出し合うことができました。



### ◆ 「命」の授業

#### 防災の備えと対応 ～自分で自分の身の安全を守るために～

第4～6学年

4年生は、地震などで起こる災害の一つ、「火事」についての被害を防ぐ方法を学びました。家の中で火事が起こりやすい場所はどこなのか、一枚の絵から考えました。火を扱う台所や、ストーブが置かれているリビング、タコ足配線や煙草の不始末に気が付いた児童もいました。火事が起こった時の適切な行動について考え、自分の命を守る具体的な方法を学ぶことができました。

5年生のテーマは「東日本大震災から学ぶ」です。岩手県釜石市では、同じ地区の人々であるにもかかわらず、それぞれの行動によって生死が分かれました。この事例から、自分の命、人の命を守るために、災害時に自分はどうのような行動を取ればよいのかを考えました。

6年生は、避難所を運営するゲーム（HUG）を通して、自分にできることを考えました。一言で避難所と言っても、「男女別のスペースを作る」、「お年寄りや赤ちゃんを優先する」、「喫煙・携帯電話スペースを作る」など、実は様々なルールによって運営されています。避難者をどこの教室に誘導するのか、電話はどこに設置するのかなどを考えることを通して、誰もが安全に快適に過ごすことのできる避難所運営の仕方を学びました。

## 3-12 染地小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「こんなときあなたならどうする」

第1学年

「災害って知っている？」という発問から始まり「じしんのえほん～こんなときどうするの～」という本の読み聞かせを通して、地震などの災害について学習しました。

また、命を守る話の中で「周りに何も無い時どうする？」という声掛けに対し、「すぐ建物に入るよ」、「頭を守るよ」とすぐに意見が出ていました。状況を想像して考えられている様子が見られました。

最後に、教室での身の安全を守る方法では「ダンゴムシのポーズ」と「サルのポーズ」を実際にやりながら、自身の身の守り方をしっかり学びました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 多摩川が起こす水害と、命を守る行動

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年

京浜河川事務所による、リモート防災学習「多摩川が起こす水害と、命を守る行動」を学習しました。自分たちの身近にある多摩川を用いて、実際の水害の様子をみながら命の守り方を考えました。水害のしくみを考える動画では、積極的にクイズに参加し「知らなかった」、「良く分かった」といった発言が多く見られ、児童の理解を深めることができました。最後に、染地小学校の位置を踏まえて、逃げる方法や避難場所を確認し、防災への意識を高めました。



## 3-13 北ノ台小学校

### ◆ 「命」の授業

あなたならその時どうする？ 一命を守る つなぐために考える一

第5学年

災害時に自分だったらどうするのかについて考える授業を実施しました。日頃実施している避難訓練から火事の怖さや、煙の危険性を子どもたちは頭では理解していますが、「煙ってそんなに危険なの。」、「怖いね。」などと実際の現場についても考えることができました。しかし、子どもたちは学習をすすめていく中で、目の前で災害が発生していると誰かからの指示待ちになってしまう事例についても学習し、災害では



命に係わるということが分かりました。他の自然災害についても同様に、「自分が」を主語に置き換えて考える学習活動を多くの学級で実施し、子どもたちから「いつもの避難訓練を大切にしたい。」や「災害時に落ち着いていつも行動するようにしたい。」などと「命の授業」を通して、日ごろから身を守るために大切にすることを意識した感想が出ました。

### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「水害から身を守るために」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年

映像資料から、多摩川水域の水害から身を守るために、日頃からどのようなことに注意して生活していく必要があるのかを学びました。映像を視聴した児童からは「え、これが多摩川？こんな風になるの？」と驚くと同時に、児童の身近にある自然環境を知ることによって正常性バイアスを抱いて危険に直面することのないように、災害に対して正しい知識と対応・対策できる姿勢を学ぶことができました。特に映像から「水害が起きた時には、高いところに避難しないといけない。」、「そもそも河川が増水している時には近付かない方がいい。」と日ごろから気を付けるべきことを発表する場面も見られ、真剣に防災について考えることができました。



## 3-14 多摩川小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 一命を守る一

全学年

災害が発生したとき、どのような行動をとったらよいのでしょうか。

3年生では、紙芝居を見ながら「こんなとき、どうする？」を学びました。紙芝居には何パターンもの「こんなとき」が描いてあります。クイズ形式での学習に、子どもたちは興味津々で、全員ノリノリで楽しみながらしっかりと学びました。6年生は、「災害の備えを考えよう」をテーマに、クイズ作成サイトを使ってそれぞれの考えたクイズを作り出し合うことで、防災について考え、話し合いました。

1年生は、「たいせつないのちとあんぜん」をテーマに、災害時に取るべき行動を実際にやってみました。入学してから初めての避難行動です。指導者の指示に従い、慌てることなく、スムーズに避難行動をとることができました。2年生は「じぶんのいのちは じぶんでまもろう」、4年生は「もしもの時に備えて」、5年生は「おばあちゃんからもらった命」をテーマとし、どの学年もそれぞれ発達段階にあった学習をし、防災について考えた一日になりました。



3年：こんなときキミならどうする



6年：災害の備えを考えよ

### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 洪水に関する安全指導

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年

多摩川にほど近い多摩川小学校では、台風の際に、避難を経験した児童もいます。そのため、川の増水による浸水の被害を、身近なこととしてとらえています。このことから、京浜河川事務所の動画を視聴し、各学級で担任が安全指導を行いました。

9月には、学校で洪水警報発令時の避難訓練も行いますが、その時の状況をしっかりとイメージし、いざというときに、自分の命は自分で守れるように、学習をしました。



## 3-15 杉森小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 震災の経験から学ぼう

第5学年

災害が発生するのは、家とも学校とも限りません。近くに大人がいるとも限りません。いつでも自分の身を自分で守るためには、避難訓練のように災害発生時を想定し、身の守り方を考えておくことが大切になります。そこで、5年生では過去の震災の経験を踏まえ、「学校や家、通学路で地震が起きたらどうすればよいか」を考えました。

まずは、大地震発生時の学校や家の写真を見て、「棚から物が落ちる」、「火災が発生するかもしれない」、「ガラスが割れるんだ」というところから、「頭を守る」、「家具から離れる」、「使っている火を止める」、「足元に気を付けて歩く」、「靴を履く」などの考えが出ました。それをもとにして、さらに理科室・家庭科室・通学路等で地震が発生した際の身の守り方を考えました。子どもたちからは様々な意見が出されました。子どもたちに、状況に応じた身の守り方や考え方が身に付いていたらいいなと願っています。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「多摩川が起こす水害」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

災害は、いつやってくるかわかりません。また、災害は地震かもしれないし、水害かもしれません。すべての子どもにとって、災害に備えるための心構えをもつこと、また、災害が起きた時に必要な行動を知ることが、自他の命を守るうえで大変重要です。このことを子どもたちに真剣に伝えることができるよう、杉森小学校では防災教育の創意工夫に努めています。

杉森小学校区域は、台風・豪雨による多摩川の氾濫とそれに伴う水害が懸念される地域です。

そこで、今年度は水害を知り、水害に備えて命を守る行動を、京浜河川事務所提供の動画教材を活用して学習しました。子どもたちは、水害が発生した際に想定される被害を動画から学び、「震災だけでなく水害からも、自分の身は自分で守る」という心構えをもつことができました。

## 3-16 飛田給小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 自分の身の守り方を考えよう

第4学年

「防災ノート～災害と安全～（小学校3・4年生版）」を活用し、学校で地震が起きた場合の危険について考えました。

「落ちてきそうなもの」、「倒れやすいもの」、「移動しそうなもの」などの視点を持ち、実際に廊下や階段、特別教室などの場所へ調べに行きました。グループごとに、どのようなところが危険なのかを話し合ったり、タブレットで危険なところを撮影した後で、全体で情報共有をしました。グループで調べたことや考えたことを皆で共有することで、大規模地震発生時には危険となり得る箇所が校舎内には様々存在することに気付き、当事者意識をもって考えることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「防災教育の日プログラム～水害について」

講師 鹿島建設株式会社技術研究所職員

第6学年

鹿島建設株式会社技術研究所の方々をお招きして、水害に関する講話をしていただきました。多摩川が近くに流れる飛田給小学校。「もし、多摩川が氾濫してしまったら、私たちはどうなるのだろう。」という疑問をもちながら、学習を進めていきました。被害が大きい場合、水位は校舎の2階にまで及ぶことを知るとともに、「駅方面の高い場所への避難が命を守ることにつながる」と確認しました。後半は、タブレット端末を活用してクイズ形式で学びを広げました。投票した選択肢に票が集まっていく様子が目で見分けるようになっていて、白熱しながら考える児童の姿がありました。授業の終わりには、「遊びに行くこともある多摩川にも危険があることを知りました。」など、学んだことをカードに書いて職員の方にお渡ししました。災害の危険が身近に潜んでいることが実感でき、実りある時間となりました。



## 3-17 柏野小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「安全な避難行動を身に付けよう」

第2学年

地震発生時の安全な避難行動について、絵や写真、動画の資料を題材に授業を行いました。「学校にいる時に大きな地震がきたら、どのように行動しますか。」との問いに対して、児童はグループごとに、教室のみならず廊下、階段、校庭、図書室、トイレなどでとるべき避難行動を考え、付箋紙に書いて貼り付けました。続いて東日本大震災時の写真や映像資料を視聴すると、自分たちの考えが真実味を帯びたようで、真剣に見入っていました。緊急時の避難行動を自分のこととして考える機会となりました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 調布消防署による防災啓発講話

講師 調布消防署員

第5～6学年

調布消防署による防災啓発講話を低学年・中学年・高学年のそれぞれの実態に応じた内容を選んで視聴しました。ビデオの講話の後に命の授業をすることで、より防災への意識を高めることができました。地震発生時に自分自身の身を守るための行動について考えました。

5年生では、『緊急地震速報』の原理を確認し、動画を用いて、P波とS波の役割から『緊急地震速報』の重要性について学びました。『緊急地震速報』が鳴ったら、どのような行動を取るべきかを考え、「自分の身を守るための行動を考えよう」というねらいで授業を行いました。グループごとに、理科室、音楽室、通学路で地震が発生した場合にどのような行動をとるとよいのかを考え、付箋に書いて意見を出し合いました。

6年生では、社会科で学んだ、自助・公助・共助を振り返り、今回は自助について考えました。各家庭での災害時の備えから、「いざ」というときに何をもって避難所へ行くべきかを班員と話し合いました。また、持ち出した道具の使い方についても考えを深めました。水ひとつとっても、様々な用途があることに気付いていました。授業で知ったことを家庭で実践し、その輪が家庭を飛び越え、地域に広がっていくことで“共助”に繋がっていくことにも気付くことができました。

## 3-18 国領小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「一人のときに地震が来たら……」—留守番時の避難行動・備え

第4学年

2時間目は、留守番時に一人である時に大きな地震が起きたらどうするのか、その危険性や日常の備え・約束について話し合いました。「キッチンから火が出ると火事になるかもしれない。」、「食器棚が倒れたらお皿が割れて危ない。」、「窓ガラスが割れるから窓は開けてカーテンを閉める。」など、個人やグループで話し合った意見を学級全体で共有しました。また、「避難所まで行くのにどっちの道が安全か」についてグループや学級全体で検討し、その理由について説明し合いました。学習を通して、危険を予測して行動することや、日常から備えておくことの大切を学び、いざというときのための意識を高めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防災啓発講話・VR防災体験車体験

講師 調布消防署員

第6学年

1時間目は、京浜河川事務所の動画を視聴し、多摩川で起きた過去の水害や、増水による川の様子の変化、ハザードマップの活用や避難時の注意点などについて学習しました。また、2時間目には、VR防災体験車体験を行いました。今回体験したコンテンツは「地震編」で、自宅にいる時に大地震が起きたという設定の映像でした。リアリティある映像と激しい揺れに、思わず大きな声をあげてしまう児童もいました。防災啓発講話や臨場感あふれる地震疑似体験を通して、改めて地震や水害の怖さを知り、防災に関する正しい知識を身に付け、正しく判断・行動することが自分や家族の命を守ることにつながることを学びました。



## 3-19 布田小学校

### ◆ 「命」の授業

#### もし〇〇の時、地震がおきたら

第4学年

普段は学校で地震が起きた場合を想定していますが、今回の授業では自分の家に一人で過ごしている時に大地震が起きた場合に、どうすればよいかということについて考えました。まず、地震の写真を見てどのような被害が起きているのかを読み取りました。次に、部屋の間取りを表す絵を見て、どこに危険な場所があるか、どこに隠ればよいかを一人一人がワークシートを用いて考えた上で、学級全体で共有しました。地震発生時に予想される被害や困ることについて意見を出し合い、そこから、自分たちの大切な命を守るために取るべき行動について全体で意見交流をしました。「まずは自分の身を守る行動を取る」、「家の中や外で危険と考えられる所を事前に確認しておく」、「防災バッグをいつでも持っていけるようにしておく」、「あらかじめ、災害時の約束を家族でしておく」といった意見が次々と出され、日頃の備えの大切さに目を向け、いざというときのための防災意識を高めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 「大地震が起きた時、私たちにできることと、すべきこと」

講師 調布消防署員

第3～6学年

調布消防署員をお招きし、消火器訓練と担架作成訓練を行いました。

消火器訓練では、実際に火事の現場に遭遇した時には、まず、周りの人に知らせて助けを求め、一人で無理に対処することがないようにすることを教わりました。その後、消火器を現場に運び、安全栓を抜き、ノズルをしっかりと持って火元に向ける訓練をしました。また、毛布と棒を使って実際に担架を作り、担架の棒をしっかりと握りしめて友達を乗せて運ぶ体験をしました。

体験を通して、「消火器を使うのは難しそうだったけれど、意外とできた」、「いざという時に本当にこれができるのかという心配があったけれど、思ったよりできた」、「以前よりも防災について意識が高まった」、「地震が起きた時に自分の身を守るだけでなく、他の人を助けることができるかもしれない」といった感想が出されました。災害時に自分の身を守る自助と共に、周囲の人と互いに助け合う共助の気持ちが高まる体験活動になりました。

## 3-20 調和小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 大地震が発生した時の身の守り方を考えよう ～B-VRを活用して～

第3～6学年

東京都消防庁が作成した防災教育VR「B-VR」を活用して、教室で地震が起きた時に、どのようなことに注意し、行動すればよいかを考え、話し合いました。

日頃の避難訓練の経験を基に「避難時に必要な行動」を班ごとに話し合いながら、順番をプログラムしました。その後、経験したことのない大きな揺れの様子を「B-VR」で確認しました。机が激しく揺れ倒れたり、蛍光灯が落ちたりとその様子に児童は驚き、危機意識を高めていました。

また、映像を視聴後に、もう一度避難時の行動を振り返ったことで「机は対角に持つことが大切だね。」や「頭上などにも気を付けないといけないと思った。」など、避難時の行動を一層深めることができました。その後行われた避難訓練では、学んだことを生かし、机の持ち方などを意識して取り組むことができていました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防災啓発講話

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署員による、「日本は地震が多い国 過去の地震の被害を知る」についての動画を視聴して、防災の大切さについて考えました。過去に起きた地震の被害についての話では、地震の被害の実態を知り、改めて災害の怖さを知りました。

動画の中では、地震の時の行動や地震の備えについても話していただきました。学校だけでなく自宅にいる時の行動や備えについても理解を深めました。児童は、自助・共助の意識をもつとともに、日頃から備えていくことの大切さを感じているようでした。

児童の防災に対しての意識を高めていくよい機会となりました。

## 3-21 調布中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

1年生は東日本大震災により妻と娘、両親を失った佐々木清和さんの物語を描いた『ひまわり』という題材を基にして授業を展開しました。2年生は「命が生まれるそのときに」を題材に授業を行いました。3年生は東日本大震災の中でNHK取材班が取材した、命の誕生についての題材を基に授業を行いました。たくさんの命が奪われる中、その日に生まれた命があり、それはとても喜ばしいことだということを伝えるために、椅子を送るというプロジェクトを行ったという内容で、自分たちにもできることはないかと考えるきっかけとなりました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 起震車・煙ハウス体験

講師 調布消防署員

第3学年

小雨が時折降るなかでありましたが、3年生を対象に、調布市の輪番事業である消防署員による体験授業を行いました。起震車は代表の生徒（震度6弱）、特別に教員も（震度7）体験でき、普段では体験できない揺れで、生徒も教員も為す術がない様子でした。1年生は非常用持ち出し（1次の備え）、3日間命をつなぐ備え（2次の備え）の用品リストの例を見ながら、常に携帯できる「0次の備え」を班ごとに話し合っ発表しました。多種多様な持ち物が挙げられましたが、楽しみながらも「常備」を考えるきっかけになることができました。



## 3-22 神代中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

1年生は「ひまわり」という教材から、当たり前前の日常や家族の大切さを考え、身近な人の死や命の尊さについて考える生徒の姿が見られました。2年生は「命が生まれるそのときに」という教材から、生きていることの尊さについて、命の有限性や偶然性、必死に生きる姿勢、周囲への思いなど、さまざまな角度から考えることができました。3年生は「命の選択」という教材や尊厳死をめぐる新聞の投稿から、延命措置を了解した家族の葛藤や命の尊さについて考えました。11組（特別支援学級）では、「実際に震災が起こったら、自分たちに何ができるか」、「何を大切にするか」など、身近な生活の問題から課題設定し、命の大切さを考えました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防火防災に関する講話・訓練

講師 石巻市防災士協議会 武井 友佑 氏

全学年

石巻市防災士協議会の武井さんを招き、東日本大震災の経験や防災士としての活動から、「過去は過去」、「想定外を想定する」、「自分の住んでいる土地を知っておく」などをキーワードに、災害への備えの大切さを教えていただきました。多摩川の増水という身近な例も知り、生徒は「今まで起きたことがないから大丈夫だと思わず、想定外のことを想定して災害に備えることが大切だとわかった」、「帰ったら、もしもの時にどうするかということや、家から逃げる時にはメモを残すなど、家族と話し合おうと思った」など、講話と自分の生活を結び付けて考えることができました。



## 3-23 第三中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ, 大切さを考える授業

全学年

道徳では、各学年「命」に関する授業を行いました。1年生は「ひまわり」を題材に東日本大震災で被災した佐々木清和さんの話を基に考えました。生徒は日々の当たり前の生活のありがたさを改めて感じていました。2年生は「命が生まれるそのときに」を題材に「出産」、「震災」という生きているのが当たり前ではないと感ぜられる場面から、命の尊さを深く考えました。3年生は「あの日生まれた命」を題材に多くの命が失われた震災の中で生まれた命を見つめることを通して、命を大切にすることとはどういうことなのかを考えました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 防災に関する講話・訓練

講師 防衛省 自衛隊東京地方協力本部 府中分駐所長 近藤 貴人 氏

全学年

防衛省府中分駐所の近藤さんをお招きし、防災に関する講話を実施しました。1月に起きた能登半島地震の実際の動画も見ながら災害時の自衛隊の活動についてお話を聞きました。他にも自衛隊の方が重たい荷物を担いで必死に被災地に運ぶ姿や患者をへりに乗せる映像等があり、生徒にとってとても印象に残る内容でありました。また、自助・共助・公助の内容を学び、中学生が災害に大きな戦力として活躍できる人材であることを確認しました。全体を通して、災害に対する意識を高めるために実りある時間でした。



## 3-24 第四中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

各学年とも、震災を題材にした教材を用いて命の尊さ、大切さを考えました。

1年生「ひまわり」では、東日本大震災で家族を失った方が、「はるかのひまわり」を育てることをきっかけに語り部として活動している話を通して、命の大切さを考えました。

2年生「命が生まれるそのときに」では、震災を経験し「死」を身近に感じたフォトグラファーが、出産を撮ることをライフワークにしている話から、「生きる」ことについて考えました。

3年生「あの日 生まれた命」では、震災の日に生まれた子ども達へイスを送る『君の椅子』プロジェクトでイスを受け取った母子の話から、「命」への感謝について真剣に考えました。

映像資料やモバイル端末を活用しながら、教師からの発問を基に、生徒たちからの生きることの大切さや命の重さの意見についてグループ協議をし、自分の考えを深めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 多摩川が起こす水害に、地域で備える

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

多摩川の治水や台風・水害時の行動について、動画をもとに講話を聞きました。生徒にとって身近な存在の多摩川での、昭和49年の狛江の堤防決壊や、令和元年の東日本台風の被害の様子などについても紹介されました。調布は実際に被害の出た地域でもあり、真剣に講話を聞きました。また避難訓練では、首都直下型の地震を想定して経路確認、避難訓練を実施しました。全員が真剣に取り組み、自分たちの住む地域と災害を関連させて考えることで、防災意識の向上につながる一日になりました。引取訓練後、3年生対象(任意)で避難所体験を実施し、有事の際の対応を体験しました。



## 3-25 第五中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の大切さを考える授業

全学年

2時間目は道徳で「命の授業」を行いました。読んだ資料は、岩手県にある大槌中学校の東日本大震災に見舞われた当時、中学2年の生徒だった黒沢さんが書いた作文です。

作文の最後はこのように締めくくられています。「これから、この生活がうまく続いていくかは、正直わからない。でも、いろんな人達が私たちをささえてくれている。だから、みんな今日を笑顔で生きている。家族が一同となりがんばる日がくるまで、みなさん応援よろしくお願ひします。」

生徒たちは作文を読んだ後、黒沢さんへのお手紙を書くとしたら、どんなことを書くかという課題に対し、返事の手紙を書きました。生徒たちは地震の恐ろしさを知ると同時に、訓練の大切さや、何気ない日常のありがたみを改めて感じていました。授業後は防災の日の締めくくりとして、大きな地震を想定して校庭に避難し、引き取り訓練を行いました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 大きな地震による被害について地域で備える

講師 調布消防署員

全学年

1時間目は調布消防署の職員による講話の動画を視聴しました。地震大国である日本において、いつ起こってもおかしくない震災に備えることが大切です。動画では、阪神・淡路大震災から、東日本大震災、熊本地震など、これまでに起こった大きな震災の特徴や、災害状況について実際の被害の映像を交えながら、地震の怖さを痛感して学びました。

また、動画では実際に大きな地震が起きた時に、どんな行動をとるのが正しいのかを学びました。家にいるとき、学校にいるとき、どんな危険があるかを理解し、身を守るために、どのように行動をすればよいのか考えました。さらに地震の備えについても学びました。

動画のまとめとして、命を守る行動について、クイズ形式で、楽しく学ぶことができました。

## 3-26 第六中学校

### ◆ 「命」の授業

<b>命の尊さ</b>
全学年

- ・ 1年生 「エルマおばあさんからの『最後の贈りもの』」
- ・ 2年生 「命が生まれるそのときに」
- ・ 3年生 「あの日 生まれた命」

各学年、生命の尊さについて、「家族との関係」、「出産という瞬間」、「被災の中で生まれた希望」など、いかにして命を大切にしていくかを深く考えることができました。生徒からは、「家族や友達を笑顔にして、1日1日が楽しくなるようなことをさせたい、そうすれば私も楽しい毎日が送れると思いました。」、「明日を生きられるかわからないそんな日常の人がいる中で、こうやって毎日を平和に暮らせていることが尊いと考えました。」、「震災だけではなく、命の問題は世界中であるから、自分が少しでも力になれるように自分のできることをしたい。」という感想が挙がり、命の尊さについて一層理解を深めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

<b>① 防災啓発講話(動画視聴) ・ ② 避難所体験</b>	
講師 ① 調布消防署員 ・ ② 調布市職員・地域の方々	全学年

各教室で、調布消防署に作成いただいた防災啓発講話の動画を視聴し、防災の意識や家庭での必要な準備などを確認しました。

避難所体験では改めて災害に対して「正しい知識を持っていること」、「準備すること」、そして他人事ではなく、自分が当事者として考えていくことだと実感する機会となりました。

学校公開に参加した保護者からは、「普段ながらの防災意識と準備が大切であると再認識できる良い機会となりました。具体的な行動について、家族と話したいと思います。」、「大人である保護者でも再認識させられる防災の知識がたくさんあり、知っているつもりであっても時代の流れと共に変わる常識、勉強になりました。」という感想がありました。



## 3-27 第七中学校

### ◆ 「命」の授業

<b>あの日 生まれた命</b>
第3学年

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、たくさんの尊い命が失われました。しかしその中でも生まれる命はあります。失った命と生まれた命の狭間での葛藤、たくさんの人が複雑な思いで、毎日を過ごしていました。そのような人たちに贈られた小さな椅子があります。この椅子に込められたメッセージはどのようなものだったのでしょうか。災害を通じて命の尊さや、生まれてくる命への喜びをもう一度考えてみました。3年生は自分事としてとらえ、自分だったらどう思うか、どんなことをしてほしいと思うかを、一生懸命考えることができていました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

<b>「災害に対する備えと行動」</b>		
講師 防衛省 自衛隊東京地方協力本部 府中分駐所長 近藤 貴人 氏	全学年	

防衛省府中分駐所の近藤さんによる「災害に対しどのような心構えと備えをするべきなのか」をテーマとした講演を実施いただきました（第三中学校からオンライン配信）。特に「自助、共助、公助」の三つについて重点的に話をしてくださりました。実際の災害の時は、ほとんどが自助と共助によるもので、公助による助けは実際になかなか来ないというところから、普段の備えや、避難訓練など自分たちができることをしっかりとやっていくことの大切さを学ぶことができました。

また今年の1月1日に起こった能登半島地震から自衛隊がどのように救助に向かったのか、どのような活動をしていたのか、ニュースでは知ることができない話をしていただき、災害における救助活動のリアルな側面を生徒たちは真剣に聞いていました。これを機に家庭で話し合いをし、備えについてもう一度振り返ってみようという感想があり、生徒たちの災害に対するリテラシーが大きく向上された講演会となりました。

## 3-28 第八中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

各学年道徳の授業で「命の授業」を実施しました。1学年は、「東日本大震災から10年 被災地の写真スタジオで働いていた人の経験を描いた漫画が教えてくれること」を教材として授業を行いました。2学年は、「3.11を忘れない」の資料で、ある被災した中学生の作文「バイバイ」を使って授業を行いました。3学年は、中学校の卒業式で卒業生代表として「門出の言葉」を行った東日本大震災で被災した中学生の文章を資料とし、その当時の動画を視聴しながら授業を行いました。3年生のワークシートには、「当たり前で生活している今が、かけがえのない大切な時間だと思った」、「生きる決意、家族や先生方、仲間への感謝の気持ちが強いメッセージとして伝わってきた」などの感想がありました。各学年の授業において、生命を尊重する態度を養い、生命の大切さについて考えました。



### ◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

#### 多摩川が起こす水害に地域で備える

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

1校時は、京浜河川事務所提供の『多摩川が起こす水害に、地域で備える』の動画をもとに講話を聞きました。本校の近くには仙川があり、河川の水害について、より身近に感じると同時に、自分たちが取るべき行動や地域のために何ができるのかを真剣に考えていました。その後、避難訓練・引き渡し訓練を実施、避難所体験には、3年生とその保護者、教職員も参加しました。実際のプライベートスペースや仮設トイレを体験することができました。





# 〔資料〕

## 令和6年度 各学校実施内容(1～3校時)



「まちかど防水訓練車による消火訓練」 (第一小学校)

## 令和6年度 各学校実施内容(1～3校時)

各学校の実施内容を一覧でまとめています。

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
第一小学校	<p>通常授業 1～2年 ひまわり学級 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～5年 @各教室（動画視聴）</p> <p>まちかど防災訓練車による 消火訓練 講師：調布消防署員 6年 @校庭</p>	<p>「命」の授業 1～6年 ひまわり学級 @各教室</p>	
第二小学校	<p>防災啓発講話 講師：調布消防署員 1, 3, 5年 @各教室（動画視聴）</p> <p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 2, 4年 @各教室（動画視聴）</p> <p>「命」の授業 6年1組 @教室</p> <p>災害用伝言ダイヤル171 体験 講師：NTT東日本 東京武蔵野支店職員 6年2組 @教室</p>	<p>「命」の授業 1～5年, 6年2組 @各教室</p> <p>災害用伝言ダイヤル171 体験 講師：NTT東日本 東京武蔵野支店職員 6年1組 @教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長 保護者による引取訓練</p>
第三小学校	<p>通常授業 1～2年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室（動画視聴）</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
八雲台小学校	<p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～3年 @各教室（動画視聴）</p> <p>防災啓発講話 講師：調布警察署員 4～6年 @体育館</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	
富士見台小学校	<p>各学年と交流授業 かしわ学級 @各実施場所</p> <p>生活安全に関する授業 1～2年 @各教室</p> <p>避難所運営について 3年 @防災倉庫の前</p> <p>防災啓発講話 テーマ：震災に備えるための心構え 講師：竹谷 正明 氏 （特定非営利活動法人みんなのコード） 4～6年 @体育館</p>	<p>「命」の授業 1～6年 かしわ学級 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長 保護者による引取訓練</p>
滝坂小学校	<p>通常授業 1～2年 わかくさ学級 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：各担任 3～6年 @各教室（動画視聴）</p>	<p>「防災に関する授業」 1～6年 わかくさ学級 @各教室</p>	

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
深大寺小学校	<p>「防災に関する授業」 (防災ノート活用) 1～3, 5～6年 @各教室</p> <p>「防災に関する授業」 (消火器訓練) 講師：地域学校協働本部, 調布消防署員 4年 @校庭</p>	<p>「命」の授業 (非常食体験) 1～6年 @各教室</p>	
上ノ原小学校	<p>通常授業 1～2年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	
石原小学校	<p>防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長 保護者による引取訓練</p>
若葉小学校	<p>「命」の授業 1～3年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：調布消防署員 4～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～3年 @各教室 (動画視聴)</p> <p>「命」の授業 4～6年 @各教室</p>	

学校名	1 校時目	2 校時目	3 校時目
緑ヶ丘小学校	通常授業 1～6年 @各教室	「命」の授業 1～6年 @各教室	
染地小学校	通常授業 1～2年 @各教室  防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長 保護者による引取訓練
北ノ台小学校	「命」の授業 1～6年 たんぽぽ学級 @各教室	通常授業 1～2年 たんぽぽ学級 @各教室  防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @体育館（動画視聴）	
多摩川小学校	通常授業 1～2年 @各教室  防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	

学校名	1 校時目	2 校時目	3 校時目
杉森小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	
飛田給小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～5年 @各教室（動画視聴）  防災啓発講話 テーマ：水害について 講師：鹿島建設株式会社技 術研究所職員 6年 @大多目的室	「命」の授業 1～6年 @各教室	
柏野小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長 保護者による引取訓練
国領小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～5年 @各教室  VR防災体験車体験 講師：調布消防署員 6年 @正門前駐車場	
布田小学校	通常授業 1～2年 @各教室  「命」の授業 3～6年 @各教室	「命」の授業 1～2年 @各教室  防災啓発講話 講師：各担任 3～5年 @各教室（動画視聴）  消火器訓練・担架作成訓 練・防災教室 講師：調布消防署員 6年 @ロータリー・1階多目 的室	

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
調和小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～5年 @各教室（動画視聴）  「命」の授業 6年 @各教室	「命」の授業 1～5年 @各教室  防災啓発講話 講師：調布消防署員 6年 @各教室（動画視聴）	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長 保護者による引取訓練
調布中学校	「命」の授業 1～3年 @各教室	防災啓発講話 講師：各担任 1～2年 @各教室（動画視聴）  起震車，煙体験ハウス体験 講師：調布消防署員 3年 @校庭	
神代中学校	防災啓発講話 テーマ：自分の身に起こるかもしれない東京の話 講師：武井 友佑 氏 （石巻市防災士協議会） 1～3年 @各教室（ライブ配信）	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第三中学校	防災啓発講話 テーマ：災害に対する備えと行動 講師：近藤 貴人 氏 （防衛省自衛隊東京地方協力本部府中分駐所長） 1～3年 @第1体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第四中学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～3年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～3年 @各教室	

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
第五中学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第六中学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第七中学校	「命」の授業 1～3年 @各教室	防災啓発講話 テーマ：災害に対する備えと行動 講師：近藤 貴人 氏 （防衛省自衛隊東京地方協力本部府中分駐所長） 1～3年 @各教室（第三中学校からライブ配信）	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長 保護者による引取訓練
第八中学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～3年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～3年 @各教室	

刊行物番号
-------

2024-83
---------

**令和6年度  
調布市防災教育の日 実施結果報告書**

発行日 令和6年8月  
発行 調布市教育委員会  
編集 調布市教育委員会教育部教育総務課  
〒182-0026 調布市小島町2-36-1  
電話 042-481-7465  
印刷 庁内印刷